

官令全報

第六十三號

明 治 十 四 年 十 月 刊 行				
太 布	太 達	內 甲	內 乙	內 丙
自第拾五號至第拾九號	自第拾八號至第拾七號	自第拾四號至第拾五號	自第拾三號至第拾四號	自第拾三號
陸 布	陸 甲	陸 乙	海 乙	海 甲
自第拾三號至第拾四號	自第拾三號至第拾四號	自第拾五號至第拾六號	自第拾九號	自第拾九號
司 甲	司 乙	司 丙	司 丁	司 戊
自第拾五號	自第拾四號至第拾五號			
明 治 十 四 年 第 一 十 月 之 部				
司 目 誌	雜 報	附 錄	大 太	工 文
明治六年前第拾四號	貳拾件	都部目錄	五拾六件	壹拾件

特 30

東京新聞

5

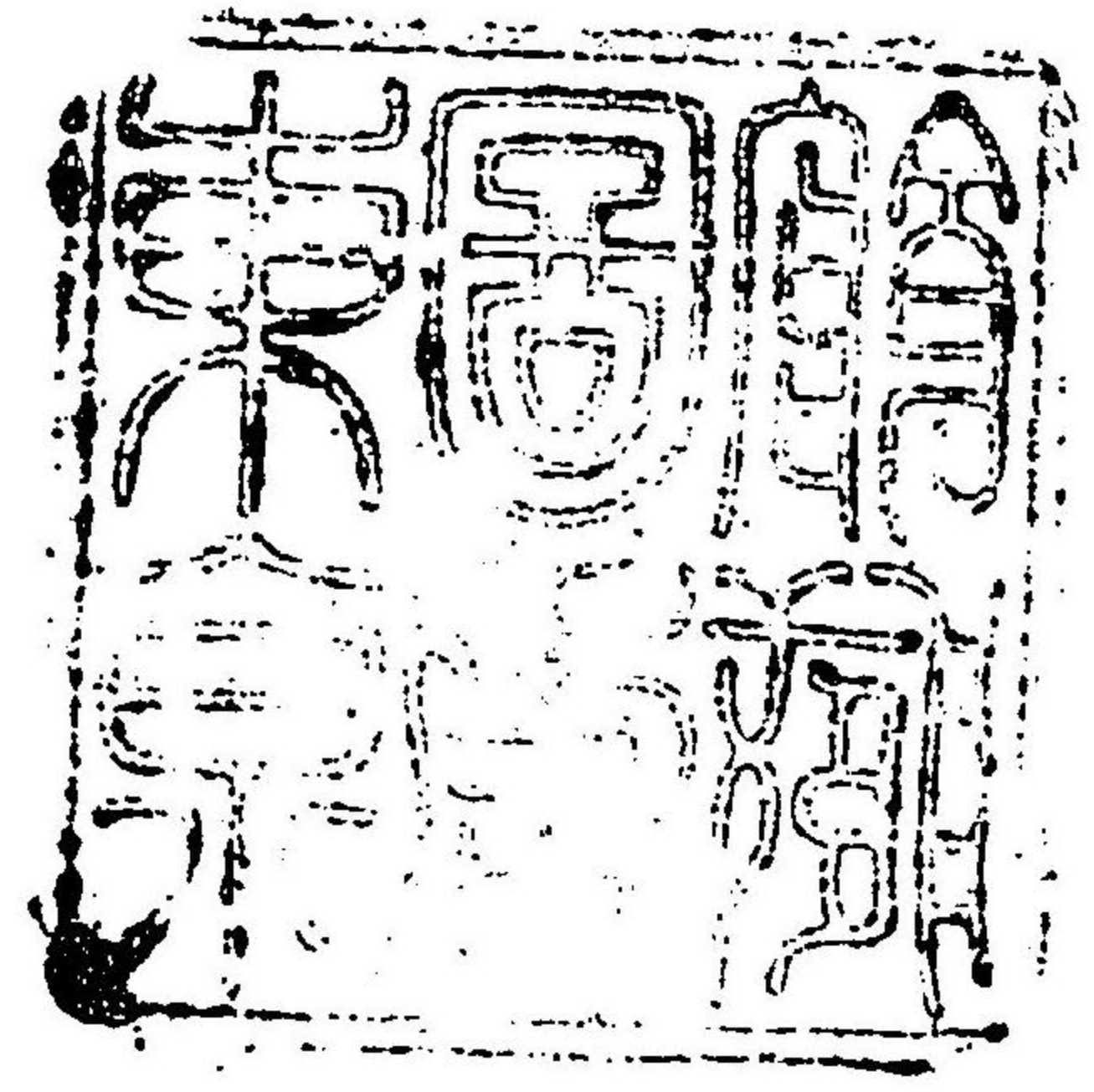
明治十四年十月三十一日刊行

全報

第六十三號

東京神田區神田五軒町十八番地

弘令社發兌



明治四年十一月之部目次

工	文	大	太
壹件	貳件	貳件	五拾六件

官令全報第六十三號目錄

明治十四年十月卅一日

弘令社發兌

〔太政官〕御布告

- 勅諭 明治二十三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開クノ事 三十一
- 第五拾壹號 英國ト爲替定約ヲ取結ヒ施行期限ノ事 一
- 第五拾貳號 鳥取縣管内裁判事務ヲ松江裁判所ニ屬スルノ公布 十月 存目
- 第五拾三號 各裁判所位置及管轄區畫改正并施行期限ノ事 十月 存目
- 第五拾四號 新法實施ニ付當分輕罪裁判ノ開廳手續ヲ定ム 四日 十五
- 第五拾五號 治罪法第七十三條末文以下陪席判事補充判事ノ指定方ノ事 二十九
- 第五拾六號 小笠原嶋裁判事務ノ事 三十
- 第五拾七號 伊豆七島全上 三十
- 第五拾八號 傳染病豫防規則中へ一項追加ノ事 三十
- 第五拾九號 治罪法中勾引セシメタル被告人夜間留置場ノ事 三十一
- 號外 故一品淑子内親王來廿日京都府下愛宕郡今熊野村へ御葬送ノ公布 十月 存目

〔太政官〕御達

- 第八拾壹號 監獄則更定 三十六
- 第八拾四號 內國勸業博覽會事務局廢シ并殘務取扱ノ事 百十九

第八拾五號 大藏省租稅局松江出張所収稅區畫中へ追加ノ事 百十九
 第八拾六號 治罪法實施ニ付訟廷取締ノ爲メ巡查押丁ニ看護セシムルノ事 百十九
 第八拾七號 神宮並官國幣社職員中へ追加ノ事 百十九

丙務省 御布達

甲 第拾號 本年四月ヨリ六月迄ノ版權授與返納書目ノ事 三十二
 乙 第四拾三號 賣藥取扱手續末項刪除ノ事 三十二
 乙 第四拾四號 濟貧恤窮施行濟屈方書式改正 (別冊ハ七十
 乙 第四拾五號 難破船舶費用償還方合衆國政府ト結約批准ノ事 三十三
 乙 第四拾六號 堤塘使用料ノ事 三十四
 乙 第四拾七號 河港道路橋梁工費金高總計帳等書式改正并整理期限ノ事 三十五
 乙 第四拾八號 本月戊第三號ノ件ヲ達スルノ事 三十六
 乙 第四拾九號 傳染病云々(全報六十四號ニ載ス) 百四
 乙 第五拾壹號 府縣監獄看守月俸給與規則及旅費支給定メ方ノ事 百二十
 戊 第 三號 教員教會所說教所ニテ神社寺院ノ所爲ヲ禁スルノ事 百四
 正 誤 本年中第九號布達中(杭材)ヲ「杭杖」ト訂正ス(九月廿四日) 存目
 大藏省 御 達
 乙 第三拾三號 租稅局員諸稅監查ノ爲メ巡回ノ節提携印章配付ノ事 百四

乙 第三拾四號 國稅金收領順序中第十一條更正ノ事 百五

陸軍省 御布達

布 第 貳號 陸軍警察假規則ヲ定ムルノ事 百五
 達 甲 第廿三號 豫備後備兵服役中北海道ニ移住ノ者召集差免等ノ事 百十四
 達 甲 第廿四號 古賀長三郎村上作大郎熊本鎮臺ニテ入獄中越獄逃走 十月 存目
 六日

海軍省 御 達

乙 第 五號 海軍々醫寮并武庫司旗章ハ改稱等ノ事 百十五
 乙 第 六號 海軍機關學校生徒徵募規則ヲ定ムルノ事 七十二

農省務省 御 達

乙 第九號 度量衡檢査員數計算表雛形ヲ定メ其調製差出期限等ノ事 百十五

工部省 御 達

第 壹 號 諸鑛山借區稅上納期限ノ事 百十九

司法省 御布達

甲 第 五 號 司法警察事務上時宜ヨリ巡查ヲノ警部ノ代理ヲ爲サシム 百二十
 丁 第 拾 四 號 訟獄審理表雛形更定并差出期限ノ事 百二十
 丁 第 拾 五 號 勘解表雛形云々同上 百二十

司法省日誌明治六年前第十四號 目次

三重縣 伺 身代限返辨不足殘金アル證券ノ事
 新治裁判所 伺 華士族卒へ掛金穀貸借裁判ノ件ニ付疑義
 京都裁判所 伺 罪案凡例第廿四條賦金計算方ノ事
 大分縣 伺 金穀貸借裁判受不區分ノ事
 磐前縣 伺 田畑貸借ノ儀ニ付全上
 京都裁判所 伺 犯姦處分ノ事

一 一 三 三 四 四

明治四年辛未十一月之部目次

〔太政官〕

明治四年十一月

○ 履歷表年齢記載ノ事
 ○ 姫路豐岡二縣被置ノ事
 ○ 平縣外十縣被置ノ事
 ○ 歐米各國へノ使節從者定限ノ事
 ○ 盲人ノ官職廢止ノ事
 ○ 賞典救助等御委任ノ外伺出ノ事
 ○ 石高拜借金正金等取交上納不苦事
 ○ 領事官被置ノ事
 ○ 大嘗祭豐明節會休暇ノ事

一 一 二 二 二 三 三 三



○ 大嘗祭ニ付御神事ノ事
 ○ 同上勅奏判任官參朝ノ事
 ○ 東京府下測量ノ爲ノ目標旗號等ノ事
 ○ 周防灘四國邊英船測量ノ事
 ○ 豐明節會ニ付政府判任官出頭ノ事
 ○ 同上麴香問非役華族參朝ノ事
 ○ 同上諸省奏任官使府縣勅任官參朝ノ事
 ○ 大嘗祭官員齋場參拜ノ事
 ○ 豐明節會使府縣奏任諸省判任官以下各廳ニテ酒饌下賜ノ事
 ○ 姫路縣ヲ飾磨縣ト改稱ノ事
 ○ 海軍資金午年分皆納ノ事
 ○ 新貨幣定位ノ通金札ト取交通用ノ事
 ○ 大手坂下締切後鑑札ノミニテ通行被許ノ事
 ○ 政府奏任以上齋場參拜並豐明節會參朝ノ事
 ○ 同判任官齋場參拜ノ事
 ○ 橫須賀造船所行幸ノ事
 ○ 大嘗祭ニ付政府判任官兩三人出頭ノ事
 ○ 二本松縣ヲ福島縣ト改稱ノ事
 ○ 宮家令等級被定ノ事

十一月九日

十一月十四日

三三三 四四四 五五五 五五五 六六六 六六六 存目 六

足柄縣外一府十縣被置ノ事	六
廢府縣官員從前ノ廳ニテ事務取扱ノ事	七
小倉縣外十縣被置ノ事	八
齋場參拜ニ付各廳印鑑ヲ以通行ノ事	八
名東縣外四縣被置ノ事	九
鳥取縣外七縣被置ノ事	九
靜岡縣外二縣被置ノ事	十
豐明節會祝砲執行ノ事	十一
舊藩藩へ金穀調達ノ者證書寫等可差出ノ事	十二
橫須賀廿一日行幸廿三日還幸ノ再達	十二
諸縣負債元縣廳所屬ノ新置廳消却并飛地居住ノ士卒ハ新置廳ノ貫屬タルヘキ事	十二
敦賀縣外十縣ヲ置カルノ事	十二
大阪府外一縣被置ノ事	十三
内豎被置九等官ノ事	十三
舊藩へ金穀調達ノ者取調ノ儀各廳ヨリ發令後卅日限可申立ノ事	十四
東京へ積廻リ酒冥加金上納ニ不及ノ事	十四
京都府外九縣被置ノ事	十四

良材伐木勝手ノ事	十六
良材取調兵部省官員出張無之ノ事	十六
府縣學校文部省管轄ノ事	十六
來ル廿八日日比谷練練場ニ於テ陸軍天覽ノ事	十六
各縣伺書等令參事實印押捺可致ノ事	十六
府縣官等被定ノ事	十六
今廿八日陸軍練練天覽御延引ノ事	十六
平縣ヲ磐前縣ト改稱ノ事	十六
海軍旗章御改定ノ事	十六
令參事實印當分從前ノ通ノ事	十六
大藏省	十七
月々勘定帳取調方一定ノ事	十七
入用米金凡積餘形ノ事	十七
明治四年十一月	十七
文部省	十九
藩費ノ學校教員及經費取調ノ事	十九
地方公費學校病院等所藏ノ圖書古器物類取調ノ事	十九
明治四年十一月	十九
工部省	十九
長門國六連島燈明臺落成ノ事	十九
明治四年十一月	十九

雜報之部目次

明治十四年十月

〔太政官〕 御達

勅 諭 立憲政体舉行云々ニ付百揆ノ叙整頓ヲ要スルノ事 十五

參議大隈重信本官ヲ免スルノ事 一

府縣營繕費ノ支出ニ係ル取計方ノ事 一

開拓使所屬官有物拂下聞届ノ指令詮議ノ次第アリ取消ス 十二
存目

〔内務省〕 御達

電信郵便書狀及運送物并發遣ノ事務手續ノ事 一

各廳へ發遣ノ公文書体ヲ定ム 一

樺戶集治監ノ經費并開廳費等下渡ノ事 二

縣會議員死亡代員石川縣ノ伺へ指令更定ノ事 二

〔大藏省〕 御達

銀行ヨリノ伺書宛名ノ事 二

局長ノ代理タルヲ得ルモノヲ定ム 二

〔陸軍省〕 御達

士官學校生徒入校及卒業期限改定ノ事 二

屯田豫備兵解隊後徵兵相當ノ者平時免役ノ事 三

所勞届官紙拂下等ノ事 三

○〔農商務省〕 御達

山林局各地出張所ノ名義改稱ノ事 三

所轄ノ博覽會及共進會開設ノ節事務處辦心得方ノ事 三

山林局出張所處分心得ヲ定ムルノ事 三

山林局各課事務條項ヲ定ルノ事 六

〔警視廳〕 御達

內國勸業博覽會事務局廢止ニ付配置巡查引拂期日ノ事 七

巡査外套着用ノ事 八

民事訴訟ニ關スル人民拘引ノ節醫師雇揚等ノ費用ノ事 八

行旅病ニ罹リ郷里へ遞送願ヒノ者送付方ノ事 二十六

○〔伺指令〕

內務省 區町村會法ノ事 八

內務省 營業稅雜種稅規則ノ事 九

內務省 備荒儲蓄法ノ事 十

內務省 鳥取縣位置ノ事 十一

陸軍省 憲兵條例中疑件 十二

農商務省 諮問會規則中疑件 十三

陸軍省 輕犯ノ軍人軍屬處分方ノ事 十四

陸軍省 火工下長犯罪降等該當官ノ事 十六

石川縣 徵兵規避ノ者處罰并徵集方ノ事 十六

石川縣 伺	徵兵免否取調方ノ事	十七
滋賀縣 伺	徵兵同上	十七
同縣 伺	同上	十七
朽木縣 伺	同上	十八
兵庫縣 伺	徵兵免役料上納頗濟後離縁復籍ノ實家貧困ニ付納金額取消	十九
廣島縣 伺	後備兵點呼召集法ノ事	十九
長野縣 伺	常備服役中ノ者身上異動聽許ノ事	二十
東京鎮臺 伺	隊附下士卒病症ニ因リ轉地療養地所ノ事	二十
陸軍教導團 伺	軍樂隊ニ休操術ノ一科増加ノ事	二十
憲兵本部 伺	憲兵各分屯所ニ小使ヲ置クノ事	二十一
戶山學校 伺	體操卒ヲ外宿セシムルノ事	二十一
宮城縣 伺	陸軍武官結婚條例中疑義ノ事	二十一
陸軍會計局 伺	佛國留學生取締後ノ諸學校等ニ往復ノ軍貨支辨方ノ事	二十二
陸軍砲兵局 伺	在役者免除ノ請願許否ノ事	二十二
熊本縣 伺	町村立小學校ノ校長ニ辭令書交附方ノ事	二十三
茨城縣 伺	茨城縣教育會規則ノ事	二十三
西ッ谷區 伺	戶籍ノ件	二十四
本郷區 伺	營業稅雜稅賦課規則中疑件	二十四
山下耕平 伺	戶數割稅ノ事	二十四
芝區 伺	徵兵取調ノ事	二十五
○附錄	都鄙日乘	二十五

畢

官令全報第六十三號 明治十四年 弘令社發兌

大(第五十一號) (輪廓附)

今般英國ト郵便爲替定約別冊ノ取結相成本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事
明治十四年九月廿九日 太政大臣三條實美

帝國日本驛遞局ト大英國驛遞院トノ間ニ取結ヒタル郵便爲替定約
第一條 爲替交換ノ事

帝國日本ト大英國トノ間ニ「ブリンジシ」ヲ經テ每週出發ノ郵便ヲ以テ爲替ヲ執リ行フ
ヘシ

第二條 爲替証書ノ金額ハ英國貨幣「ポンド、ステルリング」ヲ以テ記載スヘキ
事附日本郵便局ニ於テ金額引直シ方ノ事

爲替証書ノ金額ハ双方ニ「ステルリング」ヲ以テ記載スヘシ而シテ兩國ノ間貨幣ノ相場
ニ時々昇降アルカ爲メ日本驛遞局ハ適當ノ割合ヲ以テ爲替金額ヲ引直シ得ルコトヲ以テ
約束ス即チ英國ニ爲替ヲ取組ム爲メ日本驛遞局ニ於テ受領シタル金員ハ爲替ヲ振出ス
時ノ相場ヲ以テ「ステルリング」ニ引直シ又日本ニテ拂渡ス爲メ英國ヨリ振出シタル爲
替ノ金額ハ日本驛遞局ニ於テ之ヲ拂渡ス前日本貨幣ニ引直スヲ得ヘシ

第三條 爲替証書一通ノ金額制限ノ事
爲替証書一通ノ金額ハ双方ニ「ポント」ヲ超過スヘカラス

二
第四條 「ペンニー」以下ノ金額ヲ爲替証書ニ記載スヘカシカル事

「ペンニー」以下ノ端數金額ハ爲替証書ニ掲載スヘカラス

第五條 爲替金ハ金貨又ハ金貨ニ最近ノ價格ヲ以テ拂渡スヘキ事

公衆ヘ爲替ヲ拂渡スコ方リ銀貨ノ昇降ヨリシテ其拂高ニ異同ヲ生セサラシメンガ爲メ
爲替金ハ凡テ金貨又ハ金貨ニ最近ノ價格ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ

第六條 手数料ノ事

英國驛遞院并ニ日本驛遞局ハ雙方ニ其振出ス爲替手数料ノ割合ヲ時々更定スルノ權ヲ
有ス

手数料ハ凡テ振出局ノ收入トス但シ日本驛遞局ハ日本ヨリ振出シ英國ニ於テ拂渡シタ
ル爲替金總額ノ千分ノ七半ノ歩合金ヲ英國驛遞院ヘ拂フヘシ又英國驛遞院ハ英國ヨリ
振出シ日本ニ於テ拂渡シタル爲替金總額ヨリ前同様ノ歩合金ヲ日本驛遞局ヘ拂フヘシ

第七條 爲替取組ハ爲替取扱局ニ限り之ヲ取扱フヘキ事

爲替ハ兩國ニ爲替取扱局ト定メタル局ニ限り之ヲ取扱フヘシ而シテ其局名ハ之ヲ目錄
ニ製シ兩國互ニ交換スヘシ

若シ兩國中爲替取扱局ヲ變更スルコトアレハ其變更シタル一方ヨリ他ノ一方ヘ通知スヘ
シ

第八條 爲替証書ニ登記スヘキ條件ノ事

爲替ハ差出人及ヒ受取人ノ氏名又差出人若シシハ受取人會社組合ナレハ其名號及ヒ差

出人ノ宿所等ヲ差出人ヨリ申立ルニ非サレハ之ヲ振出サ、ルヘシ
但シ差出人若シシハ受取人ノ名稱ヲ差出人ヨリ一層詳細ニ陳述セル場合ニ於テハ其陳
述スル通りヲ通知書ヘ記載スヘシ

第九條 爲替証書用紙ノ事

爲替証書及ヒ通知書ハ附録ニ掲グル甲號雛形ニ從テ之ヲ調製スヘシ

第十條 爲替証書ハ差出人ヘ交付スヘシ

爲替ヲ振出スルハ其証書ヲ差出人ヘ交付シ差出人ノ費用ヲ以テ之ヲ受取人ヘ遞送セシ
ムヘシ

第十一條 再度ノ証書發行ノ事

爲替証書紛失シ或ハ破損シ或ハ届先ヘ達セサル場合ニ於テ緊要ナル條件ヲ書面ニ認メ
受取人ヨリ爲替拂渡國ノ爲替取扱本局ヘ出願スルキハ再度ノ証書ヲ振出スヘシ而シテ
此場合ニ於テ其局ハ再度ノ手数料ヲ請求スルヲ得ヘシ但シ郵便遞送中ニ証書ノ紛失セ
シキハ此限ニアラス

第十二條 爲替ノ拂渡ヲ停止スル事

受取人ヨリ緊要ノ條件ヲ申立爲替拂渡ノ停止ヲ請願スルキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第十三條 受取人等ノ氏名書換及ヒ其他更正ノ件ハ振出國ニ於テ取扱フヘキ事

爲替受取人若シシハ差出人ノ氏名ニ誤謬アリテ其改正ヲ要シ或ハ差出人ニ於テ爲替証
書ノ金額拂戻ヲ請願セントスルキハ差出人ヨリ其爲替ヲ振出シシ國ノ爲替本局ヘ申立

ヘシ此場合ニ於テ該局ハ再度ノ手数料ヲ領收スルヲ得ヘシ但シ爲替ヲ取扱ヒシ後同
過誤アリタルカ爲メニ此請願アルキハ此限ニアラス

第十四條 爲替金拂戻ノ事

爲替金ハ其証書初度ノ發行ト再度ノ發行トヲ論セズ拂渡國ニ於テ未タ其爲替金ヲ拂渡
サ、ル旨且ツ其通知書ハ取消シタル旨ヲ拂渡國ノ爲替本局ヨリ通知アリテ其旨ヲ証明
シタル後ニアラサレハ振出局ニ於テ之ヲ差出人ヘ拂戻サ、ルヘシ

第十五條 爲替証書ノ効力ヲ失フ事

爲替金ハ証書ヲ振出シタル月ノ翌月ヨリ十二月間即チ翌ハ一月ニ振出シタル証書ナ
レハ其翌年一月迄ニ受取ラサレハ之ヲ請求スルノ權利ヲ失フヘシ但シ特別ノ事情アリ
テ爲替拂渡國ノ驛遞局ニ於テ其請求ヲ許諾スル場合ニ於テハ此限ニアラフ拂渡ヲ爲サ
スシテ存留シタル爲替金ハ拂渡國ノ所得ニ歸スヘシ

第十六條 通知書及ヒ通知書ノ目錄遞送方ノ事

英國ヨリ日本ヘ振出シタル爲替ノ通知書ハ倫敦ノ爲替本局ニ於テ附録乙號雛形ニ因リ
調製セシ目錄ヘ記入シ倫敦ノ日附印ヲ捺捺シテ此目錄ト共ニ「プリンヤシ」ヲ經テ毎週
出發ノ郵便ヲ以テ橫濱郵便局ヘ遞送スヘシ橫濱郵便局ハ其通知書及ヒ目錄ヘ日本貨幣
ニテ仕拂フヘキ金額ヲ掲ケ之ニ印章ヲ捺捺シ且其爲替金額ヲ拂渡スニ付必要ノ手續ヲ
ナスヘシ

又日本ヨリ英國ヘ振出シタル爲替ノ通知書モ前同様ノ手續ニ從ヒ橫濱郵便局ニ於テ乙

號雛形ニ因リ調製シタル目錄ニ記入シ且ツ各証書ノ金額ヲ兩國ノ貨幣ニテ之ニ登記シ
其局ノ日附印ヲ捺捺シテ此目錄ト共ニ「プリンヤシ」ヲ經テ毎週出發ノ郵便ヲ以テ倫敦
爲替本局ヘ遞送スヘシ倫敦爲替本局ハ之レニ局用ノ日附印ヲ捺捺シ且其爲替金額拂渡
ニ付必用ノ手續ヲ爲スヘシ

目錄ハ其差立ノ順次ニ從ヒ第一第二第三第四等ノ番號ヲ付シ各年ノ始メニ於テハ第一
號ヨリ始ムヘシ且甲國ノ目錄乙國ニ達スルヒハ乙國ハ其後始メテ遞送スヘキ目錄中ニ
甲國ノ目錄領收ノ旨ヲ記載スヘシ

通知書及ヒ目錄ノ本書紛失等ノコヨリ不都合ヲ生セサラシメンカ爲メ兩國互ニ次便ヲ
以テ前便遞送セシ目錄ノ副書ヲ送致スヘシ

第十七條 日本驛遞局ニ於テ調整ノ總計表ヘ記載スヘキ條件ノ事

一ヶ月分ノ目錄ヲ日本ヨリ差立濟ノ後日本驛遞局ハ速ニ附録丙號及ヒ丁號表ニ從テ月
次計算表ヲ調製スヘシ而シテ丁號表ノ半面ヘハ其月ノ間日本ヨリ發セシ各目錄ノ金額
總計ト第六條ニ定メタル千分ノ七半ノ歩合金ト及ヒ其月ノ間英國ニテ拂戻スヘキ証書
ノ金額トヲ英國ノ貸高トシテ記載シ又他ノ半面ヘハ其月ノ間英國ヨリ受取リタル各目
録ノ金額總計ト第六條ニ定メタル千分ノ七半ノ歩合金ト及ヒ其月ノ間日本ニテ拂戻ス
ヘキ証書ノ金額トヲ日本國ノ貸高トシテ記載スヘシ

右ノ通り相對照シテ生スル處ノ差引殘額ハ其爲メ設ケアル項目ノ部ニ記載スヘシ
毎年一月ヨリ十一月迄ノ間ハ前文ノ手續ヲ以テ取扱ヒ十二月ニ至テ別ニ總計表ヲ調製

シ其年一月ヨリ十二月三十一日迄ニ日本ヨリ英國へ振出シタル爲替ノ總額ト英國ヨリ日本へ振出シタル爲替ノ總額トチ之レニ記載スヘシ此總計表ハ正副二通ヲ製シ日本驛遞局ヨリ英國驛遞院へ送付スヘシ但シ其一通ハ承諾ノ上之ヲ日本驛遞局へ返付スヘシ

第十八條 差引殘金仕拂方ノ事

日本驛遞局ヨリ英國驛遞院へ對シ總計表ノ差引殘額ヲ仕拂フニハ總計表ヲ送付スルト同時ニ之レヲ遞送スヘシ

又英國驛遞院ヨリ日本驛遞局へ差引殘額ヲ仕拂フ場合ニ於テハ總計表ノ寫ヲ返付スルト同時ニ之ヲ遞送スヘシ

此差引殘額日本ノ貸高トナリタルハ橫濱へ宛又英國ノ貸高トナリタルハ倫敦府へ宛仕拂ヲナスヘシ但此金額ハ必ス之ヲ受取ル國ノ貨幣コテ仕拂フヘキモノトス

第十九條 拂濟証書ハ仕拂ヲ爲シタル國ニ保存スヘキ事

拂濟証書ハ双方ハ其証書ノ金額ヲ仕拂ヒシ國ニ保存スヘシ

第二十條 通知書ニ爲替取扱本局ノ捺印ナキ爲替証書ハ其仕拂ヲ爲スヘカラサル事

爲替金ハ兩國ハ其通知書ノ到着後ニアラサレハ之ヲ拂渡スヘカラス且ツ其通知書ニ振出シ拂渡シ兩國ノ爲替本局ノ捺印アルコ非レハ之ヲ拂渡スヘカラス

第二十一條 條目追加及ヒ改良ノ事

兩國ノ驛遞長官ハ前定約ノ旨趣ニ牴觸スルニ非レハ詐偽ヲ防キ或ハ一般ニ爲替ノ事業ヲ改良スヘキ目的ヲ以テ新ニ條目ヲ増設スルノ權アルヘシ但シ甲國ニテ増加セシ條目

ハ必ス之ヲ乙國驛遞長官へ通知スヘシ

第二十二條 爲替手數料ヲ増加シ或ハ爲替証書ノ振出ヲ停止スル事

英國若シシハ日本ノ商人ノ此爲替ヲ以テ金員ヲ遞送スルモノ夥多コシテ隨テ其金員巨額ニ至ルルハ適宜其手數料ヲ増加シ若シハ一時全ク其振出ヲ停止スルノ權アルヘシ

第二十三條 定約ノ開設及ヒ其廢止ノ事

此定約ハ一千八百八十一年十月一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國へ廢止ノ報知ヲ爲シタル日ヨリ十二ヶ月間効力ヲ有スヘシ

此定約ハ二通ニ製シ一方ハ明治十四年七月二十五日東京ニ於テ記名調印シ又一方ハ千八百八十一年五月十日倫敦ニ於テ記名調印スルモノ也

驛遞總官 前 島 密 印
英國驛遞總長 ヘンリー・フォーセット 印

甲號雜形(一)

第 號

振出	日
局ノ	本
印	

ボ	ン	ド	シ	ー	ン	ン	バ	ン	ニ

八

郵便爲替證書

一英金 ポンド シルリング ペンニー
右ハ拙者ヨリ相廻シ置候郵便爲替通知書ニ記載セシ氏名ノ者へ可被拂渡候也

郵便局長

郵便局

御中

爲替金受取人此下へ其

氏名ヲ詳記スヘシ但シ

會社組合ナレハ其名號

ノミモテ足レトス

前書ノ金額正ニ受取候也

受取人

仕拂
局ノ
印

此証書ヲ振出シタル月ノ翌月ヨリ十二ヶ月間ニ爲替金ヲ受取ラサルキハ其金額受取ノ權利ヲ失フモノトス

何人タリモ此証書ヲ差出シタル者へ既ニ爲替金ヲ拂渡シタル後更ニ其受取方ヲ請求スルモノアリモ郵便局ニ於テ一切關係セサルヘシ
此證書ヲ截斷或ハ毀損シタルキハ爲替金ヲ受取ルヲ得サルモノトス

甲號雛形(二)

第 號

日 振出 局ノ 印	ポ ン ド	シ ル リ ン グ	ペ ン ニ ー
本			

一英金 ポンド シルリング ペンニー

右ハ當局ヨリ其局へ向ケ振出候間此段及通知候也

郵便局長

郵便局

御中

九

爲替金
受取人
氏名

爲替金
差出人
氏名

丁號 年 交

千八百

帝國日本ト大英國トノ間ニ

日本國ノ貨高	金額	
英國ヨリ振出シ日本ニ於テ仕拂フヘキ證書金額		
目録第號		
全		
全		
全		
全		
歩合金百分一ノ四分ノ三		
拂戻シ證書ノ金額		
日本ノ貨高 總計		
差引英國ヨリ受取ルヘキ高		

大〔第五拾三號〕 (輪廓附)
 各裁判所ノ位置及管轄ノ區畫別表ノ通改正シ明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事
 明治十四年十月六日
 太政大臣三條實美

裁判所一覽表

五十

東		控訴
東京		始審
四谷區	麹町區	治安
淺草區	下谷區	府縣
京橋區	日本橋區	國名
東京府		
武藏		
日本橋區	京橋區ノ内	區
下谷區	神田區ノ内	郡
淺草區	本所區ノ内	名
ノ内	北豐島ノ内	
ノ内	南足立南葛飾	
ノ内	神田區ノ内	
ノ内	牛込區	
ノ内	南豐島	
四谷區	赤坂區	
荏原ノ内	東多摩南豐島ノ内	

第六十三号

裁		訴											
濱松	静岡	前橋		熊谷		浦和	宇都宮	栃木					
掛川	濱松	沼津	下田	静岡	太田	高崎	前橋	大宮	熊谷	浦和	宇都宮	栃木	
静岡縣		静岡縣		群馬縣		埼玉縣	埼玉縣	栃木縣	栃木縣				
遠江	駿河	伊豆	駿河	上野		武藏	下野	下野	下野				
城東 佐野 榛原	山名 周智 豐田 磐田 長上 敷知 引佐 鹿玉 濱名	駿東 富士 君澤 田方 加茂ノ内	那加 加茂ノ内	庵原 有渡 安部 志田 益津	新田 山田 邑樂	多胡 吾妻 西群馬 碓氷 南北 甘樂 片岡 綠野	東群馬 北勢 多 佐位 那波 利根	秩父	北埼玉 比企 男衾 横見 大里 榛澤 榎羅 兒玉 賀美 那賀	中葛飾 高麗 南埼玉 北葛飾 北足立 新庄 入間	河内 芳賀 鹽谷 那須	上都賀 寒川 安蘇 築田 足利	

控					京									
土浦	水戸	水更津	千葉	横濱										
下妻	土浦	水戸	水更津	八日市場	千葉	八王子	小田原	横濱	品川	本所區	本郷區	芝區		
茨城縣	茨城縣	千葉縣	千葉縣	神奈川縣										
下總	常陸	常陸	安房	上總	上總	相模	武藏	相模	武藏					
猿島 結城 岡田 豊田 西葛飾	眞壁	新治 筑波 河内 信太 行方 鹿島ノ内 北相馬	西茨城 那珂 久慈 多賀 鹿島ノ内	天羽 周淮 望陀 全四郡	海上 香取 匝瑳 山邊 武射	津久井 南北 西多摩	下植生 千葉 印旛 南相馬 東葛飾 上植生 夷隅 長柄 市原	津久井	尼柄上 尼柄下 大住 陶綾 愛甲	横濱區 久良岐 橘樹 都筑 三浦 鎌倉 高坐	芝區ノ内 荏原ノ内	本所區ノ内 深川區 南葛飾ノ内	本郷區ノ内 小石川區 神田區ノ内 北豊島ノ内	芝區ノ内 麻布區 荏原ノ内 南豊島ノ内

裁 訴

七尾七尾	富山	金山	福井	彦根	大津	津山
石川縣	魚津	高松	大野	敦賀	小濱	大津
能登	越中	加賀	越前	若狹	近江	美作
鹿島羽昨	下新川	射水ノ内 礪波ノ内 庄川以西	能美江沼	金澤區 河北石川	大野	滋賀野洲 甲賀栗太 蒲生高島
	上野川 婦負射水ノ内 礪波ノ内		南條今立 丹生吉田 坂井足羽	敦賀 三方	神崎 愛智 犬上 坂田 伊香	遠敷 大飯
					東淺井	
						全國十二郡

控 阪

岡山	洲本	豐岡	姫路	神戶	宮津	園部	天王寺
高梁	岡山	本洲	豐岡	兵庫	京都府	京都府	河津
備中	備前	淡路	播磨	丹波	攝津	丹波	南區ノ内 西成ノ内 東成ノ内 住吉
上房	岡山區 全國八郡	全國二郡	多可 加西 印南 神東 神西 飾東	多紀 水上	明石 美嚢 加東 加古	神戶區 八部 菟原 武庫 川邊 有馬	茨田 交野 河内 若江 澁川 高安 志紀ノ内
阿賀 哲多 川上	加陽 宇都		飾西 佐用 宍粟 揖東 揖西 赤穂			天田 何鹿	船井 北桑田
	小田 後月 下道 窪屋 淺口					全國五郡	

審

判 裁 訴 控 屋 古 名																
山田	安濃津	岡崎	名古屋	宇和島	松山	岐山	上野	安濃津	豐橋	岡崎	一宮	熱田	名古屋	宇和島	大洲	山西
三重縣	三重縣	三重縣	愛知縣	愛媛縣	愛媛縣	伊豫	伊勢	伊勢	三河	尾張	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫
美濃	伊勢	伊賀	伊勢	伊勢	三河	尾張	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫
飛騨	志摩	伊賀	伊勢	伊勢	三河	尾張	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫	伊豫
厚見羽栗各務中島方縣山縣武儀郡上益田ノ内	多氣度會 答志英虞	全國四郡	桑名員部朝明三重	河曲鈴鹿奄藝安濃飯高一志飯野(南北)牟婁	八名 南 北 設樂 室飯 湍美	額田 碧海 幡豆 西 東 加茂	丹羽 葉栗 中島	知多 愛知ノ内	名古屋區 愛知ノ内 西 春日井 海東 海西	東南 宇和 北	喜多 西宇和	宇摩 新居 周布 桑村 越智	宇摩 新居 周布 桑村 越智	宇摩 新居 周布 桑村 越智	宇摩 新居 周布 桑村 越智	宇摩 新居 周布 桑村 越智

所 判

高松	中村	高知	脇田	徳島	田邊	和歌山	奈良	堺	輪島
丸龜	高松	中村	高知	徳島	田邊	和歌山	奈良	堺	輪島
愛媛縣	高知縣	高知縣	徳島縣	徳島縣	和歌山縣	和歌山縣	大坂府	大坂府	和泉
讚岐	土佐	土佐	阿波	阿波	紀伊	紀伊	大和	河内	和泉
野間久米風早上下浮穴和氣伊豫温泉	大内 寒川 三木 山田 香川 阿野ノ内 小豆	那珂 多度 三野 豊田 鶴足 阿野ノ内	安藝 香美 長岡 土佐 吾川 高岡 幡多	美馬 三好 麻植 阿波	名東 名西 勝浦 那賀 海部 板野	日高 東 西 牟婁	和歌山區 伊都 那賀 名草 海部 有田	珠洲 鳳至	堺區 全國四郡
							宇智 吉野 葛上 忍海 高市ノ内 葛下ノ内	市 廣瀬 宇陀 高市ノ内 葛下ノ内	添上 添下山 邊 平群 式上 式下 十
							古市 石川 錦部	大縣 安宿 志紀ノ内 丹北 丹南 八上	珠洲 鳳至

明治十四年十月六日

太政大臣三條實美

〔第五拾五號〕 (輪廓附)

治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

明治十四年十月六日

太政大臣三條實美

〔第五拾六號〕 (輪廓附)

小笠原嶋裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所(即チ違警罪裁判所)始審裁判所(即チ輕罪裁判所)ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事控訴及重罪裁判ハ東京府出張所裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

明治十四年十月七日

太政大臣三條實美

〔第五拾七號〕 (輪廓附)

伊豆七島裁判事務當分該島吏ハ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

明治十四年十月七日

太政大臣三條實美

〔第五拾八號〕 (輪廓附)

明治十三年(七月)第三十四號布告傳染病豫防規則第十五條へ左ノ一項追加候條此旨布告候事

明治十四年十月七日

太政大臣三條實美

虎列刺己ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサ、ル様遮斷シ得ヘキモノト見認レトキハ地方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得 但要用ノ者ハ掛官更檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得 (備考)十三年七月九日第三十四號御布告(全報四十八號初葉)參觀

〔第五拾九號〕 (輪廓附)

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限リ裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

明治十四年十月八日

太政大臣三條實美

勅諭

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ、中古紐ヲ解シ、乾綱ヲ振張シ、大政ノ統一ヲ總攬シ、又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ、後世子孫繼シヘキノ業ヲ爲サシコトヲ期ス、嚮ニ明治八年ニ元老院ヲ設ケ、十一年ニ府縣會ヲ開カシ、此ニ皆漸次基ヲ創メ、序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ、爾有衆、亦朕カ心ヲ諒トセン

願ミルニ、立國ノ體、國各宜キヲ殊ニス、非常ノ事業、實ニ輕舉ニ便ナラス、我

祖我宗、臨照シテ上ニ在リ、遺烈ヲ揚ケ、洪模ヲ弘メ、古今ヲ變通シ、斷シテ之ヲ行フ、責朕カ躬ニ在リ、將ニ明治二十三年ヲ期シ、議員ヲ召シ、國會ヲ開キ、以テ朕カ初志ヲ成サントス、今在廷臣僚ニ命シ、假スニ時日ヲ以テシ、經畫ノ責ニ當ラシム、其組織權限ニ至テハ、朕親ラ衷ヲ裁シ、時ニ及テ公布スル所アラントス

朕惟フニ、人心進ムニ偏シテ、時會速ナルヲ競フ、浮言相動カシ、竟コ大計ヲ遺ル、是レ宜シク今ニ及テ、謨訓ヲ明徴シ、以テ朝野臣民ニ公示スヘシ、若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ爭ヒ、事變ヲ煽シ、國安ヲ害スル者アラハ、處スルニ國典ヲ以テスヘシ、特ニ玆ニ言明シ、爾有衆ニ論ス

奉 勅

明治十四年十月十二日

太政大臣三條實美

丙(甲第十號)

(輪廓附)

明治十四年四月ヨリ同六月ニ至ル版權授與并返納別冊之通り候條此旨布達候事

別冊

明治十四年十月三日

內務卿松方正義代理

內務大輔土方久元

丙(乙第四十三號)

明治十一年當省乙第七拾號達賣藥取扱手續末項刪除候條此旨相達候事

但十二年乙第五拾五號達衛生課事務條項第六條中賣藥ノ件ハ從前ノ通り心得ヘキ事

府 縣

丙(乙第四十四號)

(輪廓附)

濟貧恤窮施行濟局

濟貧恤窮施行濟局方書式之儀客年乙第四十三號(全報五十三號初葉ニ載ス)ヲ以相達置候處別紙之通改正候條此旨相達候事

但死亡其他ノ事故ニヨリ救助差止候モノハ以後不及届出候事

明治十四年九月十四日

內務卿松方正義代理

內務大輔土方久元

府 縣

事		由		額		價		人	
疾	病	同	同	米	石	米	圓	男何人	女何人
疾	同	同	同	何	何	何	何	何人	何人
老	同	同	同	何	何	何	何	何人	何人
幼	同	同	同	何	何	何	何	何人	何人
癡	同	同	同	何	何	何	何	何人	何人

通	計	同	同
死亡其他事故	ヨリ救助差止タルモノ	何人内	何人内
現在人員		何人内	何人内
右ハ客年七月ヨリ本年六月マテ濟貧恤窮施行濟ノ分云々		何人内	何人内
年 月 日		何(府縣)知事令名印	

乙第四十五號 (輪廓附)

難破船舶費用償還方ノ儀別紙之通米利堅合衆國政府ト結約批准相成候條此旨相達候事
明治十四年九月廿八日
内務卿松方正義代理
内務大輔土方久元

日本帝國ト米利堅合衆國ト俱ニ約ヲ締ヒ以テ此國ノ船彼邦ノ海岸ニ於テ難破ノ際ニ當
リテ支出ス可キ一定ノ費用償還ノ法ヲ設ケン事ヲ欲シ仍テ之カ爲メニ特約ヲ結フコ
ト決意シ其全權委員トシテ日本國
皇帝陛下ハ外務卿正四位勳一等井上馨ヲ之ニ任シ米利堅合衆國
大統領ハ閣下ニ駐劄セル合衆國特命全權公使シモン、エー、ピンハムヲ之ニ任シ互ニ其
委任狀ヲ相示シ其式ノ善長適切ナルヲ認メテ訂約スルコト左列ノ如シ
凡ソ風波ノ難ニ罹レル日本ノ窮民ヲ救ヒ之ニ衣食ノ之ニ旅費ヲ給シ若シハ溺者ノ遺骸
ヲ收得シ病者傷者ノ醫料ヲ償フノ力ナキハ之ニ醫藥ノ資ヲ給シ若シハ死者埋葬等ノ爲

メ合衆國政府ニ於テ支出シタル諸費ハ宜シク日本政府ヨリ之ヲ償還スヘシ又合衆國市
民ノ難破ニ遭遇シ日本政府ヨリ扶助ヲ受クル者アル時ニハ合衆國政府宜シク上ト同條
ノ手續ニ遵フヘシ然レトモ日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ難破船乃至其船
中ノ貨財ヲ收回保存スルニ方リテ支出シタル費用ニ至テハ之ヲ償還スルノ責任ナカル
ヘシ凡テ這樣ノ費用ハ其拾得シタル貨財ニ課シコレニ關係アル輩ヲシテ該貨財引取ノ
上償還セシムル者トス
日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ其難破ノ地ニ出張セシムル政府ノ官吏警察
吏或ハ地方吏ノ手當又ハ難民ヲ護送スル吏員ノ旅費若シハ公信往復ノ費用ハ之ヲ取立
サルヘシ
此類ノ費用ハ右官吏警察吏地方吏所屬ノ國ノ政府ニ於テ負擔スルモノトス
此約書ハ正當ノ法式ニ從ヒ各自政府ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ可成速ニ之ヲ華盛頓府
ニ於テ交換シ右交換後三十日ヲ越ヘ之ヲ各自ノ國中ニ實施スル者トス
此約書ハ日本文及ヒ英文各二本ヲ作り右ノ證據トシテ茲ニ兩國ノ全權委員各其名ヲ記
シ印ヲ鈐ス
東京ニ於テ

明治十三年五月十七日
西曆千八百八十年五月十七日

井 上 馨
シモン、エー、ピンハム印

乙第四十六號 (輪廓附)

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

堤塘使用料之儀ニ就テハ明治十一年(九月)乙第五十八號及本年(七月)乙第三拾五號ヲ以テ相達候次第モ有之候處十四年度以降地盤ノ官民有ニ拘ラス使用地ノ修繕地方稅負擔ニ係ル者ハ本年乙第三十五號達ノ通相心得協議費負擔ニ係ル者ハ協議費支出ノ町村ニ下渡堤塘修繕費ニ充シムヘシ尤連帶支辨ニ係ル者ハ其主擔ノ方ヘ可屬此旨相達候事

明治十四年九月廿八日
 內務卿松方正義代理
 內務大輔土方久元

(備考)十一年九月十日乙第五十八號御達(全報廿六號三十一葉)〇十四年七月廿九日乙第三拾五號御達(全報六拾一號四拾一葉)參觀

丙(乙)第四拾七號 (輪廓附)

府 縣

河港道路橋梁工費一村限金高帳總計帳勘定帳書式ノ義去十年二月乙第十三號ヲ以相達候處去十三年第四十八號ヲ以官費下渡命被廢止候ニ付更ニ別冊書式ノ通改正候條十四年度以降(則十四年七月以後)右書式ニ照準シ工費金高及總計報告書共一週歲毎年度ニ整理シ其年十二月三十一日迄ニ當省ヘ可差出此旨相達候事

但各開港及外國人居留地修築工費其他官費支給有之分ハ落成ノ時々遂正算候義ト可相心得事 (別冊總計表以下ハ本號下七十七葉ニ全載ス)

明治十四年九月廿九日

內務卿松方正義代理

內務大輔土方久元

大(第八拾壹號) (輪廓附)

官省院使廳府縣

明治五年達監獄則及本年(三月)第十三號達在監入給與規則同(七月)第六十四號達在監

監獄則目錄

第一編

- 第一章 汎則
- 第二章 監署ノ規程
- 第三章 監獄ノ構造

第二編

- 第一章 役法 附時限
- 第二章 工錢
- 第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送
- 第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第三編

- 第一章 給與
- 第二章 疾病 附死亡

人雇工錢規則ヲ合セテ別冊ノ通監獄則相定候條此旨相達候事

但明治十五年一月一日以後施行ノ刑法治罪法ニ關涉スル條件ハ同日ヨリ施行スヘシ

明治十四年九月十九日

太政大臣三條實美

監獄則

- 第三章 傳信
- 第四章 接見
- 第五章 差入品
- 第四編
- 第一章 教誨
- 第二章 賞譽
- 第三章 懲罰

監獄則

第一編

第一章 汎則

- 第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス
 - 一 留置場 裁判所及ヒ警察署ニ屬スルモノニシテ未決者チ一時留置スルノ所トス但時宜ニ由リ拘留ノ刑ニ處セラレタル者チ拘留スルコトヲ得
 - 二 監倉 未決者ヲ拘禁スルノ所トス
 - 三 懲治場 懲治人ヲ懲治スルノ所トス
 - 四 拘留場 拘留ノ刑ニ處セラレタル者チ拘留スルノ所トス
 - 五 懲役場 懲役ノ刑及ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者チ拘禁スルノ所トス
 - 六 集治監 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ニ處セラレタル者チ集治スルノ所トス

- 北海道ニ在ル本監ハ徒刑流刑ニ處セラレタル者チ集治ス
- 第二條 監獄ハ内務卿ノ管轄ニ屬ス但陸海軍ノ管轄ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス
- 第三條 集治監ハ内務卿之チ直轄ス留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ警視總監又ハ府知事(東京府ヲ除ク)縣令之チ管理ス
- 第四條 此獄則ハ特ニ陸海軍ノ獄則ヲ以テ處スヘキモノニ適用スルコトヲ得ス
- 第五條 内務卿ハ毎年其所屬官吏チシテ各監獄チ巡閱セシムヘシ
 - 警視總監府知事縣令ハ毎年三四次所轄ノ監獄チ巡閱スヘシ
 - 裁判官檢察官ハ時々其裁判所ニ屬スル監倉チ巡閱スヘシ
 - 府縣會議員ハ臨時其府縣監獄チ巡閱スルコトヲ得
- 第六條 在監人、稱スルハ未決已決ノ者及ヒ第拾九條第三拾條ニ記載シタル者チ云フ
- 第七條 在監人ヨリ司獄官吏ノ處置ニ對シ若シ情苦チ訴ヘントスルトキハ第五條第一項第二項ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得
- 第二章 監署ノ規程
- 第八條 司獄官吏在監人チ管束スルハ一ニ和平チ乘リ罰例ニ照シテ犯則者チ決責スルノ外恣ニ責罰スルヲ得ス
- 第九條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監房ノ内外チ觀察シ或ハ物件チ査閲シ其他囚徒ノ傲惰チ生シ脱越等ノ事ナカラシムルヲ要ス
- 第十條 新ニ入監スル者アレトキハ典獄先ツ拘引狀拘留狀收監狀又ハ處刑宣告書等ノ

文書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領收ノ證ヲ引致シ來タル者ニ交付ス其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監スルヲ得ス
未決者ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲ヲ禁シ法庭ニ引致ノ時モ同往セシムルヲ得ス

已決囚ハ第十六條ニ記載シタル差別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

第十條 入監ノ婦女乳兒〔二歳未満〕ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第十二條 新ニ入監スル者アルトキハ名籍ノ様本ニ照シ其要項ヲ詳録シ一小房内ニ於テ通身ヲ搜檢シ利器其他ノ物件ヲ夾帶スルヲ拒クヘシ懲治人ノ監舎ニ入ルトキモ亦同シ

第十三條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄一々之ヲ精驗シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第十四條 總テ入監人ノ携有スル財貨物件ハ悉ク點檢シテ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄一々證印シテ之ヲ領置シ釋放ノ時還付スヘシ但點檢ノ際隱匿セシ貨物ハ沒收ス
若シ其領置ノ貨物ヲ以テ親屬ヲ扶助シ其他正當ノ費用ニ充ント請フトキハ之ヲ許ス

第十五條 在監人書籍ヲ看ント請フトキハ新聞紙及ヒ時事ノ論說ヲ記載スルモノヲ除キ修身又ハ營業ニ必要ナルモノ、ミナ許スヘシ

第十六條 已決囚ハ各刑名ニ從テ其監房ヲ別異シ又其中ニ就テ左ニ記載シタル者ヲ別異ス

一 十六歳未満ノ者ト滿十六歳以上ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未満ニシテ再犯以上ノ者ト同上ノ年齢ニシテ初犯ノ者

三 初犯ノ者ト再犯以上ノ者

第十七條 要犯疑獄ニ係ル者ヲ拘禁スル未決監ニ於テハ其氏名ヲ呼ハス番號ヲ以テ之ニ換フヘシ但著衣ノ外襟ニ白布ヲ縫著シ其番號ヲ墨書シ監房ヲ出入スル毎コ皂布ヲ以テ覆面シ當眼ノ所コ小孔ヲ穿テ共犯者ヲシテ共ニ拘禁ノ身タルヲ窺探スルヲ得サラシム

第十八條 放恣不良ノ者ヲ懲治場ニ入レ矯正歸善セシメント其尊屬親ヨリ願出ルトキハ第二十條第一項ノ例ニ照シテ處分スヘシ
矯正歸善ノ爲メ懲治場ニ入ルヘキ者ノ年齢ハ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限トス

第十九條 懲治人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ
一 刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ從ヒ懲治場ニ留置スル幼年ノ者及ヒ瘡癩者

二 尊族親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者

第二十條 前條第二款ニ記載シタル懲治人ハ戶長ノ證票ヲ具スルニ非レハ入場ヲ許サズ但在場ノ時間ハ六個月ヲ一期トシ二年ニ過ルヲ得ス
入場ヲ請ヒシ尊屬親ヨリ懲治人ノ行狀ヲ試ル爲メ宅舎ニ帶往セント請フトキハ其情狀ニ由リ之ヲ許スヘシ

第二十一條 懲治人ハ左ノ年齢ニ從ヒ其居房ヲ別異ス

一 十六歳未滿ノ者ト滿十六歳以上ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ニシテ再ヒ懲治場コ入シ者ト同上ノ年齢ニシテ初テ入場スル者

第二十二條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ處刑ノ宣告書其他必用ノ文書及ヒ領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ其發遣ノ途中ニ在テノ行狀ハ押送官吏之ヲ記述シテ典獄ニ知會スヘシ

在監人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ戒具ヲ用ヒ男ト女ヲ別ツヘシ但懲治人ハ戒具ヲ用ヒス

第二十三條 典獄ハ看守長及ヒ看守ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシメ賞罰ヲ行フノ考據トナスヘシ

第二十四條 賞表ヲ與ヘタルトキハ賞譽簿ニ其氏名及ヒ賞詞ヲ記載シ視奪シタルトキハ之ヲ删除スヘシ但ソノ賞罰ヲ行ヒタル旨ヲ囚徒ニ示スハ第二十六條ノ例ニ依ルヘシ

第二十五條 特赦アリタルトキハ速ニ其旨ヲ内務卿ニ申報スヘシ

第二十六條 特赦ヲ受タル者アルトキハ免役日若クハ日曜日ノ午後ニ在テ他ノ囚徒ヲ集メ其旨ヲ聽カシメ仍ホ之ヲ揭示スヘシ

第二十七條 假出獄ヲ許サレタル者ニハ其證票ヲ與ヘ警察遞傳ヲ以テ其居住セントス

ル地ニ押送スヘシ

監署ニ領置セシ金錢ハ出獄者ニ携帶セシメス其金員ヲ録シテ共ニ其地ノ警察官 治罪 第六十條第二項ニ送致スヘシ 記載シタル官吏

第二十八條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其刑期間ハ典獄ニ於テ營業ノ方法ヲ指示シ其來署ヲ要スルトキハ召喚スルコトヲ得

第二十九條 在監人中能ク獄則ヲ守ル者ヲ撰テ傳告者誘工者トナス傳告者ハ官吏ノ命令ヲ在監人ニ傳ヘシメ誘工者ハ工場ニ在テ服役者ヲ勸誘セシム但傳告者誘工者ハ滿六個月以上其用務ヲ繼續セシムルヲ得ス

傳告者及ヒ誘工者ハ私ニ在監人ヲ使役シ若クハ凌辱スルノ所爲アルヲ許サス 第三十條 刑期滿限ノ後頼ルヘキ所ナキ者ハ其情狀ニ由リ監獄中ノ別房ニ留メ生業ヲ營マシムルヲ得

第三十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ヘカラス

第三十二條 死刑ノ執行ハ午前第十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

其遺骸ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ二分時ヲ過サレハ埋葬若クハ下付スルコトヲ得ス 第三十三條 刑死者又ハ死亡者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ本籍ノ戸長及ヒ近地ノ親屬若クハ故舊ニ通知スヘシ其監署ニ領置シタル貨物ハ親屬ニ下付ス若シ親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ之ヲ下付ス但死者ノ身ニ纏ヒタル衣服ハ此限

ニ在ラス

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ遞付
フルコトヲ得但送費ハ親屬ノ自辨トス

若シ其物件又ハ代價ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス

第三十四條 在監人逃走スル者アル時領置ノ貨物ハ前條ノ例ニ依テ處分スヘシ但沒收
ハ逃走ノ日ヨリ滿一個年ヲ經ルノ後ニ非レハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

領置ノ工錢ハ第五十七條ニ照シテ處分スヘシ

第三十五條 監獄ノ近境ヨリ發火シテ罹災ノ虞アルトキハ司獄官吏其形勢ヲ量リ在監
人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避シムヘシ

水火風震其他激甚ナル變災ニ際シ在監人ヲ押送スルノ違ナキトキハ要犯疑獄ニ係ル
者ヲ除ク外一時解放スルヲ得

第三章 監獄ノ構造

第三十六條 留置場監倉懲治場拘留場懲役場ハ每府縣ニ置キ集治監ハ適當ノ地ニ之ヲ
置クモノトス

留置場監倉懲治場拘留場懲役場一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第三十七條 未決監已決監及ヒ懲治場ハ男監女監ノ別ヲ嚴劃スヘシ

甲ノ監房ニ在ル者ト乙ノ監房ニ在ル者ト彼是交談シ又ハ物件ヲ交通スルノ便ヲ得サ
ラシムヘシ各監房ノ鑰匙ハ其製式ヲ同クシ甲乙適用スルヲ要ス

第三十八條 密室ハ監倉ニ設ケ他人ト交通スルコトヲ得サラシムヘシ

開室ハ已決監ニ設ケ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セシメサルヲ要ス

密室開室ハ一室一人ヲ限トス

第三十九條 接見室ハ監倉ノ首部ニ設ケ其壁面ニ方三尺ノ口ヲ開キ之ニ縱横ノ格子ヲ
嵌メ格子ヨリ三尺許ヲ距リ柵欄ヲ設ケ在監人ハ格子内ニ立シメ外人ハ格子外ノ柵欄
ニ倚ラシムヘシ但懲治人ノ接見室ハ此例ヲ用ヒス

第四十條 燈火ハ監房外ニ置キ障壁スルノ虞ナカラシムヘシ

第四十一條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第二編

第一章 役法 附時限

第四十二條 定役ニ服スル者ノ作業ハ刑名ニ因テ之ヲ斟酌シ毎囚一日ノ科程ヲ定メテ
服役セシム滿十二歳以上十六歳未滿ノ者滿六十歳以上ノ者及ヒ病後ノ疲勞若クハ身
軀ノ虛弱ニ因リ勞作ニ勝ヘサル者ハ體力ニ應シ作業ノ科程ヲ寬恕ス

若シ己ムヲ得テ外役ニ服セシムルトキハ鎖鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ笠ヲ用テ(晴雨
ヲ問ハス)其面ヲ掩ハシム但外役ノ囚徒ハ一組十人以上十五人以下ト定メ看守一人
押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム

外役ノ囚徒道路往來スル時ハ務メテ他人通行ノ妨ト爲ラサシムルヲ要ス

第四十三條 毎日囚徒ヲシテ役ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守

長及ヒ看守點檢ヲナスヘシ歸監セシムル時モ亦同シ

第四十四條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス父母ノ喪ニ遭フ者モ亦一日免役ス

一月一日

一月二日

元始祭

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

十二月三十一日

第四十五條 囚徒ノ專習スヘキ工業ハ授業手若クハ工業殊等ノ囚チシテ之ヲ導カシム

其刑期一年以下ノ者ニハ習熟シ易キ工業ヲ授ルヲ要ス

第四十六條 定役ニ服セサル囚徒ト雖而典獄之ヲ勸誘シテ其將來ノ生業ヲ計リ攝生又

ハ親屬扶助ノ爲メ勞作セント請フニ至ラシムルヲ要ス其工業ノ種別ヲ定ムルハ典獄ノ指示ニ依ル

未決監ニ在ル者坐作ノ業ヲ爲サント請フトキモ亦同シ

第四拾七條 懲治人コハ教誨ニ充ル爲メ服役時間表ニ準シ七時ニ過キサル時間(休憩時間ヲ除)農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

○時限

第四十八條 未決者及ヒ定役ニ服セサル已決囚ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃

除シ畢リ喫飯セシム又毎日常一時間以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第四十九條 定役ニ服スル者ハ毎朝日出ノ頃ニ起床シ各其監房ヲ掃除シ畢テ喫飯セシム

其起床ヨリ約子一時間ヲ經テ役ニ就カシメ午前十時前後ニ至テ湯若クハ水ヲ與ヘ正午十二時ニ至リ休役ス飯後暫時休憩シ再ヒ就役日没前罷役セシム其時間ハ別表ニ之ヲ定ム但時宜ニ由リ其時間ヲ伸縮スルヲ得

起床還房及ヒ就役罷役其他ノ動止ヲ命スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第五十條 科程ヲ終リタル者ハ時限ニ拘ハラヌ罷役セシム

午飯ニ就カシムルノ際科程ノ大半ヲ爲シ得タルヤ否ヲ驗視スヘシ若シ偷懶ニシテ怠役スル者ハ飯後ノ休憩ヲ許サス

第二章 工錢

第五拾一條 定役ニ服スル囚徒現役一百日ヲ經レハ始テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ其一分ヲ與ヘ餘分ハ之ヲ監署ニ收ム

定役ニ服セサル囚徒及ヒ未決者ニシテ作業スル者ノ工錢ハ十分シテ其三分ヲ監署ニ收メ其七分ヲ與フ定役ニ服スル囚徒ニシテ當日ノ科程ヲ畢テ仍ホ作業スル者科程外ノ工錢ハ之ニ準ス

第五十二條 尊屬親ノ情願ニ由テ懲治場ニ入タル者其尊屬親ヨリ衣食費ヲ自辨スル者ノ工錢ハ其全分ヲ與ヘ衣食費ヲ自辨スルヲ能ハサル者及ヒ刑期滿限ノ後頼ルヘキ所

ナシシテ監禁傍ノ別房ニ留置シタル者ハ其工錢ノ内ヨリ衣食費ヲ扣除シ餘分ハ之ヲ與フ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ監署ニ領置シ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ知ラシムヘシ

第五十四條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ヲ準トシ各自ノ技能ニ應シ一日若干錢ト定ムヘシ

第五十五條 監署ニ領置ノ工錢ハ本人ノ請ニ由リ親屬ニ贈與スルヲ許シ又ハ書籍其他必要ノ物品及ヒ在監人給與規則第七條ニ從ヒ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルヲ得

第五十六條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ工錢アルトキハ親屬ニ下付ス親屬ナキトキハ遺骸ヲ領取シタル故舊ニ下付ス若シ下付ヲ受ヘキモノナキトキハ之ヲ沒收ス

第五十七條 在監人若シ逃走シタルトキハ已決囚ノ工錢ハ之ヲ沒收ス未決者及ヒ懲治人ノ工錢ハ其親屬ニ下付ス親屬ナケレハ之ヲ沒收ス

第三章 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル囚徒押送

第五十八條 徒刑流刑及ヒ禁獄ノ刑ヲ受タル者アルトキハ其宣告書ノ證書ヲ具シテ内務卿ニ申報シ其指揮ニ從ヒ警察遞傳ヲ以テ集治監ニ押送スヘシ

北海道集治監ニ於テ管束スヘキ徒流刑ノ囚徒ハ本監官吏ノ臨時派出シタル地マテ押送スヘキモノトス

第五十九條 北海道ニ在ル集治監ハ毎歲三四次官吏ヲ派出シ前條第二款ノ例ニ從ヒ押

送シタル徒刑流刑ノ囚徒ヲ受取ヘシ

第六十條 徒刑流刑ノ囚徒ヲ押送スル時ハ戒具ヲ用ヒ男囚ト女囚トヲ別ツヘシ遞船中ニ在テハ戒具ヲ用ヒサルモ妨ナシ

第四章 假出獄免幽閉ノ者ニ貸與スル屋舎

第六十一條 假出獄免幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舎ヲ貸與スヘシ

屋舎ヲ構造スルハ將來市街村落ヲ創置スルノ便ヲ計畫スルヲ要ス

第六十二條 假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取亂シ之ヲ許否スヘシ

前項ノ請ヲ許ストキハ其配偶者又ハ其他ノ親屬現住スル地ノ戶長ニ通告スヘシ其徒刑流刑ノ者嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘシ

第三編

第一章 給與

第六十三條 已決囚ノ獄衣類ハ總テ之ヲ貸與ス

第六十四條 未決者ノ衣類ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者ハ之ヲ許ス貧困ニシテ衣類ヲ自辨スルヲ能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第六十五條 已決囚ノ獄衣ハ赭色トシ懲治人ノ衣服ハ淺葱色トス

第六十六條 獄衣ハ總テ筒袖トシ長短二種ニ別ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ

女服ハ総テ長衣トス

獄衣ノ外襟ニハ白布ヲ縫着シ之ニ番號ヲ墨書スヘシ

第六十七條 在監人ニ貸與スル衣類雜具

通常服

一單衣

一袴

一綿入衣

一襦袢

就役服

一單短衣

一袴短衣

一綿入短衣

一襦袢

一股引

雜具

一蒲團

一蚊帳

一莞藪

一枕

一帯長三

一禪尺長三

一手巾

一蓑

一笠

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ淋濯補綴シテ其用ニ充ルヲ得

第六十八條 在監人一人一日ノ食糧

一下白米十分ノ四

一挽割麥十分ノ六

一同

一同

一同

一菜

強キ力業ニ服スル者

輕キ力業ニ服スル者

工役ニ服セサル者及ヒ

滿十歳以上ノ未決者

十歳未滿ノ幼者

金壹錢五厘以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得

第六十九條 工業ニ勉勵シテ食費ヲ償フヘキ工錢ヲ得ル者及ヒ其幾倍ヲ得ル者等ニハ

其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金三錢ヲ過

ルコトヲ得ス

定役ニ服セサル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但一日金五錢ヲ過ルコトヲ得ス

第七十條 在監人日用ノ雜費洗濯補綴又ハ炊用ノ薪炭其他一身ニ係ル日常諸費ハ一人一日金壹錢貳厘以下トス

第七十一條 監房常置ノ器具

一貯水器并ニ飲器

一唾壺

一便器

木製
同

木製大小二種但監房ニ廁圖ノ接續スルモノニハ此器ヲ用ヒス

草ノ種類ヲ以テ製作セシ軟カナルモノ

一洗手盆

木製

第七十二條 浴湯ノ定度ニ毎年六月ヨリ九月マテハ五日毎ニ一次十月ヨリ五月マテハ十日毎ニ一次トス

第七十三條 已決囚及ヒ懲治人ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ鬚鬚アル者ハ常ニ剃除セシム但未決者ハ此限ニ在ラス

婦女ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルヲ許サス

第七十四條 衣類雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ濯ヒ臭氣ヲ去リ蟲害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第二章 疾病 附 死亡

第七十五條 在監人疾病ニ罹レハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若ハ病室ニ於醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第七十六條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ルコトヲ要スルハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ典獄之ヲ考檢シテ許否スヘシ

第七十七條 傳染病侵襲ノ兆アルトキハ其消毒豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ病性及ヒ感染ノ形狀ヲ詳悉シ醫師ノ診察書ヲ副ヘ各其所屬長官ニ報告スヘシ

○死亡

第七十八條 在監人死亡スレハ典獄看守長醫師并瘞テ之ヲ驗屍スヘシ未決者又ハ已決囚ニシテ別故アリ再ヒ訊問ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊第三拾三條ニ記載シタル時限ヨリ二拾四時以内ニ在テ遺骸ノ下付ヲ請フトキハ之ヲ許シ其者ヲシテ簿冊ニ署名押印又ハ花押セシムヘシ

遺骸ヲ請フ親屬故舊ナキトキハ棺ニ入テ仮葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標ハ約子面三寸長三尺五寸トス

第三章 書信

第三拾條 已決囚其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ六箇月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得
但其他官司ノ訊問等ニ由テ信書ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄
官吏ニ於テ法律ニ觸ルコトナリ且必用ト認タルトキハ此限ニ在ラス
第八拾一條 未決囚ニ係ル信書ハ定限ナシ但豫審判事又ハ檢事ノ檢閱ヲ經ルニ非ンハ
贈答ヒシムルヲ得

第八拾二條 懲治人及ヒ幼年ノ已決囚其親屬故舊ニ贈ル信書ハ一箇月一次ニ一通ニ過
ルコトヲ得

第八十三條 在監人ノ發スル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中忌諱ニ涉ル等ノ文意
ヲ認ルトキハ通信ヲ許サズ

第十四條 外人ヨリ在監人ニ贈リ來タル信書ハ典獄之ヲ檢閱シ適宜ノ事項ヲ察ヘ又
ハ選善ノ諭示ヲ主トシタルモノニ限リ之ヲ本人ニ付與ス若シ在監人ノ改悛ヲ妨ルモ
ノト認ルトキハ之ヲ付與セス

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行ヲ預讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ橫讀シ嫌疑ノ文意
アリヤ否ヲ詳查スヘシ

第十六條 在監人ヨリ發スル信書ハ必ス書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ緘シ封皮ニ其受
領スヘキ者ノ住所氏名ヲ書シ某監獄送ト記シ之ヲ遞送ス但郵便稅ハ自辨セシム
親屬故舊若クハ辨護人ノ信書ハ監獄署ニ宛之ヲ差出サシムヘシ

第四章 接見

第八十七條 在監人ニ接見セント請フ者アトキハ典獄先ツ之ニ面接シテ其氏名族籍
營業等ヲ訊ヒ其緣由ヲ詳悉シ已ムヲ得サルノ事狀アリテ形跡ノ疑フヘキトナキトハ
之ヲ許シ看守長看守並蒞テ面會セシム但密室ニ在ル者ハ接見ヲ許ラス
面會ノ時間ハ三十分時ヲ過ルヲ得ス若シ面會ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲナシタルト
キハ直ニ之ヲ停止フ

第八十八條 死刑ノ執行及ヒ徒刑流刑禁獄ノ刑ヲ受ケタル囚徒ヲ集治監ニ押送ノ以前
親屬故舊其親屬ニ面會セント請フトキハ前條第一項ノ例ニ依テ之ヲ許ス但面會ノ時
間ハ五十分時ヲ過ルヲ得ス

第五章 差入品

第八十九條 未決囚及ヒ懲治人ニ其親屬故舊ヨリ書籍用紙衣服臥具又ハ飲食物
炊烹ヲ
ルモノニシテ一人
ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但酒又ハ煙草其他衛生ニ害アルモ
一食ノ量ニ限ル

第九十條 已決囚ハ書籍用紙ノ外一切差入品ヲ許サズ

第九十一條 假出獄券幽閉ヲ受タル徒刑流刑ノ者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈
ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第四編

第一章 教誨

第九十二條 已決囚及ヒ懲治人教誨ノ爲メ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム
第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日ノ午後〇於テ其講席ヲ開クモノトス
第九十四條 懲治人ハ毎日三四時間讀書習字算術度量圖書等ノ科目中ニ就キ之ヲ教
フヘキモノトス

學科ハ懲治場ノ教場ニ於テ之ヲ研究セシメ其學業ノ進歩ヲ表スル爲メ就學ノ年月卒
業ノ科目學業ノ優劣及ヒ行狀ノ良否氏名年齢等ヲ簿冊ニ記載シ巡閱官吏ノ檢閲ニ供
シ又ハ其尊屬親ニ示スコトアルヘシ

第九十五條 各監房内ニ左ノ諸款ヲ揭示シ傍訓釋義シテ解シ易カラシムヘシ若シ文字
ヲ識ラサル者アレハ入監ノ時ヨリ二十四時内ニ於テ之ヲ讀ミ聽カスヘシ
揭示

一 在監人ハ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
一 平日互ニ和順ヲ主トシ教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ 未決監ニ
ハ此款ヲ
除

一 毎朝父母若クハ其墳墓所在ノ方位ニ向テ禮拜スヘシ
一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及ヒ席壁脚圍等ヲ掃除スヘ
シ

一 竈壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ヘ睡キ貯水ヲ濫用スルヲ禁ス

一 監外ニ出タル時其途上ニ於テ全往ノ者ト交談シ及ヒ手ヲ交ヘ或ハ路人ニ聲語スル
ヲ禁ス

一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話或ハ發聲又ハ濫リニ起步スルヲ禁ス但晝間ト雖モ放
厥喧噪又ハ高聲ニ誦讀スルヲ禁ス

一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ競ヒ若シハ賭博類似ノ惡戯ヲナシ或ハ
同房ノ者ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヲ禁ス

一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ及ヒ休憩ノ時間部外ノ工場ニ至ルヲ禁ス 未
決ニハ此
款ヲ除ク

一 許可ヲ得スシテ衣食其他ノ物件ヲ受與貸借スルヲ禁ス

一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラヌ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 日没後ハ發病スルモ其症急劇ナルコト非レハ翌朝ニ至テ醫療ヲ乞フヘキモノトス若
シ劇症ナルトキハ直ニ看守所ニ通聲スヘシ

一 獨居ノ者卒カニ病ヲ發シタルトキハ監房ヨリ看守所ニ架スル所ノ繩器繩ヲ引キ以
テ之ヲ報スヘシ

一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保ニ力ヲ致スヘキハ勿論其看病人ダラシムル者ハ
切實ニ之ヲ看病スヘシ

一 水火風雷等ノ際解放ニ遊フ者ハ其解放ノ時ヨリ二十四時内ニ監獄署又ハ警察署ニ

其旨ヲ申出ツヘシ

右ノ諸款ニ違フ者及ヒ違フ者アルヲ知テ告ケサル者又ハ官吏ヨリ犯者ヲ問フニ當リ之ヲ舉ケサル者ハ其狀情ヲ量リ處分ヘキモノナリ

年月日

某監獄署

第二章 賞譽

第九十六條 已決囚獄則チ謹守シ且改悛ノ行爲著キ者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

第九十七條 賞譽セシ者ニハ賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖「肩臂間」ノ表面ニ「方二寸」曲尺」ノ淺葱色ノ布ヲ縫着フヘシ

第九十八條 賞表ハ假出獄免圍閉又ハ特赦ヲ其狀スルノ考據ト爲スヲ得

第九十九條 賞表ヲ得タル者ニハ二個月ニ一次雜雇故舊ニ接見及ヒ通信スルヲ許ス

第一百條 已決囚若シ在監人ノ逃走ヲ密告又ハ捕街シ或ハ監獄ニ係ル水火災ヲ防禦シ人命ヲ救援シタル者アレハ金二十五錢以下ヲ賞與シ其賞金ハ監署ニ領置シ本人ノ請ニ由リ必需品又ハ食物ヲ購求スヘシ但第九十七條ノ賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス

第一百一條 未決監ニ在ル者前條ノ勞動アルトキハ之ヲ錄シテ檢察官及ヒ裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第一百二條 懲治人第一百條ニ適シタル勞動アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ適宜物品ヲ購ヒ之ヲ與フヘシ

第三章 懲罰

第一百三條 已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信 親屬故舊ト書信接見ヲ絶ス

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居ヒシメ服役時限表ニ照シテ座作ノ役ヲ科ス

三 減食 常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

四 閤室 閤室ニ入レ常食ノ半若クハ其三分ノ二ヲ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

第一百四條 絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食閤室ハ七晝夜ヲ限トス

減食閤室七晝夜ニ滿ルモ改悛ノ狀ナキトキハ一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スルコトヲ得

第一百五條 懲治人及ヒ十六歳未滿ノ已決囚獄則チ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨居 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 常食ノ半以內ヲ減ス但菜ヲ減スルノ限ニ在ラス

第一百六條 獨居ハ七晝夜以內減食ハ三日以內トス

第一百七條 未決者及ヒ拘留ノ刑ヲ受ケシ者致命ニ順ハス或ハ同監ノ者ヲ煽惑シ又ハ其他ノ規則ヲ犯ストキハ所犯ノ輕重ヲ量リ第一百三條第百五條ニ準據シ減食スルコトヲ得

音容	聲貌	教宗門及	入賞場罰中	書信贈	懲治場ニ留置ノ宣告ナシセシ裁判所	經ハ其事由	事變	放還	
面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、癩子、癰腫、黑痣、癩風、天皰、創瘻ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス		入場ノ時文字ヲ知ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス入場後進學ノ景況何宗或ハ宗門不詳	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	何年月日何國郡村住親屬若シハ朋友ニ書信來	明治何年月日何國郡村住親屬若シハ朋友ニ書信來	若干年月日留置ノ宣告	犯由ノ大略及ヒ某裁判所	明治何年月日病死或ハ變死或ハ逃走或ハ他監ニ移ス	明治何年月日某家ニ放還

音容	聲貌	身材	及年入月日監罪時ノ件	乳提携兒	營親屬及	年氏族出生	年氏族出生
面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、癩子、癰腫、黑痣、癩風、天皰、創瘻ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス		長何尺何寸何分肥瘠強弱	明治何年月日午前第何時入監何罪ヲ犯ス	男或ハ女收監ノ時何歲何ヶ月	營業ヲ詳記ス可シ父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	何國郡村産	某管下國郡村番地住又ハ何某子弟妻女
						族籍	何某年月日生
							當何年月何年月

(典獄(檢印))

未決者名籍

主檢

書記(氏名印)

終 結	事 變	保 釋	當 該 官 名	書 信 贈 答 許 不 月 日	入 監 中 賞 罰	教 育 及 宗 門
明治何年月日放免若シハ刑ノ宣告執行又ハ他監押送	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監	明治何年月日保釋若シハ責付	裁判長ノ氏名死刑ハ裁判長ノ外其行刑ヲ臨監セシ官吏ノ氏名	明治何年月日何國郡町住親屬若シハ朋友ニ書信來	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳

大 犯 由 及 數	年 收 監 日	刑 名 及 日 宣 告 所 ノ 名 稱	乳 提 携 兒	營 業 親 屬	本 出 生 地 管 籍 名 年 齡	(典獄(檢印)) 已決 囚名籍 主檢 書記 (氏名印)
財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大畧ヲ記ス 若シ再犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ其裁判所ニ於テ何 刑ニ處セラレ	明治何年月日午前 後第何時入監	何刑若干年月日 明治何年月日何裁判所ニ於テ宣告	男若シハ女 收監ノ時何歳何ヶ月 父母ニ先チテ出監シ或ハ死去シタルトキハ之ヲ詳記ス	營業ヲ詳記ス可シ 父母兄弟及ヒ配偶者子孫ノ有無	何國郡町産 某管下國郡町番地住又ハ何某子弟妻女 族籍 何某 某年某月某日生 當何年何月何年何ヶ月	

終身	事變	免假 幽出 閉獄	書信 年贈 月答	入監 賞罰 中	教宗 育門 及	音聲	容貌	身材
明治何年月日滿期放免又ハ特赦	明治何年月日病死或ハ變死或ハ脱監或ハ何罪ヲ犯シ復々未決監ニ入ル	明治何年月何月何日假出獄或ハ免幽閉	明治何年月日何國郡町村住親屬若クハ朋友ニ書信發來	明治何年月日何ノ賞罰ヲ行フ	文字ヲ識ルヤ否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス何宗或ハ宗門不詳	類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	面體眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑、瘰癧、黑痣、癩風、天鰲、創癩ノ類及ヒ音聲ノ高低ヲモ細緻ニ具載ス	長何尺何寸何分肥瘠強弱

假出獄之證票

某管下國郡(町村)番地住又ハ何某子弟妻女

族 籍

何 某

某年 月 日生
明治何年何月何年何ヶ月

身 材
名籍ノ樣本ニ倣
ヒ詳記スヘシ

容 貌
上ニ全シ

罪 質 犯 數
刑 名 刑 期
及ヒ附加刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受
ケ何年月日ヨリ執行何年月日滿期

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ本日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ヘ
約不何日迄ニ到着シテ即時其地ノ警察官ニ届出テ此證書ヲ納メタル上住宅ヲ定ムヘ
キ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限間特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滞留スルトキハ滞留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住地ニ到着ノト此證書ト共ニ居住地ノ警察官ニ差出スヘキ旨申渡シタル事

右之通心得サセ假出獄ノ證書ヲ與フル者也

某監獄署

明治何年 月

署 日 印

長官 何某

印

○出獄ヲ假受ケタル者所有金アルトキハ此證書ノ裏面若クハ欄内ニ左ノニ款ヲ附記スヘシ

一此者ノ所有金ハ當監署ヨリ其居住スヘキ地ノ警察官ニ送リ遣シタル事

一警察官ニ送リ遣シタル金圓ハ其居住地ニ到着ノ後何日コテモ受取得ヘシト雖モ同官

ニ於テ正當ノ入用ナリト認定ノ上ニ非サレハ一次ニ之ヲ渡サ、ルヘキ事

〔料紙半紙〕

〔括弧内朱書〕

〔某下管何〕

- 一在監人ヨリ其親屬故舊ニ送ル書信ハ此紙ニ書寫スヘシ
- 一書信ノ文句規則ニ背キタルヲアルトキハ其送致ヲ止メ仍ホ相當ノ罰ニ處スルヲアルヘシ

日 月 年 治明○紙信書人監在○署獄監

囚徒服役時限表

月名	時限	起	床	就役	小憩	午飯	罷役	晚飯	還房	服役時間計
一月	午前七時	二	前八時	〇	午第十時	正十二時	午三時	一	後四時	六時三十分
二月	六時三十八分	八	七時三十分	十	十分	十二時	三時五十分	二	後四時五十分	六時五十分

	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
約テ日出ノ時刻ヲ以テ	七時〇六分	七時〇六分	六時三十二分	六時〇一分	五時四十九分	五時五十分	五時十六分	五時四十八分	六時二十二分	六時五十二分	七時〇八分
右ノ時間	同上	同上	第九時四十分	第九時三十分	同上	同上	同上	第九時五十分	第十時	第十時	第十時
右ノ時間	同上	同上	同上	十二時三十分	十二時	同上	同上	十二時	十二時	同上	十二時
右ノ時間	同上	同上	同上	五時	五時二十分	五時十分	四時五十分	四時二十分	三時四十分	三時二十分	三時
右ノ時間	四時五十分	四時五十分	八時五十分	八時五十分	四時五十分	九時十分	四時五十分	一時五十分	一時四十分	一時四十分	一時三十分
右ノ時間	四時五十分	四時五十分	六時二十分	六時五十分	七時十四分	七時〇九分	六時四十分	六時十一分	五時三十分	五時〇八分	四時五十分
右ノ時間	七時三十分	七時三十分	八時三十分	八時五十分	九時〇五分	八時四十分	八時〇四分	八時十二分	七時〇三分	六時十三分	六時十二分
右ノ時間	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

トオス然ルニ年々季節ニ早晩アリ日々分秒ニ差刻アリ東國西國ノ別アリ此ノ由テ地方ニ於テモ分秒ノ差異ナキヲ保ツ能ハス故ニ月毎ニ平均シテ姑ク其起床時刻ヲ登載ス各地方ノ司獄官此表ノ區分ヲ準トシテ酌量シテ役囚ヲ遇スヘシ

(備考) 五年十一月廿九日第三百七十八號御達(全報五十一號明五十一月之部廿八葉)
 ○十四年三月十八日第十三號御達(全報五十六號三十三葉) ○十四年七月廿二日第六十四號御達(全報六十一號三十七葉) 參觀

シ及ヒ餐ノ時刻ト
 浴等ヲ爲ナス

海軍機關學校生徒徵募規則

府 照

海軍機關學校生徒徵募規則別紙之通相定候條爲心得此旨相達候事

明治十四年九月廿七日

海軍卿川村純義

海軍機關學校生徒徵募規則

海軍機關學校生徒徵募規則

- 第一條 海軍機關學校生徒ハ海軍機關士ニ切要ナル學術ノ教育ヲ卒ヘ機關科准士官以上ニ任セラルヘキ者ヨリテ華士族平民中海軍出身志願ノ者ヨリ撰拔ス
- 第二條 志願者ハ試験ノ時其年齡十四年ヨリ滿十六年迄ノ者ニ限ル
- 第三條 生徒ノ學期ハ六期即チ六ヶ年トス
- 第四條 生徒ノ定員ハ三十六人トス
但シ時宜ニ因リ之ヲ増減スルコトアリ
- 第五條 生徒徵募ノ期限徵募スヘキ人員試験ノ時日及ヒ試験ノ科目等ハ豫メ機關學校ヨリ廣告ス
- 第六條 志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ誕辰證書及第三號書式ノ履歷書相添身元引受人ヨリ出願ス可シ
- 第七條 身元引受人ハ二名トシ俱ニ東京府下或ハ神奈川縣下横須賀住居ノ者ニシテ同

府下或ハ同縣下ニ邸宅ヲ所有スル者ニ限ル

- 第八條 志願者ハ必ス體格検査及ヒ學科試験ヲ受ク可キ者トス
- 第九條 體格検査ハ海軍醫官機關學校官員立會之ヲ施行シ合格ノ者ニ非サレバ學科試験ヲ爲サス
- 第十條 學科試験ハ校長ノ而前ニ於テ教官之ヲ施行ス
- 第十一條 試験及第中優等ノ者ヲ選拔シ其年廣告ノ人員ニ應シ入校ヲ命ス
- 第十二條 入校ヲ命スルキ其生徒ハ第四號書式ノ誓書ヲ出シ身元引受人ハ第五號書式ノ證書及ヒ第六號書式ノ證書ヲ出ス可シ
- 第十三條 生徒ハ入校ノ日ヨリ一切官費トス
- 第十四條 生徒修業中ハ退校ヲ願フコト許サス然レモ一家ノ安危ニ係ル等ノ事情アレハ出願スルヲ得此場合ニ於テハ調査ノ上止ムヲ得サル者ハ退校ヲ命スルコトアリ
- 第十五條 生徒左項ニ該ル者ハ退校ヲ命ス
但シ第二項第三項ノ者ニハ海軍部内ニ於テ相當ノ職務ヲ命スルコトアリ
又其第一項ノ者ハ其退校ノ事由及ヒ姓名ヲ公布ス
- 第一 行狀不良ノ者
- 第二 數回試験ニ落第スル者
- 第三 傷痍疾病等ニ罹リ不治ノ症ニ陷ル者
- 第十六條 其退校ヲ命セラレタル者ハ在校中ノ諸費償還ノ爲メ一ヶ月金拾圓ノ割合ヲ以テ身元引受人ヨリ納メシム

但シ海軍部内ニ於テ相當ノ職務ヲ命スル者及其傷疾疾病ノ公務ニ原由スル者ハ諸費ヲ償フニ及ハス

第一號書式 用紙美濃紙 二ツ折正副
海軍機關學校入學願

何府縣華士族平民何某男或ハ弟

何 某

右之者今般海軍機關學校へ入學機關科修業仕度志願ニ候條御檢査之上御採用相成候様其筋ニ御申立被下度因テ誕辰証書並履歴書相添此段奉願候也

何府縣華士族平民

東京 何郡區何町村何番地住或ハ寄留
横須賀 何 某 印

身元引受人

何 某 印

同

同

同

何 某 印

東京府知事 何 某 殿
神奈川縣令 何 某 殿

前文願之趣相違無之候條御試験之上御採用有之度候也

年號月日

東京府知事 何 某 印
神奈川縣令 何 某 印

海軍機關學校長 何 官 何 某 殿

第二號書式 用紙美濃紙 二ツ折
誕辰証書

何府縣華士族平民 何 某

一出生地名並年月日
一年齡何年何月何ヶ年何ヶ月
右之通相違無之候也
年號月日

身元引受人 何 某 印

同 何 某 印

何府縣何郡區何町村

區戶長 何 某 印

朱書 本籍ノ區戶長ニ限ル

第三號書式 用紙美濃紙 二ツ折

學業履歴書

何府縣華士族平民 何 某

生長ノ地名及教育ヲ受ケタル學科年月校塾師名其他技藝職業等アラハ詳細記スハシ
右之通相違無之候也
年號月日

身元引受人 何 某 印

第四號書式 用紙美濃紙 二ツ折

同 何 某印

誓書
私儀願ニ因テ御試験ノ上官費人校脩業被命候ニ付テハ成業ノ後ハ誓テ海軍ニ從事可仕
且數回試験ニ落第等ノ節ハ海軍部内ニ於テ如何様ノ使役被命候得共決テ違背仕間敷依
テ誓書如件

年號月日

何府縣華士族平民何某男或ハ弟

何 某印

海軍機關學校長

何官 某殿

第五號書式 用紙美濃紙 二ツ折

引受證書

何府縣華士族平民何某男或ハ弟

何 某

右之者御試験之上今般海軍機關學校へ入學機關生徒被命候ニ付テハ御規則嚴重ニ爲相
守可申且當人身元之儀ハ何事ニ不限私共引受御規則之通御處分相受可申尤公事出張又
ハ私事旅行等致候節ハ屹度代人相立御差支無之様可仕候仍證書如件

何府縣華士族平民
東京 何郡區何町村何番地住或ハ寄留
横須賀

年號月日

身元引受人 何 某印

同 同

何 某印

海軍機關學校長

何官 何某殿

第六號書式 用紙美濃紙 二ツ折

族籍證書

原籍 何府縣華士族平民戸主或ハ誰男又ハ弟 何 (○印ハ朱行)

住所 何郡區町村番地ヲ精細ニ記ス寄留ノ者ハ寄留先ノ住所ヲモ委敷ク記ス可シ

父母名 (養子ハ養實共ニ記シ亡ナレハ亡ト記シ父兄官位勲
兄弟名 アレハ存亡共ニ之ヲ記ス可シ)

姉妹名

祖父母名

伯叔父母名 (養子ハ養實共ニ記シ亡ハ記スルニ及ハス)

前書之通相違無之候也

年號月日

身元引受人 何 某印

同

何

某印

別冊 (前文本號前三十六葉ニ載ス)

丙(内務省乙第四十七號御達)

十四年九月廿九日

明治何年度 (用紙通常郵紙正副貳通可差出)
河港道路橋梁其他修築工費總計帳

(原書ノ朱字ハ上下ニ括弧)
印ヲ以テ之ヲ分ツ以下做之

府	縣
一金	
金	地方稅
內金	協議費
金	篤志金
此譯	
金	河川工費
內金	何川流域工費
金	地方稅
內金	協議費

金	何川流域工費
內金	地方稅
金	協議費
內	
金	港灣工費
內金	何港工費
金	地方稅
內金	協議費
金	何港工費
內金	地方稅
金	協議費

[幾流域有モ此例ニ倣フ]

金	沙除工費
內金	地方稅
金	協議費
金	道路工費
內金	內〔國縣里道確定候上國縣道見込、可書載〕
金	國道工費
內金	地方稅
金	協議費
內金	縣道工費
金	地方稅
內金	協議費
金	里道工費
內金	協議費

金	篤志金
內	橋梁工費
金	金〔國縣道云々前同上〕
內金	國道工費
金	地方稅
內金	協議費
金	縣道工費
內金	地方稅
金	協議費
金	里道工費
內金	地方稅
金	協議費
金	水溝渠工費
金	樋開堰埭溜池用惡

百

〔新事業ノ分橋錢
請求等ノ事由〕

內金
金

諸色代
諸職賃

人夫賃

修繕架渡

同何拾何ヶ所

金

協議費

内譯前ニ同シ

計小

何拾何ヶ所
金

金

諸色代
諸職賃

協議費

內金

諸色代
諸職賃

金

人夫賃

計總

各道

金

金金

諸色代

地方稅
協議費

內金

諸職賃

金

人夫賃

右之通相違無之候也

年號月日

府縣長官印

〔以下廿行ニ縦罫ノミ略之〕

明治何年度

樋管堰埭溜池用悪水路修築工費金高帳

府縣名

樋開之部

國郡市村名

一百

右之通相違無之候也

年 號 月 日

府 縣 長 官 印

(以下五行用縦罫ノミニ付略ス)

丙 乙 第四十八號

別紙戊第三號之通(神道總裁神佛各管長)ノ相違候條此旨爲心得相違候事

明治十四年十月三日

府 縣
內務卿松方正義代理
內務大輔土方久元

(備考)本日戊第三號御達(下條全文ヲ載ス)參觀

丙 戊 第三號

教員教會所說教所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ或ハ平素衆庶ニ參拜セシムル等神社寺院ノ所爲ニ做ラモノ有之候テハ不都合候條心得違無之様可爲致此旨相違候事

明治十四年十月三日

府 縣
內務卿松方正義代理
內務大輔土方久元

大 乙 第三十三號

府 縣 (沖繩縣ヲ除ク)

當省租稅局員諸稅監查ノ爲メ巡回候者ハ自今印章ヲ提携爲致候ニ付テハ右印章參照ノ爲メ租稅局ヨリ相渡スヘシ候條警察署(東京府ハ之ヲ除ク)郡區役所及ヒ戶長役場へ配付シ置ク可シ此旨相違候事

明治十四年九月廿七日

大藏卿佐野常民

大 乙 第三十四號

府 縣 (沖繩縣ヲ除ク)

本年當省乙第二十五號達國稅金領收順序中第十一條左ノ通増補シ義ノ十一條ヲ十二條ト更正候條此旨相違候事

明治十四年九月廿八日

大藏卿佐野常民

第十一條 郡區長ハ各稅每納期皆納コ至ラハ其金額ヲ管轄廳ニ報告スヘシ
(備考)十四年八月廿七日乙第廿五號御達(全報六十二號三葉)參觀

丙 布 第二號

府 縣 (輪廓附)

陸軍警察規則別冊之通相定候條此旨布達候事

明治十四年九月十五日

陸軍卿大山 巖

陸 軍 警 察 假 規 則

陸軍警察假規則

第一條 此規則ハ憲兵平時ニ於ケル陸軍警察ノ勤務ヲ示スモノニシテ行政及ヒ司法警察並ニ海軍ニ關スル警察ノ事務ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

第二條 陸軍警察ノ趣意タル軍紀風紀ヲ維持スルニ在ルヲ以テ憲兵ハ常ニ軍人軍屬ノ行爲ニ注目シ其非違ヲ警防スヘシ

第三條 現行犯罪人ハ直チニ之ヲ逮捕シ現行ニ非サル犯人ハ命令書ヲ以テ逮捕スヘシ
但懲罰ニ屬スヘキモノ及ヒ違式註違ノ犯人ハ之ヲ引致スルモノトス

第四條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

第五條 左ノ場合ニ於テハ現行犯ニ准ス
一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セラル、時
二 兇器贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ其舉動ニヨリ犯人ト思料シタル時
三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メ其戸主ヨリ處分ヲ請求シタル時

第六條 現行犯人ヲ取押フル爲メ人家ニ入ルヘキ時ハ官姓名ヲ述ヘ直チニ入ルコトヲ得若シ之ヲ拒ミ或ハ藏匿スルモノアル時ハ懇ロニ説諭シ尙ホ用サル時ハ侵入スルコトヲ得

但外國人ノ邸宅ニ係ルハ其主ノ承諾ヲ得テ搜索スヘシ若シ肯セサ其時ハ其外部ヲ警備シ上官ノ指揮ヲ請フヘシ

第七條 現行犯罪アル時ハ犯人ヲ取押ヘタルト否トニ拘ハラヌ調書ヲ作ルヘシ

第八條 死傷其他檢證ヲ要スル者アル時其證憑ト爲ルヘキ物件ハ悉ク原態ヲ保存シ他人ノ騷擾ヲ防キ見證人ノ離散ヲ制シ現場ノ景況ヲ屯所若クハ分屯所ニ報シ臨檢ヲ請フヘシ

第九條 脱走及ヒ休暇期盡キテ還ラヌ又ハ豫備後備軍ニ在テ擅ニ他管ニ出或ハ召集ニ應ゼサル軍人ト思料スヘキ者アル時ハ休暇免狀宿泊證書或ハ證據ト爲ルヘキモノヲ檢シ其之ヲ有セサル者ハ逮捕若クハ引致スヘシ

第十條 現行ニ非サル犯人ヲ認知スル時ハ順序ヲ經テ隊長ニ申告シ其命ヲ俟テ處分スヘシ

第十一條 告訴發ハ詳細ニ聞取り事實相違ナク法ニ悖ラサルモノハ現行非現行犯ノ區分ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ
但告訴發書ニハ署名捺印セシムヘシ

第十二條 命令書ヲ以テ犯人ヲ搜索スルニ方リ其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潜匿シタリト思料スル時ハ其郡區吏員若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索スヘシ若シ戸主之ヲ拒ミ或ハ藏匿スル時ハ第六條ノ例ニ依ルヘシ

第十三條 命令書ヲ以テ犯人ヲ逮捕スルニ方リ命令書ヲ見ンコトヲ請フ時ハ之ヲ示スヘシ

第十四條 犯人搜索ノ爲メ人相書ヲ要スル時ハ隊長之ヲ各分隊長ニ達シ分隊長ハ之ヲ部下ニ付シ各自ノ勤務手帖ニ記載セシムヘシ
但其犯人捕ニ就キ若クハ死去シタル時ハ隊長ヨリ速ニ其旨ヲ達スヘシ

第十五條 犯人ヲ逮捕スルニ方リ踪跡ヲ失スル時ハ罪狀并ニ容貌衣服携帶ノ物品其他

證憑ト爲ルヘキモノヲ詳記シ速ニ最寄屯所若クハ分屯所ニ報スヘシ

第十六條 犯人他區ニ遁逃或ハ潜匿スルコトヲ探知スレハ速ニ其區ノ屯所若クハ分屯所ニ報シ若シ他ノ使府縣ニ係ル時ハ隊長ヨリ其使府縣ニ逃捕若クハ引致テ依頼スヘシ

第十七條 犯罪ニ關スル物件ヲ差押フル爲メ家宅搜索ヲ要スル時ハ命令書ヲ帶シ其郡區吏員若クハ隣佑ノ立會ヲ求メ搜索スヘシ若シ戸主之ヲ拒ミ或ハ藏匿スル時ハ第六條ノ例ニ依ルヘシ

第十八條 犯罪ニ關スル物件ハ勉メテ原態ヲ變改セサルヲ要メ其輒ク轉移スヘカラサルモノハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クヘシ
但已ヲ得サル場合ニ於テハ親屬又ハ隣佑ニ寄託スルコトヲ得

第十九條 隊長ハ犯罪ノ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署又ハ諸賢社ニ事由ヲ通知シ其證憑トナルヘキ者アル時ハ之ヲ差押ユルコトヲ得ヘシ

第二十條 犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ隊號官姓名等ヲ取調其逮捕ニ係ルモノ、機帶品ハ悉ク之ヲ取揚クヘシ就中劍銃火藥其他危害ト爲ルヘキモノニ注意スヘシ
但證人ト爲ルヘキモノニ對シ屯所若クハ分屯所ニ到ルヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 分屯所ニ於テ逮捕若クハ引致シタル犯人(違式註違ヲ除ク)ハ總テ屯所ニ送付スヘシ
但屯所最寄ニ於テ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ屯所ニ送付シ然ル後分屯所ニ

報スルモ妨ケナシ

第二十二條 違式註違ノ犯人ハ引致シタル屯所若クハ分屯所ニ於テ違式註違條例ニ照シ士官之ヲ處分スヘシ

第二十三條 屯所若クハ分屯所ニ於テ犯人ヲ逮捕若クハ引致シタル時ハ直チニ本人所管ニ通報スヘシ

第二十四條 分屯所ヨリ犯人ヲ屯所ニ送付スル時ハ調書ヲ作り機帶品及ヒ贓物等ト同時ニ送致スヘシ
但機帶品及ヒ贓物ハ犯人ノ面前ニ於テ目錄ヲ作り之ニ調印セシムルモノトス

第二十五條 屯所ニ於テ犯人ノ取調ヲ爲ス時ハ下士ヲシテ口供ヲ書取ラシメ兵卒一名若クハ二名ヲシテ看守ヲ爲サシムヘシ

第二十六條 犯人取調中黨類アルヲ認知スル時ハ速ニ隊長ニ申告スヘシ

第二十七條 犯罪ニ關スル物件ニ付鑑定人ヲ要スル時ハ分隊長ヨリ直チニ之ヲ召喚スルコトヲ得

第二十八條 鑑定ハ取調ヲ爲ス者ノ面前ニ於テ之ヲ爲サシメ其鑑定書ニ署名捺印ヒシムヘシ

第二十九條 犯ハノ取調ヲ爲スニハ決シテ拷掠究治スルコトヲ許サス其罪ニ服セサル者ハ強ヒテ甘結セシムルコトヲ要セス

第三十條 分隊長ハ犯罪ノ軍律ニ觸ル、者ハ假口供並ニ關係書類ヲ隊長ニ送呈シ指揮

ヲ請ヒ懲罰ニ屬スヘキ者ハ本人ヲ直チニ其所管ヘ交附スヘシ然レモ其軍律ニ觸ル者ニ關涉スル時ハ隊長ノ指揮ヲ請フモノトス
但懲罰ニ屬スヘキモノニシテ本人ノ所管東京ニ非ラサルモノハ陸軍裁判所ニ送付スルモノトス

第三十一條 隊長ハ分隊長ヨリ犯人處分ノ指揮ヲ請フ時ハ尙ホ之ヲ審覈シ假口供並ニ關係書類ヲ添ヘ陸軍裁判所ヘ送付スヘシ

第三十二條 犯人取調ノ爲メ之ヲ拘留スルモ分屯所ニ於テハ一日(二十四時間)屯所ニ於テハ三日(七十二時間)ヲ過クルヲ得ス若シ事故ニヨリ定期ヲ超ユル時ハ其事由ヲ詳記シ上官ニ申告スヘシ

第三十三條 犯人ヲ護送スル時ハ嚴重ニ其取締ヲ爲スヘシ然レモ之カ爲メ苛酷ノ取扱ヲ爲スヘカラス

第三十四條 犯人二名以上ヲ同時ニ護送スル時ハ其罪狀ニ依リ之ヲ別異スヘシ

第三十五條 犯人暴行ヲ以テ逃亡セントスル時ハ勉メテ之ヲ制シ猶從ハサル時ハ相當ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 犯人若シ逃亡シタル時ハ速ニ追跡スヘシト雖モ之カ爲メ他ノ犯人ノ護送ノ遅延スヘカラス

第三十七條 暴行ヲ鎮壓スル爲メ犯人ニ死傷アル時ハ其顛末ヲ速ニ屯所若クハ分屯所ニ報シ檢視ヲ請フヘシ

第三十八條 中(少)尉若クハ軍曹檢視ヲ爲メニ方テハ先ツ見證人ニ就キ其事情ヲ聞取り然ル後之ヲ檢視シ死傷ノ原因景狀等ヲ詳記シ證書ヲ作り診斷書ヲ添ヘ之ヲ上官ニ呈スヘシ

第三十九條 犯罪ノ事蹟并ニ器物等ハ詳細取調犯罪ノ證據トナルヘキモノハ之ヲ拾聚スヘシ

第四十條 行兇人逃亡シ被害人生存スル時ハ其行兇人ノ容貌衣服其他事情ヲ聞取り之ヲ詳記シテ探索ノ用ニ供スヘシ

第四十一條 檢視終レハ被傷者及ヒ死屍ハ本人ノ所管ニ交付スヘシ若シ其所管東京ニ非サル時ハ被傷者ハ東京陸軍病院ニ送付シ死屍ハ假埋ヲ爲シ其旨ヲ所管ニ通報スヘシ

第四十二條 陸軍裁判所ヨリ死刑執行ノ通報アル時ハ警備ノ爲メ適宜人員ヲシテ臨場セシムヘシ

第四十三條 證書類ハ左ノ書式ニ照シ楷行ノ書体ニ片假名ヲ交ヘ行文ハ勉メテ簡明ナルヲ要ス若シ止ムコトヲ得ス改竄塗抹挿入等ヲ爲ス時ハ必ス本人ヲシテ認印セシムヘシ

命令書式

憲兵官姓名

何ノ誰(所管隊號官姓名)義何々ニ付逮捕(引致)(家宅搜索)可致候事

逮捕證書式(引致ニ係ル證書モ亦之レニ準ス)

年月日

憲兵隊長

官姓名印

所管隊號

官姓名

右ノ者(逃亡殺傷等)ノ所業有之趣ヲ以テ逮捕ノ命ヲ奉シ或ハ何ノ誰ヨリ何々ノ訴有之ヲ以テ直チニ其場ニ臨ミ或ハ何誰ヲ毆打スルヲ見認メ(逮捕シタル月日場所並ニ現場ノ景況ヲ詳細ニ記載ス)依テ逮捕致候(事故ニヨリ本犯逮捕スル能ハサル時ハ其事由ヲ記ス)此段證書候也

年月日

憲兵第幾分隊

官姓名印

物件差押證書式

家宅搜索ヲ爲シタル時ハ立會人ヲシテ連署セシムヘシ

何々ノ件ニ付物件差押ノ命ヲ奉シ戸長或ハ隣佑立會ノ上家宅搜索ヲ遂候處左之通候間此段證書候也

一犯人ノ所管隊號官姓名

一犯罪ノ事由

一戸主ノ姓名

、、、、、

、、、、、

診斷書式

年月日

檢視證書式

差押ヘタル物件ニ付犯人或ハ戸主ノ辨解アリタル時ハ之ヲ別紙ニ記載スヘシ

年月日

憲兵第幾分隊

官姓名印

立會人

官姓名印

一搜索シタル室

一開披シタル器具

一差押ヘタル物件

一搜索ノ月日時間

、、、、、

、、、、、

、、、、、

、、、、、

何月何日何時何誰ヨリ變死傷ノ申報有之醫官何某同道臨檢候處何誰或ハ姓名不詳何年位ノ者變死或ハ關殿殺傷ニ有之(疵ノ大小深淺出血ノ多少皮膚ノ景況等詳細ニ之ヲ記ス)全ク謀殺自殺又ハ強盜等ノ所爲ト相見ヘ何々ヘ引渡シ又ハ假埋取計置候依テ醫官診斷書并ニ見證人證書相添此段證書候也

憲兵第幾分隊

官姓名印

所管隊號

姓名

凡例
 製作所ニテ所以上アル府縣ハ簡所限リ別廉ニ記シ每器小計（製作所毎ノ計數ヲ寄スルノミ）ノ區ヲ設ケ末尾ニ合計ヲ掲グベシ
 表中種類ノ區中へハ尺度ニテハ鍍黃銅竹木鯨骨馬骨製ノ類斗量ニテハ一斗量ヨリ五斗量ニ至ル斗概ハ大中小權衡ニテハ各其量目ヲ區別スベシ
 秤秤ノ區へハ千木銚皿鍵銀厘秤ノ類分銅ノ區中へハ黃銅銑鍍製ノ類ヲ區別スベシ

斗量製作所	尺度一種	尺曲	尺鯨	度尺	何國何區何町 郡何村
	類	類	類	類	
	檢查濟員數	檢查濟員數	檢查濟員數	檢查濟員數	
	原	原	原	原	
	價通	價通	價通	價通	
計	計	計	計	計	價

權衡製作所

何國何區何町
郡何村

斗量一種	斗量	斗概	斗水	斗穀	何國何區何町 郡何村
	類	類	類	類	
	檢查濟員數	檢查濟員數	檢查濟員數	檢查濟員數	
	原	原	原	原	
	價通	價通	價通	價通	
秤秤	秤秤	秤秤	秤秤	秤秤	價
計	計	計	計	計	價
天秤	天秤	天秤	天秤	天秤	價
類	類	類	類	類	價
檢查濟員數	檢查濟員數	檢查濟員數	檢查濟員數	檢查濟員數	價
原	原	原	原	原	價
價通	價通	價通	價通	價通	價

分銅	秤天	分銅	種	計	類	檢査濟員數	原	價	通	價	三器合計					
											衡權	量斗	度尺	種	類	檢査濟員數
分	天	秤	秤	概	量	量	尺	尺	種	類	檢査濟員數	原	價	通	價	
銅	秤	秤	概	量	量	尺	尺	種	類	檢査濟員數	原	價	通	價		
合計																

右ハ當府縣(明治何年七月ヨリ十二月マテ一月ヨリ六月マテ)度量衡檢査員數計算書
面之通候也
年 月 日
農商務卿宛
(府知事縣令)印

〔太政官〕 第八十四號 十四年九月廿六日 官省院使廳府縣
內國勸業博覽會事務局本月二十日限り相廢シ殘務ノ儀ハ農商務省ニ於テ取扱候條此旨相達候事

〔太政官〕 第八十五號 十四年九月廿七日 府 縣
本年八月第七十五號(全報六十二號三十二葉ニ全載ス)達大藏省租稅局松江出張所收稅區畫中ハ鳥取縣ヲ追加候條此旨相達候事

〔太政官〕 第八十六號 十四年十月四日 警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除)
治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公廷取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡查爲相詰又拘留被告ハ審問中其護衛ノ巡查或ハ押丁ヲシテ守卒トシテ公廷ニ入り看護セシムヘン此旨相達候事

〔太政官〕 第八十七號 十四年十月十日 官省院使廳府縣
明治十年(十二月)第九十一号達神宮並官國幣社職員中左ノ通追加候條此旨相達候事
但各社ノ便宜ニ依リ內務省へ稟議ノ上之ヲ置ク其俸給ハ內務卿適宜之ヲ定ム
等外出仕 定員ナシ

〔第一號〕 (輪廓附) 府 縣
諸鐵山借區稅之儀是迄前一ヶ年分ヲ翌年一月一纏之計算ヲ以上納仕來候處本年第四十九號公布ニ依リ本年分ハ來ル十一月限り無遲延上納可致此旨相達候事
但是迄上納延滞候分ハ早々相納可申候事
明治十四年十月五日 工部卿山尾庸三

司丁第十四號

大審院裁判所

明治十年丁第五十六號ヲ以テ相達候訟獄審理表雛形ハ相廢シ更ニ別紙之通一年度一表ニ取纏メ翌年二月限リ可差出此旨相達候事
但シ十三年度分入用ニ付本年十二月中取調可差出候事(別紙略ス)
明治十四年九月廿六日
司法卿田中不二磨

司丁第十五號

地方裁判所

明治十一年丁第十四號ヲ以テ相達候勸解表雛形ハ相廢シ更ニ別紙ノ通一年度一表ニ取纏メ翌年二月限可差出此旨相達候事
但十三年度分入用ニ付本年十二月中取調可差出候事(別紙略ス)
明治十四年九月廿六日
司法卿田中不二磨

丙乙第五十壹號

警視廳府縣(沖繩縣ヲ除ク)

府縣監獄看守月俸給與規則及ヒ旅費支給方ハ適宜相定メ當省ニ可届出此旨相達候事
但今後變更ノ都度可届出事
明治十四年十月十五日
內務卿松方正義

司甲第五號

司法卿田中不二磨

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ之アルヘク候條此旨布達候事
明治十四年十月十日
司法卿田中不二磨

畢

〔前〕 明治六年第一月 司法省日誌 第十四號

司司法省日誌明治六年第十四號 壬申十一月五日 三重縣伺

此ニ人アリ金千兩ノ負債有之候處約束ノ通返金不致金主ヨリ訴訟ニ及吟味之上兼テ御布令有之候御規則ニ照準借主所有物賣拂身代即濟方申付候節僅カニ百兩ナラテ返辨不出來候共金主取置候千兩ノ證券ハ借主ニ可差戻譯故又ハ皆返辨ニ不至限リハ假令數年ヲ經ルトモ右證券金主方ニ取置借主身代取直スニ隨ヒ殘金退々濟方可爲致譯ニ候哉此段相伺候也
〔指令〕(一月十八日)證券ノ裏ニ不足ノ分退テ身代持直シ次第濟方可受旨記載シ縣廳於テ押印ノ上債主ニ可相渡事

司日誌第十四號

壬申十一月

新治裁判所伺

華士族卒へ掛候金穀貸借ハ明治二年已六月以前ノ分ハ不及裁判旨第三百号ノ御布告ニ因リ左之件々相伺候

第一條 宮華族其他寺院ノ名目ヲ以其實農商ヨリ金銀貸附置候事件ヨリ起ル訴訟ハ無論裁判ニ不及可然哉

第二條 舊旗下并同家來等へ掛候金穀貸借明治二年已六月以前ノ證書コテ右當人如今民籍編入ノ分ニ候共是亦裁判ニ不及可然哉

第三條 先般郷印證文訴訟御規則ニ甲乙丙云々ト有之候得共甲原告ニテ乙被告トナリ償却スルノ力ナキ時ハ身代限ノ裁判ト有之然ル處今般華士族卒へ掛候金穀貸借ノ儀ニ付御布告ニテハ乙ヨリ丙(華士族ノ族)へ掛ル事能ハサル時ハ乙へ説諭方差支實ニ憫諒ニ被存雖然情ヲ以法ヲ枉ル事能ハサルハ甲乙ノ御規則ノ通裁判仕可然哉

第四條 從前遊女渡世ノモノ往々有之候處右ノ者共へ掛リ遊女買入或ハ雇入資金ノ証書面ヲ以期月打過返辨不致趣ニテ訴出候件々不少右ハ今般娼妓賣買スルハ古來御制禁ニテ雇入ノ資本ハ賍金ト看做スト有之就テハ右等ノ事件ハ法憲ヲ犯スノ資不正ノ貸借ニ付裁判ニ不及可然哉

右件々至急御指令有之度相伺候也

〔指令〕(一月十八日)

第一條 其實農商云々ト而已ニテハ了解難相成候間尙取調可伺出事

第二條 伺之通 第三條 當省第三十二号並第四号布達ノ通可相心得事

第四條 伺之通

〔日誌第十四號〕 明治六年一月十三日 京都裁判所伺

今般御達相成候罪案書凡例第二十四條ニ賍金云々錢ハ十貫文ヲ以テ一兩トシ其地方ノ

時價アレハ時價ニ因ルト有之候處辛未十二月十九日ノ御布告ニ新舊貨及ヒ天保錢以下元十二文耳白錢ニ至ル迄比較表ヲ以テ夫々定價被仰出候上ハ各地方ニ於テ時價無之等也若シ有之ハ違令ノ罰ヲモ可擬者ニ可有之然ニ前書ノ通り計算可致トノ御規則ニ候而ハ刑律ニ抵觸致シ不都合ニハ有之問敷裁總舊幣ノ如キハ致方無之者ニ候得共全國通用ノ貨幣地方ニ於テ時價有之候ハ最モ不體裁ニ可有之如何ノ御振合ニ御座候哉此段相伺候至急御指揮被下度候也

〔指令〕(一月十八日) 罪案凡例第二十四條錢ハ十貫文ヲ以テ一兩トシ其地方ノ時價アレハ時價ニ因ル云々偶校合ニ失ス今疑義ニヨリテ改正スル事左ノ如シ

第二十四條 賍金ハ金幣ヲ分別スルニ及ハス銅錢ハ銅貨品位ニ因リ鐵錢ハ鐵錢價位ニ因リ金ニ計ヘテ記載シ舊幣ノ如キハ地方ノ價位ニ因ル

〔日誌第十四號〕 大分縣伺

第一條 太政官第三百號御布告ノ華士族卒へ掛リ金穀貸借云々及ヒ第三百十七号平民相互ノ金穀借貸慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ不及云々之御布令ニ基キ右期限以前ノ訴訟不受理ノ儀ハ勿論ノ事ニ候へ共譬へハ自今田畑買或ハ

家屋敷取遣等ノ訴訟ニシテ其原由ヲ尋レハ數年以前金穀借貸セヨリ由來スルモノ、如キハ前頭ノ御布令ニ基キ右期限以前ニ係ル分ハ受理セスノ不苦哉

第二條 金穀借貸訴訟平民ハ丁卯十二月晦日華士族卒ハ己巳六月以前ニ係ルモノコテモ己巳地方ノ廳裁ヲ經シモノ其裁決ニ違フヨリ再ヒ其事件ノ爭訟起ルモノ受理ナス

第三條 金穀借貸根元ハ前頭ノ期限ニアツテ其後故ヲ以テ雙方熟議ノ上證書ヲ新ニシ右期限後ノ借貸ニ似タル訴訟ハ現實其以前ニアルヲ以テ受理セス共不苦哉

〔日誌第十四號〕 大分縣伺

〔日誌第十四號〕 大分縣伺

〔日誌第十四號〕 大分縣伺

〔日誌第十四號〕 大分縣伺

〔日誌第十四號〕 大分縣伺

右ノ廉々至急御指揮有之度此段相伺候也

〔指令〕(一月十八日) 第一條 伺面明瞭ナラサルニ左之通相達候間尙難決斷ハ更ニ可伺出事

- 一 田畑賣買或ハ家屋敷取遣云々ト有之ハ從前賣物ニ取置候儀ニ候ハ、當省第四十
- 一 号布達第十條ニ基キ裁判可致事
- 一 若シ引當書入ニ致シ置候迄ノ儀ニ候ハ、兩御布告ニ依リ受理ス可カラサル事
- 第二條 廳裁ヲ經シ者ト雖モ受理ス可カラサル事 第三條 伺之通

〔日誌第十四號〕 壬申十一月廿六日 磐前縣伺

平民相互ノ金穀借貸ノ儀ハ慶應三年丁卯十二月晦日以前ニ係ル者ハ一般裁判ニ不及云々御達有之然ルニ田畑借貸ノ儀ハ十年二十年遠キハ七八十年ノ久ニ至リ纔ノ金子ヲ以借貸或ハ質入等致シ素ヨリ細民ノ間確乎タル證券モ無之反右同様ノ書付ヲ以即今互ニ争ヒ逐ニ及出訴候類往々有之殊ニ今般地券御發行ニ付テハ尙更陸續出訴ニ及候儀ニ有之右ハ前條金穀借貸同様田畑質入借貸等ノ儀モ年數ニ係リ裁判ニ及不及トノ區別有之候哉御定規相心得度此段相伺候也

〔指令〕(一月十八日) 質地ノ儀ハ追テ及改正候迄左ノ通相心得ヘシ 質地證文中ニ年季明不請戻候ハ、流地可致由認有之分ハ年季明ヨリ二ケ月ノ内訴出候ハ、請戻サスヘシ 流地可致旨ノ文言認無之證文ニ候ハ、年季明ヨリ十ケ年ノ内訴出候分ハ受戻サスヘシ 年季限無之金子有合次第可受戻旨ノ證文ハ質入ノ日ヨリ十ケ年過候ハ、流地タルヘシ年季ハ十ケ年迄テ限トス十ケ年以上ノ質地ハ期限ニ至リ受戻ノ儀訴出候トモ流地タルヘシ

〔日誌第十四號〕 壬申十一月廿八日 京都裁判所伺

愛宕郡松ヶ崎村岩崎喜右衛門妹

登免

右ノ者燈明寺住持日脱ト姦通致シ候所登免姉伊知儀モ兼テ日脱ト通姦致シ居候ヨリ妬憤ノ餘姦死致シ候ヲ日脱ト俱ニ解仰シ竊ニ埋藏致シ候姊ノ自死スルハ邪行自ラ招クモノコ付登免ノ姦罪ニ加重ハ致シ難ク候處尊屬ノ死スル禮ニ依テ斂葬セス竊ニ其屍ヲ埋藏スル里長地隣ノ他人ニ於ルトハ情罪同シカシサレハ綱領ニ正條無之清律ニモ尊長ノ死屍ヲ毀棄スル條ハ有之候得共埋藏ノ條ハ相見不申候處右毀棄ノ律ニ總麻以上ノ尊長ハ凡人ヨリ一罪加重スト有之ニ比照シ登免儀右犯科ニ付杖八十申付當否如何可有之哉此段相伺候也

〔指令〕(一月十八日) 犯姦律 和姦スル者懲役七十日 二罪俱發條ニ依リ私理ノ罪ハ收贖ス可ケレハ論セス

(畢)

明治四年辛未十一月之部

〔太政官〕

十一月二日

諸省府縣判任以下ノ履歷各應於テ取調候ニ付テハ人々其姓名ノ左傍ニ初テ出仕ノ年齢ヲ朱書ニテ當干支幾歲ト記載可致事

〔太政官〕

十一月二日

今般播磨國并丹波但馬丹後國ノ内從前ノ諸縣ヲ被廢更ニ左ノ縣ヲ被置候事

姫路縣
豐岡縣

播磨國一圓
丹後國但馬國一圓

丹波國 多紀郡 氷上郡 天田郡

〔太政官〕

十一月二日

今般三陸兩羽磐城岩代諸國從前ノ諸縣被廢更ニ左ノ縣々被置候事

平 縣

磐城國宇多郡ノ内 行方郡 標葉郡 榎葉郡 田村郡
磐城郡 石川郡 菊多郡 白川郡 磐前郡

二本松縣

磐城國 白河郡
岩代國 信夫郡 安達郡 安積郡 岩瀬郡 伊達郡

仙臺縣

岩城國 宇多郡ノ内 亘理郡 伊具郡 刈田郡
陸前國 牡鹿郡 桃生郡 遠田郡 志田郡 賀美郡

若松縣

黑川郡 宮城郡 名取郡 柴田郡
岩代國 會津郡 耶麻郡 大沼郡 河沼郡

一關縣

陸前國 本吉郡 登米郡 栗原郡 玉造郡 氣仙郡

盛岡縣
秋田縣
青森縣
山形縣
置賜縣
酒田縣

陸中國 膽澤郡 江刺郡 磐井郡
陸中國 閉伊郡 和賀郡 稗貫郡 紫波郡 岩手郡 九戸郡
陸中國 鹿角郡
羽後國 平鹿郡 雄勝郡 仙北郡 由利郡 川邊郡 秋田郡 山本郡
陸奧國 一圓 外松前共
羽前國 村山郡 置賜ノ内 最上郡
羽前國 置賜郡ノ内
羽前國 田川郡 羽後國 飽海郡

一太政官 史

十一月二日

今般歐米國各國へ被遣候使節供連ノ儀大使二人副使一人壹人宛現實召連候分ハ下等ヲ以テ船賃并ニ船中賄料旅籠料ハ下賜支度料日當御手當金ハ不下賜其餘書記理事官等ハ從者召連候儀不相成候事
一月給并ニ旅費ノ儀ハ三月分當地ニテ取越相渡シ其余ハ彼地ニテ渡方致シ候積リニ付右ノ外當地ニテ立替金等渡シ方ノ儀ハ不相成候事

一太政官

十一月三日

盲人ノ官職自今被廢候事
但シ從前檢校勾當座頭以下配當金取集メハ勿論各持場ヲ區分シ針治按摩等他ノ營業ヲ妨ケ候儀今後急度被差停候條是迄來往居留ノ盲人銘々家業勝手ニ相營セ復籍入籍等其者ノ望ミニ任セ各地方官ニ於テ寛裕ニ可取扱候事

一太政官

十一月四日

府 縣

土木關係ノ儀ハ勿論孝子其外奇特者へ賞典ノ類及ヒ究民救助取扱等ノ儀ニ付テハ兼テ御達ノ趣有之候處問々專斷ノ處置モ有之趣不都合ノ事ニ付自今御委任ノ外ハ總テ伺ノ上可取計事

一太政官

十一月四日

縣

各縣石高拜借金年割上納ノ分金札ヲ以テ可相納等ノ處當年ヨリハ都合ニ寄リ正金又ハ方今御發行ノ正金引換新札等ヲ以テ上納致候共不苦候事

一太政官

十一月五日

外務省中左ノ通被置候事
總領事 五等官

領事 六等官

副領事 七等官

代領事 八等官

一太政官

十一月七日

來ル十七日大嘗祭十八日十九日翌明節會ニ付右三日休暇ノ事

一太政官

十一月七日

來ル十七日大嘗祭被爲行候ニ付十五日晩ヨリ十八日朝ニ至リ 御神事候條重輕服者參朝可憚事 但火ノ元別テ相儀ニ可申並ニ枕鐘一切停止ノ事

一太政官

十一月七日

來ル十七日大嘗祭被爲行候ニ付供奉ノ外勅任官奏任官午後第四時參朝判任官ハ本省中ニ於テ兩三人申合ヒ一寮一司ニ一人ツ、總代トシテ直垂着用同刻參朝可有之候也但シ來ル十五日ヨリハ不淨ニ不觸餘各可被相心得候也

一太政官

十一月八日

東京品川浦和小菅葛飾神奈川

今般東京府下測量ノ爲メ測量司官員并ニ御雇外國人等所々へ出張測量ノ爲メ緊要ノ地所へハ目標トシテ別紙離形ノ通旗号ヲ建置且又野外敷林等場所ニ寄リ差障ニ相成候分ハ出張官員見計ヲ以テ所役人へ申談シ右敷林持主へ相對示談ノ上相當ノ代價若クハ手當等ヲ遣シ伐除候儀モ可有之候條末々ニ至ル迄兼テ此段相心得サセ不都合ノ儀無之様可取計事 (測量標旗之圖ハ零ス)

〔太政官〕

十一月八日

大坂府并海岸縣々

英國測量船周防灘ヨリ内瀬戸鳴々及ヒ四國東南ノ諸港豊後灘邊姫嶋且志摩國海岸岬等測量御許容相成候條此段爲心得相達候事

〔太政官〕

十一月九日

來ル十九日豊明節會被爲行候ニ付政府判任官第十禮服用出頃可致候事
但參不參共式部寮へ可届出事

〔太政官〕

十一月九日

來ル十九日豊明節會被爲行候ニ付野香間詰并非後華族ノ輩第十二字直垂着用參 朝可致事 但參不參共式部寮へ可届出事

〔太政官〕

十一月九日

來ル十八日豊明節會被爲行候ニ付諸省委任官以上府縣開拓使在京勅任官第十字直垂着用參 朝可致事 追テ參不參共式部寮へ可届出事

〔太政官〕

十一月九日

來ル十七日大嘗祭被爲行候ニ付十八日七字ヨリ十二字迄諸省及ヒ地方在京ノ官員齋場

參拜ノ事

〔太政官〕

十一月九日

來ル十八日豊明節會被爲行候ニ付府縣開拓使ハ委任官以下諸省ハ判任以下各其廳ニテイテ酒饌下賜候事 但大藏省へ可承合事

〔太政官〕

十一月十日

先般廢藩立縣被 仰出候ニ付テハ海軍資金ノ儀ハ去年歲分迄相納當未年ヨリ一般上納ニ不及尤モ昨午歲分上納方割合期限ヲ相過候ヘトモ未々不納ノ向テ有之趣不都合ノ事ニ候條當十二月十五日限リ無相違大藏省へ皆納可致事 但去ル辰己兩年軍資金ノ儀ハ今以テ未納ノ向モ有之趣甚以不相濟儀ニ付上納方本文同様取計事

〔太政官〕

十一月十日

新貨幣造々御發行相成候ニ付テハ新貨條例ノ通相心得取交通用可致旨及布告候處新貨ヲ以テ金札ト引替候節兎角多分ノ差相立不都合ノ次第モ有之哉ニ相聞ハ心得違ノ事ニ候自今屹度一圓一兩ノ當ヲ以テ新貨金札取交聊無差支通用可致事

〔太政官〕 史

十一月十二日

大手坂下兩御門締切後御門出ノ節其管轄ヨリ送リ書面相添來候處自今御門鑑札ノミニテ通行被差許候事 但シ主人從隨ノ外家來小者風呂敷包等持出シ候節紙印鑑相用候儀ハ從前之通ニ候事 右之通御政定相成候事

〔太政官〕

十一月十三日

來ル十八日政府委任以上七字ヨリ十二字マテ齋場參拜十二字ヨリ豐明節會ニ付參朝ノ事
但直垂着用ノ事

〔太政官〕

十一月十三日

來十九日第九字ヨリ第十字マテ政府判任官齋場參拜ノ事
來二十一日橫須賀造船所 行幸濱殿ヨリ軍艦 乘御翌二十二日 還幸被 仰出候事
但雨天御延引日限退テ被 仰出候事 (以上二件)

〔太政官〕

十一月十四日

大嘗祭ニ付政府判任官總代トシテ兩三入申合午後第四字直垂着用出頭ノ事

〔太政官〕

十一月十四日

宮家令等級左ノ通被定候事

四親王宮家令 官等 七等

諸宮家令 官等 八等

〔太政官〕

十一月十四日

今般關八州群馬縣ヲ除クノ外并ニ伊豆國從來ノ府縣被廢更ニ左ノ通府縣被置候事

足柄 縣廳小 田原

相模國 足柄上郡 足柄下郡 高座郡 大住郡 愛甲郡

神奈川縣

相模國 津久井郡 鎌倉郡 伊豆國一圓

東京府

武藏國 三浦郡 久良岐郡 都筑郡 荏原郡 多摩郡ノ内 足立郡ノ内

入間 縣廳 川越

高飾郡ノ内

武藏國

横見郡 入間郡 秩父郡 男衾郡 大里郡

埼玉 縣廳 岩槻

榛澤郡 賀美郡 幡羅郡 比企郡 新座郡 那賀郡 兒玉郡

木更津縣

高麗郡 多摩郡ノ内 武藏國 埼玉郡 高飾郡ノ内 足立郡ノ内

印旛 縣廳 佐倉

安房國一圓 上總國一圓

新治 縣廳 土浦

下總國 結城郡 猿鳴郡 高飾郡 相馬郡 岡田郡

茨城 縣廳 水戸

常陸國 新治郡 筑波郡 河内郡 行方郡 信太郡

栃木 縣廳

鹿島郡

下總國

香取郡 匝瑳郡 海上郡

常陸國

多賀郡 久慈郡 那珂郡 茨城郡 眞壁郡

下野國

足利郡 筑田郡 寒川郡 安蘇郡 都賀郡

上野國

邑樂郡 新田郡 山田郡

宇都宮縣

下野國 芳賀郡 鹽谷郡 那須郡 河内郡

〔太政官〕

十一月十四日

右ノ通府縣被置候ニ付廢府縣從前管轄ノ地所當未年ヨリ物成鄉村等夫々ニ可引渡事
今般廢府縣ノ官員退テ 御沙汰候迄新置府縣知事令參事ノ差圖ヲ受ケ從前ノ廳ニ於テ

事務可取扱事

〔太政官〕

十一月十四日

今般西海道從來ノ諸縣ヲ廢シ更ニ左ノ縣々被置候事

但廢縣後前管轄ノ地所當未年ヨリ物成鄉村等新置ノ縣々へ可引渡事

小倉縣 豐前國一圓 大分縣 豐後國一圓

福岡縣 筑前國一圓 三潁縣 筑後國一圓

伊予里縣 肥前國 松浦郡ノ内 藤津郡 杵島郡 小城郡 佐賀郡

長崎縣 神崎郡 三根郡 養父郡 基肄郡 對馬國一圓

八代縣 肥前國 彼杵郡 高來郡 松浦郡ノ内 壹岐國一圓

熊本縣 肥後國 下益城郡 宇土郡 球摩郡 蘆北郡 八代郡 天草郡

美々津縣 肥後國 玉名郡 山鹿郡 菊池郡 山本郡 阿蘇郡 沱摩郡

都城縣 日向國 那珂郡ノ内 宮崎郡ノ内 諸縣郡ノ内 兒湯郡 臼杵郡

鹿兒島縣 大隅國 始羅郡 肝屬郡 贈嗚郡 大隅郡 菱苅郡 桑原郡

右ノ通諸縣被置候ニ付從前管轄ノ縣々ヨリ地所物成鄉村等當未年ヨリ可受取事

但高反別一村限村高等取調大藏省へ可差出事

薩摩國一圓 外琉球國

〔太政官〕

十一月十四日

諸省府縣

來ル十八日齋場參拜被仰出候ニ付テハ御門鑑札所持無之向ハ今度限リ各其廳ノ印鑑ヲ以通行被差許候條十六日中ニ印影十枚式部察へ可被差出候事

〔太政官〕

十一月十五日

今般阿波國外四ヶ國ニテ從來ノ諸縣ヲ廢シ更ニ左ノ縣々被置候事

但廢縣從前管轄ノ地處當未年ヨリ物成鄉村等新置ノ縣々へ可引渡事

名東縣 阿波國一圓 淡路國一圓

香川縣 讚岐國一圓 伊豫國 宇摩郡 野間郡 新居郡 周布郡 桑村郡 越智郡

松山縣 伊豫國 宇和郡 和氣郡 温泉郡 伊豫郡 久米郡

宇和嶋縣 伊豫國 宇和郡 喜多郡 浮穴郡

高知縣 土佐國 右ノ通被置候ニ付從前管轄ノ縣々ヨリ地所物成鄉村等當未年ヨリ可請取事

但高反別一村限リ村高等取調大藏省へ可差出事

〔太政官〕

十一月十五日

今般山陽山陰兩道ノ内ニテ左ノ縣々ヲ廢シ更ニ八縣ヲ被置候事

但廢縣從前管轄ノ地所當未年ヨリ物成鄉村等新置ノ縣々へ可引渡事

鳥取縣 濱田縣 松江縣 廣瀨縣 母里縣 津山縣 眞嶋縣 鶴田縣 岡山縣

福山縣 新見縣 庭瀨縣 岡田縣 成羽縣 淺尾縣 足守縣 高梁縣 鴨方縣

生坂縣 倉敷縣 廣島縣 山口縣 岩國縣 豐浦縣 清未縣

鳥取縣 因幡國一圓 伯耆國一圓

濱田縣 石見國一圓 隱岐國一圓

島根縣 出雲國一圓 外當分管轄 元津山縣管轄 讚岐國 小豆島ノ内

北條縣 美作國一圓

岡山縣 備前國一圓

深津縣

備中國一圓

備後國 沼隈郡 深津郡 安那郡 品沼郡 蘆田郡 神石郡

外當分管轄

元岡田縣管轄

攝津國 豐島郡ノ内 河内國 高安郡ノ内

元淺尾縣管轄

河内國 大縣郡ノ内 攝津國 八郡ノ内

廣島縣

安藝國一圓

備後國 御調郡 世羅郡 三谿郡 三上郡 奴可郡 甲怒郡

三次郡 惠蘇郡

山口縣

周防國一圓

長門國一圓

右ノ通被置候ニ付從前管轄ノ縣々ヨリ地所物成鄉村等當未年ヨリ可受取事
但高反別一村限村高等取調大藏省へ可差出事

〔太政官〕

十一月十五日

今般駿遠三并尾張國知多郡ニテ從來ノ諸縣ヲ廢シ更ニ左ノ縣ヲ被置候事
但廢縣從前管轄ノ地所當未年ヨリ物成鄉村等新置ノ縣々へ可引渡事

靜岡縣

駿河國一圓

濱松縣

遠江國一圓

額田縣

三河國一圓

尾張國 知多郡

外當分管轄

元舉母縣管轄

元西大平縣管轄

美作國 久米北條郡ノ内 勝北郡ノ内

元西端縣管轄

相摸國 高座郡ノ内

上總國 武射郡ノ内 下總國 匝瑳郡 香取郡

伊豆國 田方郡ノ内 加茂郡ノ内

上野國 新田郡ノ内 邑樂郡ノ内

下野國 安蘇郡ノ内

武藏國 多摩郡ノ内

元西尾縣管轄

越前國 丹生郡ノ内 南條郡ノ内 坂井郡ノ内

安房國 平郡ノ内

元半原縣管轄

武藏國 榛澤郡ノ内

攝津國 豐島郡ノ内 川邊郡ノ内 能勢郡ノ内 有馬郡ノ内

上野國 新田郡ノ内

丹波國 何鹿郡ノ内

元豐橋縣管轄

近江國 淺井郡ノ内 伊香郡ノ内 高島郡ノ内

上總國 望陀郡ノ内

右ノ通被置候ニ付從前管轄ノ縣々ヨリ地所物成鄉村當未年ヨリ可受取事
但高反別一村限村高等取調大藏省へ可差出事

〔太政官〕

十一月十五日

來ル十八日豐明節會ニ付海陸兩軍左ノ通祝儀執行候事

外櫻田練場ニ於テ

十七日	日没	廿一發	十八日	日出	廿一發
十八日	正午	百一發	十八日	日没	廿一發
神奈川壘場於テ					
十八日	正午	廿一發			
諸軍艦於テ					
十八日	正午	廿一發			

太(太政官)

十一月十九日

各地方管下ニ於テ舊諸藩へ金穀調達ノ者共其時日并返濟ノ期限且利足等ノ約定明細取調證書寫相添至急大藏省へ差出可申事

但各廳ヨリ發令後三十日ヲ限リ可差出尤時日ノ伸縮并利足ノ高低等不都合ノ廉於有之ハ屹度嚴重ノ可被及 御沙汰候事

太(太政官)

十一月

諸縣負債ノ儀元管轄飛地ノ石高へ割當各地へ分配候テハ消却振混雜可致ニ付都テ元縣廳所屬ノ新置府縣廳ニテ取纏消却ノ見込相立可申事

但從前通用ノ舊藩札高并石高拜借貸付其他貸下高等巨細取調新置所轄ノ府縣へ引渡各其廳ニ於テ取扱可致事

一諸縣元管轄飛地ニ居住ノ土族卒ハ新置所轄ノ府縣貫屬タルヘシ候條家祿其外身分ニ屬候書類一切右府縣へ可引渡事

太(太政官)

十一月二十日

今般北陸道并飛驒信濃甲斐國ニテ從來ノ諸縣ヲ廢シ更ニ左ノ縣々被置候事

但廢縣從前管轄ノ地所當未年ヨリ物成鄉村等新置ノ縣々へ可引渡事

敦賀縣	若狹國一圓	南條郡	敦賀郡
福井縣	越前國	今立郡	吉田郡
金澤縣	越前國	足羽郡	丹生郡
七尾縣	加賀國一圓	能登國一圓	坂井郡
新川縣	越中國	射水郡	大野郡
柏崎縣	越中國	礪波郡	新川郡
新潟縣	越後國	頸城郡	婦負郡
相川縣	越後國	蒲原郡	古志郡
筑摩縣	佐渡國一圓	飛驒國一圓	岩船郡
長野縣	信濃國	筑摩郡	魚沼郡
山梨縣	信濃國	埴科郡	荻羽郡
右ノ通被置候ニ付從前管轄ノ縣々ヨリ地所物成鄉村等當未年ヨリ可請取事	甲斐國一圓	伊那郡	三嶋郡
但高反別一村限リ村高等取調大藏省へ可差出事		諏訪郡	
		安曇郡	
		水内郡	
		佐久郡	
		更科郡	
		小縣郡	

太(太政官)

十一月廿日

今般攝津國從來ノ府縣ヲ廢シ更ニ左ノ通府縣被置候事

但廢府縣從前管轄ノ地所當未年ヨリ物成鄉村等新置ノ府縣へ可引渡事
 大坂府 攝津國 島上郡 島下郡 豐島郡 能勢郡 西成郡 東成郡
 住吉郡
 外當分管轄 元高槻縣管轄
 兵庫縣 丹波國 桑田郡ノ内
 攝津國 八部郡 菟原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡
 外當分管轄 元兵庫縣管轄
 淡路國 津名郡ノ内
 右ノ通被置候ニ付從前管轄ノ縣々ヨリ地所物成鄉村等當未年ヨリ可請取事
 但高反別一村限村高等取調大藏省へ可差出事

〔太政官〕

十一月二十二日

最前相達シ候舊藩々へ金穀調達ノ者共時日并ニ返濟ノ期限其外取調ノ儀各廳ヨリ發令
 後三十日限不申立分ハ一切御採用不相成候事
 但舊藩債減利又ハ年賦等ノ内談相整候分ハ其取極ノ趣大藏省へ可申出事

〔太政官〕

十一月二十二日

是迄諸國并近在ヨリ東京へ精廻リ候酒樽拾駄ニ付二兩宛ノ冥加金府下酒問屋ノ取次ヲ
 以テ相納來處今般酒造其外稅則御布告相成候上ハ以來右冥加金上納ニ不及候事

〔太政官〕

十一月二十二日

今般山城國外十一ヶ國ノ内コテ從來ノ府縣ヲ廢シ更ニ左ノ通府縣ヲ被置候事
 但廢府縣從前管轄ノ地所地所當未年ヨリ物成鄉村等新置ノ府縣へ可引渡事

京都府	山城國一圓	丹波國	松井郡	何鹿郡	桑田郡
奈良縣	大和國一圓	河內國一圓	伊賀國一圓	伊勢國	安濃郡
堺縣	河內國一圓	伊賀國一圓	伊勢國	安濃郡	朝明郡
安濃津縣	伊勢國	安濃郡	安濃郡	鈴鹿郡	河曲郡
度會縣	志摩國一圓	伊勢國	多氣郡	度會郡	飯野郡
名古屋縣	尾張國	春日井郡	愛知郡	葉栗郡	飯高郡
外當分管轄	元名古屋縣管轄	丹羽郡	中島郡	海東郡	海西郡
岐阜縣	信濃國	伊那郡ノ内	美濃國一圓	越前國	南條郡ノ内
外當分管轄	元郡上縣管轄	越前國	南條郡ノ内	丹生郡ノ内	大野郡ノ内
大津縣	近江國	高島郡	滋賀郡	栗田郡	野洲郡
長濱縣	近江國	神崎郡	愛知郡	犬上郡	坂田郡
和歌山縣	紀伊國	伊都郡	那賀郡	名草郡	海部郡
右ノ通府縣被置候ニ付從前管轄ノ府縣ヨリ地所物成鄉村等當未年ヨリ可請取事	牟婁郡ノ内	那賀郡	名草郡	海部郡	有田郡
		甲賀郡	伊香郡	日高郡	

但高反別一村限村高等取調大藏省へ可差出事

太一太政官

十一月廿四日

東京入間埼玉神奈川

軍艦御製造ニ付其管内私邸タリ共其材一切伐木不致様可取締旨當四月中相達置候處自今其儀不及候條官林ノ外ハ勝手ニ伐木致シ不苦候事

太一太政官

十一月廿四日

府 縣

軍艦御製造ニ付其材取調トシテ兵部省官員出張可致旨當三月中相達置候處御都合有之出張不致候條此旨可相心得候事

太一太政官

十一月廿五日

府縣學校ノ儀自今總テ文部省管轄ニ被仰付候條諸事同省ノ差圖ヲ受ケ可取計事

太一太政官

十一月廿五日

從前於各縣願同屆書其他府縣へ掛合ノ書翰ニ至ル迄縣印用來候處以來令參事ノ實印ヲ可相用且又兼テ相渡置候條舊縣々印ノ儀ハ其管轄新置縣廳ニ於テ取纏ノ返上可致事

太一太政官

十一月廿七日

府縣官等別紙ノ通リ被相定候條此旨相達候事
〔官等表略之〕

太一太政官

十一月廿九日 十月ノ刻

從前ノ海軍旗章被廢更ニ圖面ノ通被相定候條各省府縣ニ於テ紛敷印相用申間敷事 附兵部省管轄外ノ西洋形船御國旗ノ外ハ日ノ丸形ノ旗章不相成且日本形ノ大小船御 内國ニ於テ日ノ丸印相用候條禁止ノ事 (圖面略ス)

太一太政官

十一月廿九日

各縣願同屆書其外他府縣へ掛合ノ書翰ニ至ル迄令參事ノ實印ヲ可相用旨過日相達置候處未タ令參事赴任不致實地取扱方差支隨テ事務淹滯可致向モ有之趣ニ付退テ相達シ候迄ハ從前之通可相心得事

太一太政官

十一月廿九日

官省三府

先般及御達候月々勘定帳各省府區々ノ取調有之候テハ不都合ニ付左ノ件々更ニ及御達候 一定額米金并毎月見積等ヲ以テ受取候定式諸人用ハ先達テ及御達候離形ノ通勘定帳組立ノ事

一臨時入用ノ儀ハ兼テ御達及置候期限ノ通別段勘定帳差出候事
但書式ハ月費勘定帳ノ体裁ニ可做事

一官員月給并旅費ノ儀前以旨數取調定額ノ外別段受取候向ハ勘定帳へ組入ニ不及尤右受取方中立ノ節先般御達及ヒ候月給旅費渡帳離形ニ倣ヒ常用野紙ニ相認差出ノ事

但旅費渡帳離形ノ内假渡ノ儀ハ略文ニ候處當省へ申立ノ節ハ都テ離形渡切ノ書体ニ倣ヒ受取切又ハ假受取ノ次第ヲ記載シ主任檢印ノ上御用濟正算ノ分ハ夫々證書ヲ添差出ノ事

一月給旅費共定額金又ハ見積受取金ノ内ヨリ相渡候向ハ先達テ及御達候通御心得ノ事 右ノ通當十一月ヨリ御取調可有之十月分ノ儀ハ取調出來ノ儘早々御差出可有之候也

太一太政官

十一月廿九日

諸 縣

今般合縣或ハ管轄替等被仰出候ニ付テハ各縣トモ入用米金此節切手ヲ以テ可相渡尤入用米金ノ儀ニ付テハ當四月以降退々相達置候儀モ有之候得トモ右合併等ニテ巨細ノ取

調ハ急速行届間敷ニ付當十月ヨリ來申九月マテノ入用米金凡積別紙雛形ノ通取調受取
方可申出此段相達候也

但本文入用米金凡積ノ儀ニ付追テ巨細取調不足等ノ節ハ別段受取方可申出事
辛未十月ヨリ來申九月マテ入用米金凡積

管轄高何十萬石、

何 縣

一米 何程

內

何程

貫屬士族卒何百人
定祿

何程

半舍人扶持凡
何十人見込

何程

何々給米

一金 何程

內

內譯書ノ義ハ現有物ニ因リ何野モ書出スヘシ

何程

第一常備

何程

第二常備

何程

官員月給

內譯書前同斷

右ノ通御渡有之度候也

辛未月日

參 事 印

大藏省 御中

〔文部省〕

十一月

先般府縣管下ニ有之候學校私塾等一切ノ名數雛形之通當年中可届出段相達置候處今般
府縣學校總テ當省管轄被仰付候ニ付至急取調候條於元諸藩々費ヲ以取設候學校何ヶ所
各科教官幾人并學校ニ引當候入費歲計幾何ト申儀先急速以書取差出可申事

〔文部省〕

十一月

從前於各地方公費ヲ以取設有之諸學校或ハ文庫病院等ニテ所藏ノ書籍并ニ古器奇物ノ
類ニ至迄別紙雛形ノ通無遺失取調來申正中可差出候事
一書籍圖書一枚摺ノ書圖ニ至迄現今藏版ノ箇所或ハ姓名異亦別紙雛形ノ通無遺失取調
來申正中可差出候事 (別紙零ス)

〔工部省〕

十一月三日

長門國六連島燈明臺落成ニ付燈臺位置方向別紙之通ニ候間各管下ニ布令可有之此段相
達候也

別紙 航海者ニ布告

六連燈明臺

一日本政府布告ス明治四年十一月廿一日西曆千八百七十二年第一月一日夜ヨリ下ノ關
西瀬戸口六連島ニ於テ第四等燈明臺ヲ設毎夜日没ヨリ日出マテ點燈ス
一燈光ノ模様並燈明臺ノ位置巨細左ニ記載スル者也

明治四年十月十九日

工部省分局橫濱燈臺寮ニ於テ

西曆一千八百七十一年第十二月一日

工部大丞兼燈臺頭佐野常民

一六連燈明臺ハ六連島ノ極東ノ地ニ建置ス其地ハ北緯三十三度五十九分十五秒ニシテ「グリーニツチ」英國天ヨリ東經百三十度五十二分四十九秒ニ當ル

一燈明臺ハ花崗石造ニシテ燈籠ノ中央迄高サ二丈五尺ナリ

一燈明ハ第四等白色不轉ニシテ海面二百三十二度ヲ照シ北四十度西ノ方位則チ藍島ノ北洲ヨリ半里英國海上里法外ニテ蔽陰シ又南十二度西コテ蔽陰ス但シ右ハ異方位ニシテ磁針方位ニ非ス

一燈明ノ全キ高サ海面ヨリ八丈九尺ニシテ其光ノ達スルヲ拾二里英國海上里法ヲ隔テ甲板上ヨリ見ユ

器械方 アール、ヘンリー、ブラントン

明治四年辛未十一月之部畢

官 令 全 報 第 六 十 三 號 雜 報

依願免本官 ○明治十四年十月十三日 參議 從三位 勳一等 大隈 重信

〔太政官〕 御 達 十四年十月七日 內 務 省

府縣營費ノ支出ニ係ル事項ハ總テ可伺出旨本年二月廿八日相達候處從前其省限リ所分セシメ候モノニ豫算額ノ内ヲ以支辨スヘキ分ハ本年度以降伺出ニ不及候條豫算額ニ不超過様可取計此旨相達候事

〔內務省〕 御 達 十四年九月二十二日 各局課掛

電信郵便書狀及ヒ運送物并發送ノ義ニ付別紙之通會計へ相達候條此旨相達候事 但詳細ノ手續等ハ退テ同局ヨリ可及通達等ニ候事 會計局

省中各局課掛ヨリ發送スル郵便電信書狀差出方運送物發送ノ事務ハ總テ其局擔任ト相定候條不都合無之様可取扱此旨相達候事 但シ來ル十月一日ヨリ施行可致候事

〔內務省〕 御 達 十四年九月廿九日 省中各局課掛

當省ヨリ各廳へ發送スル公文書休之義往々艸行ヲ以テ走書ニ或ハ朱削傍書ヲ以テ之ヲ補ヒ爲メニ字休明了セサルモノ儘有之甚ク不都合ニ付以來必ス楷行書ニ限リ相用ヒ且謬誤等無之様注意可致此旨相達候事

〔內務省〕 御 達

十四年九月廿九日

樺戶集治監

一金五万八千五百圓
一金三万五千七百七十七圓
右第一項ノ金額ハ其監經費年額トシテ開廳ノ際ヨリ月割ヲ以テ下渡シ
第二項ノ金額ハ此際一時ニ下渡可申候條因徒ニ屬スル費用區別シ豫算牒可差出此旨相達候事

〔內務省〕 御 達

十四年十月三日

石川 縣

縣會議員死亡代員選舉迄ハ議員ノ總數ヲ省クヘキ旨去ル明治十二年九月十一日伺ニ對シ及指令置候處右ハ取消候條左ノ通可相心得此旨相達候事
議員ノ總數ハ欠員アルニ拘ラス其定數ニ就テ之ヲ算スヘシ

〔大藏省〕 御 達

十四年九月廿九日

國立并ニ正金銀行

國立銀行條例成規中ノ疑義及ヒ諸帖簿報告表考課狀記載方等ノ備從來大藏卿宛ヲ以テ伺出候向キモ有之候處右ハ自今銀行局長ヘ伺出候ト可相心得此旨相達候事

〔大藏省〕 御 達

十四年十月三日

各 局 課

局長病氣又ハ事故有之節ハ其代理ノ儀當分ノ内左ノ通可心得此旨相達候事
局長事故アルトキハ書記官其代理タルヲ得

〔陸軍省〕 御 達

十四年九月

士官學校

其校士官生徒入校及卒業期限自今入校ハ九月卒業ハ七月ト改定可致此旨相達候事
但本文期限改定候ニ就テハ本年未召募ハ延期シ現在生徒卒業期月ハ從前之通ト可相

心得事

〔陸軍省〕 御 達

十四年九月

仙台鎮臺

開拓使屯田豫備兵之儀本年二月解隊相成候上該兵創設ノ時ヨリ服役セシ者ハ解隊後徵兵ニ相當スト雖免役ニ屬スヘキ等ニ候條該員中本年徵兵使ニ於テ既ニ徵集致候者ニ有之候ハ、更ニ平時免役ニ可取計此旨相達候事

〔陸軍省〕

陸軍一般

所勞届官紙ノ儀ハ是迄會計局ニ於テ取扱拂下來候處自今其(臺挾部關方面廳署局所廳)ニ於テ右版木調製摺立ノ上患者ヘ拂下其代價ハ雜収ニ組入上納可致此旨相達候事

〔農商務省〕 御 達

十四年九月廿九日

山林局出張所有之府縣

當省山林局各地出張所之義今般農商務省(地名)山林事務所ト改稱候條此旨相達候事

〔農商務省〕 御 達

十四年九月廿一日

博覽會 掛

本省所轄ノ博覽會及其進會ヲ開設スルノ場合ニ於テハ其物件ニ應シ他局ヨリ幹事及事務取扱ヲ特命スルヲアルヘシ此場合ニ於テハ該會一切ノ事業ハ幹事之ヲ管理シ事務取扱候者及博覽會掛長之ヲ贊助スヘシ而シテ該會事業完結ノ後報告書刊行及書類編纂保存等ノ事務ハ博覽會掛長ノ專ラ擔任スル所トス此旨相達候事
但幹事ノ權限ハ博覽會掛事務條項ニ準擬スヘシ

〔山林局〕 御 達

十四年

各出張所

山林局出張所處分心得別冊之通リ被定候條自今右ニ照準可取計此段相達候事
第一條 所長ハ成規ニヨリ部内ノ官林ニ屬スル一切ノ事務ヲ調理シ及ヒ局長ノ命令ヲ

執行スルヲ掌ル

- 第二條 所長ハ局長ノ命令又ハ其適宜處分ヲ許サレタル事件ヲ執行スル爲メ必要ナル場合ニ於テハ其實施ノ順序ヲ設ケ出張所ノ名義ヲ以テ部内ニ廣告シ又ハ布達ヲ要ス
 - 第三條 所長ハ職員ノ勤務ヲ監督シ局長ニ對シ之ヲ具狀スルヲ得
 - 第四條 所長ハ管内ノ官林ヲ巡視シ及ヒ職員ヲ派出セシムルヲ得
 - 第五條 所長ハ主管ノ事務ヲツキ各廳ニ對シ出張所ノ名ヲ以テ照會往復スルヲ得
 - 第六條 所長ハ臨時日給三十錢以下ノ雇員ヲ採用解雇シ及ヒ其給料ヲ増減スルヲ得
 - 第七條 所長ハ月給雇以下ノ告假又ハ除服出仕ノ例規ニ據テ決行スルヲ得
 - 第八條 所長ハ巡回出張等ノ場合ニ於テハ在勤官吏上席ノ者ヲシテ代理セシムルヲ得
 - 第九條 出張所職員ハ所長ノ指示ヲ受ケ庶務ヲ分掌ス
 - 第十條 監守人ハ出張所ノ指揮ヲ受ケ官林監守ノヲ掌ル
 - 第十一條 出張所ノ事務ヲ分テ二款トシ其上款ハ本局ニ稟申シテ撥ニ處分スベキモノトス其下款ハ出張所限適宜處分スルヲ得但上款ノ項目中其一部ヲ分テ下款ニ掲ケタルモノハ渾テ下款ノ例ニ據リテ處分スベシ
- 上款
- 第一 官林ノ等級及ビ種類ヲ定メ之ヲ變更スル事
 - 第二 山林ノ官民有區別ニ關スル事
 - 第三 官林外ノ地ヲ官林ニ編入ノ事
 - 第四 官林ノ輪伐區ヲ定メ及ビ之レヲ變更スル事
 - 第五 官林ノ境界ヲ定メ及ビ標木新設ノ事
 - 第六 官林防火線新設ノ事
 - 第七 官林ノ竹木伐採ノ事
 - 第八 苗圃開設及廢止ノ事
 - 第九 苗圃ノ樹木拂下ノ事
 - 第十 燒木處分ノ事
 - 第十一 部分木仕付ノ事

- 第十二 官林地貸渡ノ事
- 第十三 土石堀取ノ事
- 第十四 埋木木根堀取ノ事
- 第十五 官林地拂下ノ事
- 第十六 官林地變換ノ事
- 第十七 官林制札新設ノ事
- 第十八 官林内副産物拂下ノ事
- 第十九 諸拂下又ハ貸渡地等處分既済ノ事件ヲ變更シ又ハ之レヲ取消スル事
- 第二十 管外出張及ビ上京ノ事
- 第二十一 主管ノ件ニ付詞訟ニ關スル事
- 第二十二 出張所又ハ所長ノ名ヲ以テ官金辨償トナルベキ類ノ契約ヲ爲シ又ハ既成ノ契約變更ノ事
- 下款
- 第一 官林ヲ調査スル事
- 第二 官林ニ栽植ヲ爲ス事
- 第三 官林調査ノ爲メ障礙木ヲ伐除シ及ビ之ヲ賣却スル事
- 第四 竹林手入ノ爲メ老竹ヲ洗伐シ及ビ之ヲ拂下ル事
- 第五 官林内ニ於テ季節アル副産物ヲ拂下グル事
- 第六 盜伐木ヲ處分スル事
- 第七 枯損木ヲ處分スル事
- 第八 官林内ニ於テ製炭ノ許可ヲ爲シタルモノハ炭竈敷地ヲ貸渡スル事
- 第九 官林内ニ於テ一時季節ヲ限リタル貸地ヲ許可スル事
- 第十 官林制札防火線及境界標ヲ修理スル事
- 第十一 荆棘蔓草ヲ芟除スル事
- 第十二 洪水急防ノ際地方官ノ照會ニ應ジ三等及員外官林ヲ伐採スル事
- 第十三 電線及道路障害木ヲ處分スル事
- 第十四 習慣アル柴草ヲ拂下又ハ繼年季ヲ許可スル事
- 第十五 入林鑑札ヲ下付スル事
- 第十六 官林救火等ノ功勞者ニ賞與ヲ要スルモノアルハ之ヲ地方官ニ通牒スル事

- 第十七 電信柱ノ用ニ供スル樹木ヲ賣渡ス事
- 第十八 官林ニ係ル犯罪人ヲ告訴スル事
- 第十條 前條中兩款ニ明文ナキモノ及ビ下款ニ屬スルモノト雖モ事疑似ニ涉ルカ又ハ事情アリテ特別ノ處分ヲ要スルモノハ其理由ヲ具シテ稟告スベシ
- 第十一條 出張所ニ於テ處分セシ一切ノ事務ハ月表并年報ヲ以テ本局ニ報告スベシ但至急ヲ要スルモノハ其時時報告スベシ

○農商務省 御達 十四年 各課

- 山林局各課事務條項
- 林制課
- 第一 官有民有ノ山林規則ニ係ル法案ヲ調理スル事但特ニ委員ヲ置クモノハ格別ナリトス
 - 第二 他課ノ主管ニ係ル事務ト雖モ新ニ法例ヲ設ケ又ハ例規ヲ更正スルモノ或ハ例外特別ノ處分ニ涉ルモノハ渾テ合評ヲ受ケ之ヲ檢案スル事
 - 第三 山林原野地及竹木官民有區別ニ關スル事
 - 第四 本局主管ノ事務ニ付詞訟ニ關スル事
- 學務課
- 第一 山林學校ニ關スル事
 - 第二 樹木ノ培養及木材ノ効用ヲ試驗スル事
 - 第三 内外國ノ材鑑及山林用具ニ關スル事
 - 第四 日本樹木誌ヲ編集スル事
 - 第五 植物帶ヲ調査シ植樹ノ適否ヲ考査スル事
 - 第六 西ヶ原試驗場ヲ管理スル事
 - 第七 山林ニ關スル書籍反譯ノ事
- 官林課

- 第一 官林ノ部類及等級ノ査定ニ關スル事
 - 第二 官林ノ編入又ハ除却ニ關スル事
 - 第三 官林調査ノ事
 - 第四 官林保護ニ關スル事
 - 第五 官民林交換ニ關スル事
 - 第六 官林ノ植樹伐木及苗圃ニ關スル事
 - 第七 官林ノ異狀ニ關スル處分ノ事
 - 第八 官林原野地及其雜產物ノ拂下又ハ貸渡ニ關スル事
 - 第九 土石開坑及ビ其試驗ニ關スル事
 - 第十 官林原野潰地ニ關スル事
 - 第十一 入林鑑札ニ關スル事
 - 第十二 部分木ニ關スル事
 - 第十三 官林監守人配置ニ關スル事
 - 第十四 官林簿ヲ整理スル事
- 統計課
- 第一 山林ノ統計ニ關スル事
 - 第二 貯木所存廢ニ關スル事
 - 第三 木材ノ保管及之レガ販賣ニ關スル事
 - 第四 木材運搬ニ關スル事
 - 第五 木材相場調査ノ事
- 庶務課
- 第一 本局一切ノ公文ヲ受授スル事
 - 第二 局長ノ指令往復文ヲ淨書シ及ビ之レヲ傳達スル事
 - 第三 本局沿革諸編製ノ事
 - 第四 山林ノ例規ヲ編纂スル事
 - 第五 本局ノ印章ヲ保管スル事
 - 第六 除害銃鑑札ニ關スル事
 - 第七 局員ノ進退賞典及ビ身分上ニ關スル事
 - 第八 公勸錄及ビ局員錄ヲ管理スル事
 - 第九 局員宿直ノ交番ニ關スル事
 - 第十 他課ノ主管ニ屬セザル事務ヲ調理スル事

警視廳 御達

十四年九月廿九日

巡查本部

内國勸業博覽會事務局明卅日限廢セラレ候ニ付配置巡查之義モ同日限リ引拂方今般該

局ニ申來候條此旨相達候事

但場内取毀木材并建物等多少存在候趣ニ付當分ノ内最寄巡查屯所ニ於テ注意可致候事

〔警視廳〕 御達 十四年十月一日 各屯所

巡查外套ノ儀ハ降雨雪霰ノ外午前交外時間ヨリ晝昏迄必ズ襟ヲ折リ若用致スヘシ此旨相達候事

〔警視廳〕 御達 十四年十月十二日 警察署

民事訴訟上ニ關スル人民拘引之節醫師雇揚等ノ費用其都度裁判所ヘ請求方ノ儀本年八月第七十八號ヲ以テ相達置候處右ハ裁判所ヨリ拘引方申越候時醫師診斷ノ上拘引云々ノ明文有之分ハ勿論ニ候得共其明文之ナキ照會書ニシテ拘引ノ際病氣申立候節ハ一應其旨ヲ裁判所ヘ相答ヘ然ル後更ニ檢診方同所ヨリ申來リ候上ニテ檢診取計候儀ト心得ベシ此相達候事

〔内務省ヨリ太政官ヘ伺〕 區町村會法ノ事

第一條區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及其經費ノ支出徵收方法ヲ議定スルトアルハ其區町村ノ公共ニ關スル事件トアリ各區町村產土神社ノ修理建設祭典費及祠官掌ノ給料等モ公共ノ事件トシ區町村會ニ於テ議定シ協議費ヨリ支辨スルモ差支ナキカ〔指令〕 區町村產土神社ノ修理建設祭典費及祠官掌ノ給料等ハ其區町村會ノ決議ニ任セ協議費ヨリ支辨セシムルモ妨ナシ

第十條第三條及ヒ第八條ニ掲ケタル集會ヲ要スルキ其關係アル區町村若シハ人民中異議アリテ其集會ニ應セルキハ府知事縣令之ヲ府縣會ニ付シ其決スル所ニ依リ之ヲ定ム

ヘシ但府縣會ノ閉會ニ當リ其開會ヲ待ツヘカヲサルキハ府知事縣令之ヲ決定スルコトナ得此場合ニ於テハ次ノ開會ニ於テ之ヲ報告スヘシトアルハ本條未文其決スル所ニ依リ之ヲ定ムヘシトアルキハ總テ府縣會ノ議決ニ任放シタルモノ、如クナレバ此場合ノ議決ニ對シテモ府知事縣令ハ其議決ヲ認了セサレルコト得ルハ勿論ノ義ト心得可然カ〔指令〕 區町村會法第十條府縣會ノ議決ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘキモノコアラズ本條但書ノ場合ニ於テハ府縣會規則第卅七條末段ニ準據シ常置委員會ノ議決ニ依リ施行爲致可然カ

〔指令〕 同條但書ノ場合ハ常置委員ノ議決ニ付スルノ限ニアラズ

〔内務省ヨリ太政官ヘ伺〕 營業稅雜稅規則之件

第一條 會社 會社ノ内一己ハノ資金ヲ以テ會社ノ名ヲ稱シ又ハ某ノ組合某ノ舍ト稱スルモノアリ右等ハ總テ其合資ノ實アルモノニ限リ會社稅ヲ課シ縱令其名稱アルモ一己ハノ資金ニ成立ツモノハ會社稅ヲ課スルノ限ニ非ル哉

〔指令〕 會社トハ二人以上合資シテ成立ツモノヲ云フ 卸賣商仲買商小賣商 右各種ノ營業ヲ爲スモノハ各別ニ課稅スルヲ得ル勿論ナレモ一軒内ニ於テ數種ノ卸賣又ハ數種ノ仲買小賣等ヲ爲ス者(吳服卸小賣仲買小間物卸小賣仲買其他荒物紙類味噌醬油種類等ノ卸小賣仲買等ヲ兼ルノ類)ヘハ其種類毎ニ卸賣稅仲買稅小賣稅ヲ賦課スルモ妨ケナキ儀ト心得可然哉

〔指令〕 一軒内ニ於テ數種ノ卸賣又ハ數種ノ仲買小賣等ヲ爲スモノハ府縣會ノ決議ニ依リ其種類毎ニ卸賣稅小賣稅ヲ賦課スルモ妨ナシ

製造所職工 本項製造所ト職工トモ課稅ノ區別分界難相立モノアリ譬ハ巨大ノ蒸氣器械ヲ裝置シ夥多ノ物品ヲ製造スル場所則チ純然タル製造所ナリ又一二人ノ工手ヲ以

テ僅々タル物品ヲ作ルモ亦製造所ト云テ得ヘキ義ニテ府縣ニ伺出ニ對シ甲ニハ製造稅ヲ課スヘシ乙ニハ職工稅ヲ課スヘシト指示スルキハ地方ノ現況ニ適セス果シテ不權衡ヲ生スルニ至ル依テ其課稅ノ區別ハ總テ各地ノ便宜ニ任セ府縣會ノ議決ニ依リ施行爲致可然哉

〔指令〕 製造所並職工ノ區別ハ各箇ノ實況ニ就キ府縣會ノ議決ニ依リ施行セシム可シ
船 (明治七年第二十一号布告船船漁船云々ノ分) 車 (馬車人力車荷積馬車荷積六七六八車荷積中小車荷積牛車ノ類) 國稅ノ半額以內トアルハ右國稅ノ半額以內トアルヲ以テ見レハ國稅ノ賦課アルモノ、外ハ課稅ノ限リニ無之モノ、如シト雖田官用船車ノ如キハ曾テ府縣稅ノ賦課ヲ爲シタル慣行モ有之コ付他ノ自用ノ船車ニ準シ地方稅ヲ賦課スルヲ許シ可然哉

〔指令〕 船車稅國稅アルモノ、外ハ十三年第十七号布告第九條ニ依リ伺出ヘシ
第七條凡上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ上リ高見積リテ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スル事ヲ得「本項上リ高見積リテ以テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルルヲ得トカリ然ルキハ縱令其實收額ヲ得ラルヘキモノモ各地地方ノ便宜ニ依リ上リ高ノ豫算ニ就キ計算シ之ヲ日稅月稅ニ換ヘ徵收スルヲ得ヘキ哉
〔指令〕 上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ其實收額ヲ得ラルヘキモノモ各地地方ノ便宜ニ依リ日稅月稅トシテ徵收スルヲ得

〔內務省ヨリ太政官ヘ伺〕 備荒儲蓄法ノ事

第一條備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租(國稅ノ部分ニ限ル)ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與スルモノトス」トアルハ府縣ニ於テ人民ヨリ公儲シタル儲蓄金ト政府ヨリ配

付金ト合シタルモノハ府縣共有金ナル旨法制部ヨリ大藏省ヘノ說明アリ就テハ府縣ニ於テ之ヲ其府縣人民儲蓄金ト名稱セント府縣會ニ於テ議定スルモノハ適宜ニ任カセ妨ケナキ哉

〔指令〕 配付金ト公儲金ト合シタルモノハ府縣儲蓄金ト稱スヘシ
第二條各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金ヲ設ク可シ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少ナカラサルヲ要ス但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得」トアルハ府縣ニ於テ公儲スル金額ハ政府ヨリ配付スル金額ヨリ少ナカラサルヲ要ストアリ就テハ前年度ニ於テ配付金ヨリ過剩シタル公儲金ヲ以テ後年度ニ差繼キ後年度ノ公儲金額内ニ充テントスルルハ之ヲ許シ可然哉

〔指令〕 伺之通
第七條各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分二以上ヲ供用支出スルルハ府知事縣令ノ具申ニ依リ內務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ」トアルハ郡區經濟ヲ分離シ區部會郡部會ヲ開ク府縣ニ在テハ備荒儲蓄金ノ經濟ヲ分離スルヲ得區ノ儲蓄金或ハ郡ノ儲蓄金三分以上供用支出シタルキハ各別ニ中央儲蓄金ヨリ補助ヲ求ムルヲ得ル義ト心得可然哉

〔指令〕 三府並區郡部會ヲ分設セル縣ニ於テハ備荒儲蓄法ニ照準シ其府縣會ノ議決ニ依リ備荒儲蓄法ノ經濟ヲ分離スルヲ得其儲蓄金三分ノ二以上供用支出シタルキハ區郡各別ニ中央儲蓄金ノ補助ヲ求ムルヲ得ヘシ

〔內務省ヨリ太政官ヘ伺〕 鳥取縣位置ノ件

今般鳥取縣被置候ニ付テハ舊鳥取縣ノ位置ニ準シ石川縣ノ次ヘ列シ候儀ト相心得可然哉此段相伺候也

〔指令〕 伺之通

六 陸軍省ヨリ太政官へ伺

今般陸軍警察規則取調相伺候ニ付テハ憲兵條例中別紙ノ條々判然不致候半テハ憲兵勤務實施ニ際シ差支候ニ付何分ノ御指令有之度依テ此段相伺候也
追テ今般相伺候陸軍警察規則中ニハ本文第二條第三條ノ趣意ヲ以テ取調置候此段中添候也

第一條 憲兵條例第一條中ニ軍人ノ非違ヲ視察ス云々トアリ而シテ軍屬ヲ掲ケズ然ル

ニ軍屬ハ軍人ト全ク別異者トシ取扱フ時ハ不都合不少ヲ以テ已ニ現行ノ軍律及ビ其他犯罪ニ關スル諸規則等皆ナ軍屬ヲ併セテ之ヲ掲ク故ニ軍屬ノ非違ハ一般人民ノ警察部分ニ屬セシメズ軍人ト同シシ陸軍警察ニ於テ取扱候様相成度候

第二條 軍人ノ違式註違ハ憲兵條例第八條ヲ熟案スルニ憲兵ニ於テ之ヲ處分スルハ勿論ト存候然ル時ハ違式註違條例ニ照シテ之ヲ處分シ其追徴シタル贈金ハ憲兵隊長ヨリ直チニ司法省ニ交付シテ可然哉

第三條 憲兵條例第十一條ニ軍人云々(中略)直チニ逮捕シテ本人所屬ノ官廳ニ付スベシトアリ其犯罪懲罰ニ屬スルモノ、如キハ該所管ニ送付スル勿論ナリト雖モ軍律處分ニ係ルベキモノハ本人所屬ノ官廳ニ送付スルモ又該廳ヨリ直チニ陸軍裁判所ニ送付セサルベカラズ殊ニ隊外ノ者ニ在テハ取締上ニ於テモ差支不少候ニ付軍律處分ニ係ル可キモノハ總テ憲兵隊長ヨリ直チニ陸軍裁判所ニ送付候様致度候

第四條 憲兵條例第五十四條ニ(上略)逮捕シタル時ハ直チニ警察署若クハ巡行ノ巡查ニ引渡スヘシト有之候處從來常人ノ軍人軍屬ト共犯ニ係ル時ハ改定律例第二十七條ニ凡軍人軍屬罪ヲ犯ス云々(中略)及ビ共犯ニ係ルモノ軍官逮捕スレバ軍衙ニ於テ推問シ常人ハ鞠狀ヲ併セ法司ニ交付ス法司逮捕スレバ法衙ニ於テ推問シ軍人軍屬ハ

鞠狀ヲ併セ軍官ニ交付云々トアルニ據リ取扱候就テハ條例第五十四條ハ律例第二十七條ニ示ス軍人軍屬トノ共犯ニ係ラサルモノヲ逮捕シタル時ノ處分ヲ掲クルモノニシテ其共犯ニ係ル者ハ律例ニ據ルヘキ儀ト相心得可然哉
(指令) (九月廿二日) 伺ノ趣第一條第三條ノ義ハ閣届候其他伺ノ通り

六 農商務省ヨリ太政官へ伺

諮問會規則中疑件

第一 農縣諮問會規則中第二條ニ農商工ノ盛衰其他ノ統計ヲ調査スルノ任アル者トス
ト之アリ其統計ヲ調査スルノ任アルトハ諮問會自ラ統計表ヲ調製スルノ責ニ任スル
ニ候哉或ハ府縣廳其他ニ於テ調製セシモノヲ查覈スルニ止マル可キ義ニ候哉

第二 同規則中第九條ニ旅費日當ヲ給スルトアルハ只會員參會往復ノ旅費ノミナラス
諮問事件又ハ統計調査等ニ關シ實際取調ヲ要スル爲メ派出セサルヲ得サル場合ニ於
テ旅行スル事トアルトキハ其旅費日當モ同シク地方稅ヨリ支給ス可キ義ニ候哉或ハ
參會往復ノ外ハ府縣廳費ヲ以テ支辨スヘキ義ナルカ或ハ實況調査等ニ關シテ一切旅
行ヲ要セサルモノト認メ旅費ヲ給スルニ及バザル義ニ候哉

第三 農商工議會規則中第十一條ニ據レハ區又ハ聯合區町村ニ限リ議會ノ設立スルヲ
ヲ得ル義ト致セラレ候果シテ然ラハ聯合セサル各町村ニ於テハ其議會ヲ設立スルヲ
得サル義ニ候哉

右疑義ノ件目下施行上差掛リ候義ニ有之候間至急裁下ヲ仰キ度此段相伺候也
[指令] 伺之趣左之通可相心得事

第一 諮問會自ラ統計表ヲ調査スルノ任アルモノトス
第二 實際取調等ノ爲メ旅費ヲ要スルモノハ該布告第十條ニ準據シ地方稅ヲ以テ支辨
スヘシ

第三 伺之通

但該會ノ設立ヲ緊要ト認ムル町村ニ於テハ聯合セサルモ便宜之レヲ許可シ妨ケ
ナシ

○〔農商務省ヨリ太政官ヘ伺〕 諮問會規則中疑件

本年太政官第二十九号ヲ以テ農商工諮問會規則御布告相成候處右規則中疑義ノ廢有之
左ノ條記相伺申候

第一條 諮問會規則御布告相成候以上ハ實施之順序等別ニ御達可相成候哉又ハ各府縣適
宜取設ケ實施可致哉

第二條 規則第六條中毎年少クモ一回開クヘキモノトシ云々ト之レアリ此毎年ハ一月
ヨリ十二月迄ヲ指シ候哉將タ會計年度ニ依ルモノニ候哉

第三條 諮問會ノ義ハ少シクモ毎年一回開クヘキモノタルノ規則ニ候得共今十四年ノ
如キハ開會ノ都合如何相心得可申哉尤會計年度ヲ以テスルハ十四年度ノ如キハ無
論開會スヘキモノト雖モ會計年度ニ依テサルハ既ニ殆ント半年ヲ經過スルノ今日
ニ候得ハ來ル十五年ヨリ開創スルモ差支ナキ筋ニ候哉

第四條 開創ノ初年先ツ諮問會ヲ開キ區町村議會ノ如キハ漸次開設爲致一齊ニ至ラス
候トモ差支之レナキ哉

第五條 規則第一條中農商工諮問會ヲ置クト之レアリ右ハ合セテ一會ヲ開設スルノ旨
意ト相心得可然哉

第六條 規則第三條中農商工五名以上十五名以下ト之レアルハ農商工各五名以上ナル
ヲ將タ合セテ五名以上ナルヤ行文上ヨリ思行候得ハ合數タルモノニ相見ヘ候得共果
シテ然ルハ十五名ヲ限リ候テハ人員尙寡少ナルヤノ疑義アリ右ハ其便宜ニ因リ十

五名ヲ超過スルコトアルモ差支有之間敷哉

第七條 諮問會員ハ縣會員ヲシテ兼務セシムルモ妨ケ無之哉

第八條 士族ノ如キハ目下其職業トスル處農工或ハ商業ニ從事スルニ於テハ無論會員
ノ選ニ當ルヲ得ルモノト相心得可然哉

第九條 規則第三章區及聯合區云々ト有之抑キ此區タル郡區制ノ區ニハ無之則右府縣
適宜設ケル處ノ勸業區ノ如キモノヲ指シ候哉將タ政府ニ於テ別ニ勸業區ノ如キ分畫
制度ヲ設ケラル、モノニ候哉

第十條 區町村議會ノ會員ヘハ旅費日當ヲ給與セサルモノナルヤ將タ第九條ノ例ニ準
スヘキ者ナルヤ

右至急御指揮有之度候也

〔見解〕 第二條 曆年度ト心得ヘシ 第三條 伺之通 第四條 伺之通

第五條 伺之通 第六條 五名以下ハ合數ト心得ヘシ但定數ヲ超過スルヲ得サルモノトス

第七條 伺之通 第九條 行政區ト心得ヘシ 第十條 區町村會ノ協議ニ任ス可キモノトス

太政官一

勅諭

明治十四年十月十三日

官 省

昨者詔命ヲ頒チ明カニ天下ニ示スニ朕ガ意ヲ以テシ將コ歲ヲ期シテ立憲ノ政体ヲ舉行
セントス惟フニ維新以來中外草創ノ事業施行方ニ半ナル者アリ百揆ノ叙猶整頓ヲ要スル
者多シ爾群臣各々爾ノ事ニ從ヒ經畫周備將來繼シヘキノ緒ヲ爲シ以テ朕カ命ヲ對揚セヨ
(備考)十四年十月十二日勅諭(本號前三十一葉)參觀

陸軍裁判所ヨリ陸軍省へ伺

軍人軍属ノ輕犯ニシテ常律ヲ援引シ若シハ増加條例懲罰令(懲罰ハ總テ二等營倉ノ日數ニ照ス)ニ依リ處分スルモノ左ノ如ク區別ス
公罪及過誤失錯ノ罪ヲ犯ス者、隊外ノ下士諸本隊附下士卒ニシテ外宿スル者右總テ銅ニ換ヘ自宅ニ於テス、文官判任以下ノ軍属右謹慎ニ處ス
私罪ヲ犯ス者、下士卒及文官判任以下ノ軍属右隊附下士卒ハ營倉ニ銅シ其他ハ囚獄ニ銅ス右ハ是迄判例區々相成居不都合ニ付向後前書ノ通り一定致度此段相伺候也
〔指令〕 伺之通

陸軍裁判所ヨリ陸軍省へ伺

陸軍砲兵工廠附陸軍火工下長某犯罪有之其刑降等ニ該ス然ルニ火工下長ハ軍曹相當ノ官ニ付該官ヲ降等ニ處シ候節ハ伍長相當ノ官ニ下スヘキノ處陸軍武官官等及ニ依レハ火工ノ部ニ降スヘキ官等相見エ不申右ハ砲兵伍長ニ降シ相當ト相考ヘ候得共例期モ無之候ニ付此段相伺候也
〔指令〕 伺之趣相當ノ官等無之ニ付伍長ニ降シ可申事

石川縣ヨリ陸軍省へ伺

從來翌年回徵兵ノ内明治十年以前ニ係ル者ハ客年御省達甲第六号御達第三項ニ依リ徵兵副使ニ於テ總テ平時免役處分相成居候處即今ニ至リ歸郷等ノ者有之右ノ内徵集規避ノ嫌疑アル者ハ其筋ニ求刑シ處分濟ノ上規避者ニ候キハ其年或ハ翌年徵集ノ期ニ於テ更ニ徵集可致儀ニ候哉此段相伺候也
〔指令〕 伺之趣徵集規避ノ者ハ其筋ニ求刑處分ノ上來ル十五年ノ徵集ニ可令應候事

石川縣ヨリ陸軍省へ伺

五十歳以上ノ養嗣子(徵兵年齡後)其生家ノ嗣子癡疾(診圖書及ヒ隣保ノ保証書ヲ以調査ニ係ル分)ニ係リ其嗣子ヲ廢嫡シ候處他ニ子孫無之依テ右五十歳以上ノ養嗣子ヲ生家ニ復籍該家ヲ繼續セシメ因リ更ニ定メタル實子(二男)ヲ嗣子トシタル者及ヒ各自届出后五十歳以上ノ養嗣子トナリ本人ヲ娶セサレハ本家血統繼續ノ者徵兵免役ニ相成哉ノ儀本月十日同十三日付電報ヲ以テ相伺候處免役ニ不屬旨同十四日及十六日付御指令ニハ候得共右ハ該家斷絶ノ事故ヲ以テ養嗣子ヲ生家ニ復籍繼續セシメタル後更ニ定メタル實子(二男)ノ嗣子(届出前後ヲ不問)暨ヒ五十歳以上ノ養嗣子(届出後ニ係ル)ニテ本人ヲ娶セサレハ該家血統斷絶ノ者ニテ尋常ノ事故ニ關セズ嘗テ別番同御指令(二月三月)第一項但書ノ趣モ有リ夫是ヲ照合又免役ニ可相成ヤニモ存シ少ク疑團ヲ生シ候條更ニ何分ノ御指揮相成度此段相伺候也
〔指令〕 伺之趣最前電報指令之通免役ニ屬セサル儀ト可相心附候事

滋賀縣ヨリ陸軍省へ伺

新タニ分家シタル女戸主へ入婿或ハ養嗣子等ハ徵集スヘキノ處爰ニ分家ノ女戸主五拾歳以上ノ婿ヲ入レ直ニ戸主讓リ渡而シテ后養子實受ケ嗣子トナシタルモノ有之右ハ戸主ノ代數ニ算フレハ二代ナレモ其實初代ニ異ラス(入婿ノ夫死亡シ尙又寡婦再相續スルキハ二代トナル)是等ヲ免役スルキハ權衡當ヲ得サレ候相考候付右等ノ者ハ徵集ニ取調可然哉此段相伺候也
〔指令〕 伺之通

滋賀縣ヨリ陸軍省へ伺

第一條 徵兵年齡以後五十歲未滿ノ戸主事故アリテ(癱疾不具等ニアラス)父或ハ養母等年齡五十歲以上ノ前戸主へ返還シ其戸主ヲ退キタル長男ヲ廢嫡シ他ハ養子ニ差遣シ又ハ養子ヲ離縁シ而シテ後二男或ハ養子等ヲシテ定メタル嗣子ハ徵兵免否ノ例規無之ニ付徵兵免役ニ取計可然様存候乍去戸主五十歲以上ト雖モ徵兵年齡以後ノ嗣子ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子又ハ五十歲未滿ノ戸主隱居シ其跡ヲ繼キタル戸主等ハ徵集ニ應スヘキモノヨシテ前顯ノ如キモノヲ免役ニスルキハ權衡當テ得サル様相考候ニ付是等ノモノハ養實ニ係ラス嗣子又ハ戸主トナルモ徵集ニ應セシムヘキモノト相心得可然哉

第二條 前條ノ如キ再相續シタル戸主女子へ戸主ヲ讓リ而ル後入婿シ既ニ戸主トナルモ徵兵免役不相成モノト相心得可然哉

第三條 五十歲未滿ノ戸主隱居シ養子又ハ相續人コシテ其跡ヲ繼キタル戸主ハ徵兵免役不相成ノ處徵兵ノ年齡以前ノ戸主隱居シ養子或ハ弟等ヲ以テ跡相續爲致則戸主トナルモノハ免役ニ可屬哉

右ノ件々疑義ニ涉リ決シ兼候ニ付相伺候候何分ノ御指揮被下度候也
〔指令〕 第一條 養實ニ拘ハラス嗣子又ハ戸主トナルモ徵兵ニ應セシムヘシ
第二條 伺之通 第三條 免役ニ屬セス

〔栃木縣ヨリ陸軍省へ伺〕

遺子アル寡婦後夫ヲ迎へ相續セシメ前夫ノ遺子ヲ以テ相續人ト定ムル時其遺子養子ナレハ寡婦又ハ後夫年齡五十歲以上ニ非サレハ免役ニ屬セサル旨滋賀縣伺御省御指令ノ趣本年御省日誌第十四号ニ相見候就テハ前書ノ養子遺子ハ寡婦又後夫ノ内一方ノ者五十歲以上ナレハ國民軍ノ外免役相成候儀ト相心得可然哉果シテ然ラハ免役名稱記載

方ノ儀ハ備考區畫某先代亡某(養母某ノ先夫)何年何月幾日養嗣子トセシ者トシ免役相當ノ譯ヲ記スル柁上養母某何歲何ヶ月又ハ養父何歲何ヶ月ト記載シ可然哉何分ノ御指揮有之度此段相伺候也
〔指令〕 伺之趣寡婦又ハ後夫ノ内當時戸主ノ年齡五十歲以上ナレハ國民軍ノ外免役ニ屬ス日名簿ハ尋常養子相續人同様記載可致事

〔兵庫縣ヨリ陸軍省へ伺〕

當縣下第八師管本年徵兵攝津國川邊郡規並村住士族啓祐養子田中直太郎ナル者先ニ檢査ノ際家事故障ヲ以テ免役料上納出願既ニ許可濟ノ處今般實家ニ離縁復籍ニ付右願書取消常備服役致度旨申出候ニ付實家財產等取調候處素ヨリ貧困ニシテ到底免役料難整最早新兵人營濟免役料上納期月經過シ不都合不勘候得共事實無餘儀モノニ有之候條如何取計可然哉此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣養家ニ於テ免役料上納ノ許可ヲ得免役ニ屬セシ者ニ候條爾後實家ニ復籍スト雖モ該金額ハ養家ニ於テ上納セシムヘキ儀ト相心得事

〔廣島鎮臺ヨリ陸軍省へ伺〕

先般後備軍司令部條例御發行相成候ニ就テ同條例第四章ニ據リ現今服役ノ後備兵ハ本年ヨリ點呼召集施行可致儀ト被存候條同條例第三十三條ニ該ル召集人員場所時日等ハ不日上申可致候然ルニ前顯點呼召集等ノ事務ハ來ル七月ヨリ始メ九月中旬頃迄ノ間ニ完了セサレハ本年徵兵下檢査ノ時期ニ相伺候也

第一項 點呼召集施行ノ際駐在官欠員スルキハ駐在書記ヲ以テ代理セシメ又兼テ駐在書記一名、箇所ハ該事務所平常ノ扱ハ共ニ出張先ニ於テ爲取扱可然哉
第二項 管内廣瀨ニシテ駐在官一名ニテ徵兵下檢査期限前ニ點呼ノ事務完了シ難キ節

駐在書記ト二分行ニテ施行爲致該事務所平常ノ扱ハ前項ノ通り爲取扱可然哉
 第三項 第一項ニ該駐在官代理書記一名ニテ前項ノ如キ場合ニ係ルキハ後備軍司令
 部ノ書記又ハ隊外下士ヲ撰任シ二分行トナシ取扱可然哉
 [指令] 第一項 伺之通 第二項三項 本年ニ限り伺之通

陸一長野縣ヨリ陸軍省へ伺

常備服役中ノ者分家養子絶家再興等異動出願ノ儀ハ許可難相成候處茲ニ戸主長男死亡
 弟次男ナル者放蕩懶惰ニシテ且他ニ犯罪ノ廉ヲ以テ懲役中ニ有之到底一家相續スヘキ
 見込無之ニ付第三男方今常備服役中ノ者家名相續爲致度旨出願ノ者有之然ルニ該家本人
 ノ姉一人有之ノニ他ニ要スヘキ男子無之モノコテ只管其名義ヲ得ルニ止リ免役出願ノ
 旨趣ニ無之候得ハ其旨聞届ノ上追加條例百八十五條ノ手續ニ據リ異動ノニ其筋へ届出
 サセ可然哉少シク疑議ニ涉リ候ニ付爲念此段相伺候也
 [指令] 伺之通

陸一東京鎮臺ヨリ陸軍省へ伺

隊附下士卒病症ニ因リ轉地療養ヲ要シ其地ニ引移候際附添ノ看病人卒等病者急變ヲ報
 スル爲メ本隊ニ往復ノ節該隊ト其地トノ里程六里未滿ナルハ旅費ハ給セスト雖也至
 急ヲ要シ候儀ニ付テハ其道程驛々ノ証書差出候ハ車駕賃費什拂ニ相成候致度且同時
 醫官等至急出張相成候ハ、是又同斷其他右轉地療養ノ地方ニ限ラヌ都テ六里未滿ニ
 テ旅費ヲ給セサルノ道程ヲ至急ノ御用被命往復候者ハ車駕賃費支給相成度此段添テ相
 伺候也 [指令] 書面急用ノ節ニ限り伺之通

陸一教導團ヨリ陸軍省へ伺

當國軍樂隊ノ儀ハ概シテ華士族平民中志願ノ者ヲ拔採シ間々常備諸隊ノ卒ヨリ採用候
 處往々身体脆弱ニ陥リ爲ニ成業ノ目途ヲ失シ或ハ服役ノ期ヲ履ミ終ラサル者不掛畢竟
 該隊生徒ノ如キハ最初入團ノ日ヨリ勿論奏樂ヲ事務トシ別ニ體育ノ法無之自然身体發
 育ノ力乏シテ遂ニ病患ヲ胚胎致候儀ニ有之様相考候ニ付自今該隊教程中ニ体操術ノ一
 科ヲ増設致度此段相伺候也
 逐テ御許可ノ上當分ノ處ハ當步兵大隊下士ヲ以テ教授爲致候間此段申添候也
 [指令] 伺之通

陸一東京憲兵本部ヨリ陸軍省へ伺

各管區屯所へ小使使用ノ儀像ヲ伺濟ニ候處各分屯所ノ儀モ同様ノ事情ニテ卒ヲ以テ甚
 シキ賤役ヲ執ラシメ候儀難致候間每分屯所へ小使二名宛使用ノ儀御許可相成度此段相
 伺候也
 [指令] 伺之通

陸一戸山學校ヨリ陸軍省へ伺

當校休操卒ハ當時現員三名ニ有之別ニ炊焚所取設ケ兼候ニ付是迄辨當ヲ以テ三食支給
 爲致來候然ルニ何分物價高直加フルニ市街隔絶ノ地ニモ有之僅カ三名ノ爲ノ辨當支給
 候儀實際行ハシ難キ事情モ御座候間建築卒同様ノ振合ヲ以テ外泊爲致候様仕度右ハ差
 掛リ候儀モ有之候ニ付至急何分ノ御詮議相成度此段相伺候也
 追テ本文ノ趣キ御許可相成候テモ年格計算上ニ於テハ更ニ差懸無之見込ニ候間爲念
 此段申添候也
 [指令] 伺之趣當分聞届候事

陸一宮城縣ヨリ陸軍省へ伺

御省本年達中第十三號ヲ以テ陸軍武官結婚條例被相定候處審案スルニ該條例第三條中再服役以上ノ下士并豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受テ結婚スルヲ得ルト有之而シテ又第八條ニ於テ第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スルハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其金額ハ下士ニ同ト有之有但書中豫備軍卒ノ明文ナキニ據リハ無論保護金ヲ納メシムルニ不及儀ト思考致候得共聊疑問ヲ生シ候ニ付相候間御裁令相成度候也

〔指令〕 伺之趣ハ結婚條例第七條揭示之通現役士官以下ニ限り家計保護金ヲ要スル儀ニ付豫備後備軍ニ服役ノ者ハ士官下士卒共之ヲ納ムルニ不及候事

〔陸軍會計局ヨリ陸軍省へ伺〕

佛國留學生取締陸軍歩兵少佐田島應親儀生徒用ニテ巴里郭外ニ在ル諸學校及ヒ聯隊屯在ノ地等ニ往復致候節瀛車賃及馬車賃等ハ實費支給決算相立可然哉留學費用概則中明文無之ニ付此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣實費支給可致事

〔陸軍砲兵局ヨリ陸軍省へ伺〕

下士服役規則第十九條中家事擔當者ト有之候ハ男子ニ限り候儀ニテ譬ヘハ父兄死亡ノ尙姊妹妻等ニ壯健者存在スルモ父兄ニ代リ家事擔當スヘキモノニ無之ニ付若此等ノ者ヨリ在役者ノ免除ヲ請願スルキハ御許可相成筋ニ候哉果シテ然ラハ家産ヲ有シ差當リ一家生計ニ差支ナキ見認メアルモノト雖モ男子ニシテ家事擔當者無之上ハ免除ノ御詮議可相成儀ト相心得可然哉判然不致候ニ付此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣男女女子ニ不係家事擔當スル能ハサルヲ以テ在役者ヲ要スルニ非サレハ一家生計ニ差支ルト認候者ハ免役スヘキ儀ト可相心得事

〔熊本縣ヨリ文部省へ伺〕

管內町村立小學校ノ中校長雇入候儀開申候向有之然ルニ教員ハ縣令ノ監督ニ屬シ進退共其辭令書ヲ交附スヘキ成規ニ付其上位ニ在ル校長ニモ辭令書ヲ交附セサレハ聊カ權衡ヲ失ヒ可申ト存候間校長ノ儀モ其町村人民ノ具申ニ依リ進退共其辭令書ヲ交附シテ不苦哉的例モ無之ニ付此段相伺候也

〔指令〕 伺之通

〔茨城縣ヨリ文部省へ伺〕

茨城縣教育會規則別冊ノ通制定致度此段相伺候也

別冊 茨城縣教育會規則

第一條 本會ハ普通教育ノ上進ヲ希圖センカ爲メ其方法ヲ詢議スル者トス

第二條 會員ハ學務課吏員學務擔當ノ郡書記師範學校中學校小學校職員學務委員ヲ以テ之ヲ編成ス但時宜ニ依リ編成ノ一部分ヨリ成立スルコトアル可シ

第三條 會員ハ定數ナシ開會ニ先テ縣令之ヲ指命招集ス

第四條 會長ハ縣令若クハ書記官之ニ充ツ其支障アルハ會員ヲシテ代ラシム可シ

第五條 會員中幹事二名ヲ命シ會務ヲ處辨セシメ員外書記二名ヲ命シ議事ヲ筆記セシム可シ

第六條 本會ハ毎年一回若クハ二回之ヲ開クモノトス

第七條 本會ノ議案ハ縣令之ヲ發ス但會員ノ意見コシテ本會ノ議案トナスベキモノハ縣令ノ採擇ニ據ル

第八條 會議ハ普通ノ會議法ニ由リ可否ハ過半數ニ依テ決シ可否同數ナルキハ會長之ヲ判決ス

〔指令〕 同之通

〔四分區ヨリ東京府へ伺〕

茲ニ一戸主アリ二男一女有テ而シテ數年前其二男へ家名相續可爲致見込テ以テ長男ヲ他家ノ養子トナス其後相續スヘキ二男病死セシニ付養實協議ノ上長男ヲ離縁復籍相續人ト定ム右ハ二男死去スルトハ尙長女ノ存スル在ルヲ以テ之ヲ廢嫡スルノ式整ハサル以上長男ニ於テ相續權ヲ有セサルモノニ候哉又ハ養實兩家協議ノ上家名相續ノ爲メ復籍候モノ付長女ノ有無ニ拘ラヌ直ニ相續權ヲ具有スル者ニ可有之哉此段相伺候也

〔指令〕 書面伺ノ復籍セシ長男相續權ヲ有スル儀ト可相心得事

〔本郷區長ヨリ東京府へ伺〕

營業稅雜種稅賦課規則中疑團ニ涉ル廉々左ニ相伺候也

第一條 今爰ニ自己居宅ニ於テ物品ヲ製造シ其實居宅ト製造所トノ區畫判然イタシ兼候程ノ者アリ右ハ課稅ノ限リニアラスト相心得可然哉

第二條 大工棟梁等ニテ數名若クハ數拾名ノ職工ヲ役シ專ラ工學請負ヲ以テ生計ヲ營ムモノアリ右等ト雖モ自ラ作事場等ヲ設ケ置カサルトハ課稅ノ限リニアラスト相心得可然哉

第三條 染物屋ノ仕事干場ヲ使用スル如キハ單ニ仕事場ノミニ向テ課稅スル儀ト相心得可然哉

〔指令〕 書面伺之趣左ノ通可相心得候事
第一條 其製造ニ使用スル部分ヲ畫シ課稅スヘシ
第二條 第三條 伺之通

〔表神保町山下耕平ヨリ東京府へ伺〕

今般戶對稅御改正ノ趣ヲ以テ徵收罷在候儀ハ府民一般ノ事ニシテ其稅額多寡ハ居室坪數ノ多少ニ據リテ各自差等アリト雖モ就中徵收法ニ於ケル半ケ年前収云々吾人一般ノ御政令ナレハ周テシテ體認スル處ナレモ聊諒解シ得難キ稜有之ヨリ自今心得ノ爲メ豫メ親ヒ置カント欲スルモノハ他ニ非ス即チ前陳稅已納セシ後間ナク誰彼ニ限ラヌ區民一般或ハ臨時非常ノ火災等ニ罹リ他管へ移轉スル乎或ハ便宜ニ依リ尋常移轉等爲シタル中ハ豫テ甲區へ定月分ハ完納シアレハ更ニ乙區ヨリ徵收ノ督促ハ受ケサルモノハ候哉又甲區ヨリ乙區へ對シ移轉送籍ノ際俱ニ此等ノ御通達モ之アルヘキ儀ニ候哉且ハ其舉事ニ臨ミ人民等へ直接甲區ヨリ未來月餘ノ剩額ハ還付相成モノニ候哉若シ否ラスシテ乙區モ同ク徵收ノ命アルハ幾ント重複ニ至ラント「甲ヨリ乙ニ移リ八坪以下ニ住スルルハ置付ノ義上ニ同シ」特ニ狐疑心ヲ脱スル能ハス吾輩何分世事ニ疎ク法理ニ暗キ故ニ閣下賢明ニ之ヲ伺ハント欲ス宜ク御指令ヲ附セラレテ單ニ切望ス

〔指令〕 戶數割稅ハ半年分チ前収スル者ニテ既納後轉居或ハ火災等ノ變換ニ係ルモ差引割戻ノ精算ニハ相立ス候尙甲區ニ於テ既納ノ後乙區へ轉居スルモ乙區ニ於テ賦課スル儀ハ無キ筈ニ候事 但納期前ノ異動ハ此限ニアラス

〔芝區ヨリ東京府へ伺〕

第一條 徵兵年齡以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ女戶主ハ絶家ヲ再興シ又ハ年齡五十歲未滿ノ者隱居シ女子ヲ戶主トセル者ヲ除ク）エ入夫ニ遣シ其他ノ子孫ヲ以テ更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵兵令第二十八條第三項及ヒ第二十九條第一項ニ據リ免役ニ屬スヘキ哉

第二條 離縁スル發子徵兵年齡以後ナルルハ後ニ定メタル嗣子ハ戶主ノ年齡ニ拘ハラズ徵集ニ應ゼシムヘキ旨御應御伺ヒ陸軍省御指令ノ旨モ有之候處離縁セシ養嗣子ハ徵兵御發令以前則明治六年徵兵年齡以上ノ者假令ハ弘化年度生ノ嗣發子ヲ離縁シ更

ニ定メタル嗣子ハ該御指令ニ關セズ石主ノ年齢ニヨリ免役ニ屬スヘヤ哉
右相伺候條御明示有之度候也

〔指令〕 伺之趣左ノ通可相心得事

第一條 徵兵年齢以後ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ分家ニ非ザル女戸主へ入夫トナス者ハ
年齢五十歳未満ノ者ノ養子又ハ相續人トナス者同一ナルヲ以テ其他ノ子孫ヲ以テ
更ニ定メタル嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵兵事務條例第百五十七條ニ據リ免役ニ屬セズ
第二條 徵兵令發行ノ節既ニ年齢ヲ超過セシ養嗣子クリテ十二年十月二十七日以後
離縁シ更ニ定メタル養嗣子ハ該條例第百五十八條ニ據リ免役ニ屬セズ

警視廳一御達

十四年十月十五日

警察署

行旅疾病ニ罹リ或ハ旅費空乏ニテ郷里へ返送難出又同様ノ者郡區役所戸長役場等ヨリ
送付有之節ハ自今市ヶ谷監獄署へ送付可致此旨相達候事

(畢)

明治史料

〔十六日〕自_二椽木縣
下足利_一至_二群馬縣
下桐生_一并_二自_二島根
縣_一米子_一至_二同_二堺_一電
線架設落成ス○議
官安場保和於_二故
國肥後熊本_一結_二團
政黨_一命_二曰_二紫_一溟會_一
其主義姑息反_二輿
論_一者_一云_二〇式部頭

官令全報 都 鄙 日 乘

紀元二千五百四十一年
清曆光緒七年辛巳
西曆一千八百八十一年

起明治十四年九月十六日至同十月十五日

十六日 金曜日 曇 舊七月廿三日 正午寒暖計八十一度
防火線路 東京府廳内へ今般防火線路ニ當ル方面ノ建築
調査委員局ヲ設ケテラレタルコト付警視廳ノ吏員之カ掛トナリ
府廳官吏ト共ニ事ヲ取扱レ又防火線路調査掛警察使ハ區長
ト協議ノ上事務ヲ料理スト
不賣演說 板垣退助氏カ去ル十日大坂ノ戎坐ニ於テ大演
說ヲ開キタルニ其催主タル某氏カ一葉五錢ノ券ヲ發賣シタ
レハ氏ハ之ヲ見テ大ニ立腹シ余ハ演說ヲ賣テ糊口スル者ニ
非ヌ國家ノ爲メ同胞ノ爲メニ意見ヲ演ル者ナリ斯ノ如ク卑
劣ナル開場ニハ臨マシ何物ノ點兒カ余ヲ賣テ狡猾手段ヲ施
スアト既ニ袖ヲ拂フテ歸ラレントシケレバ催主ハ大ニ驚キ
本日ニ及デ臨場ナクンバ一大事ナリト種々謝言シ終ニ代價
ハ元へ戻スト云フコトニテ氏モ漸ク承知シ演說アリタリト云
フ世ニ其名ヲ賭シテ放屁的ノ演說ヲ爲シ落語家輩一般ニ代
價ヲ取ル者之ヲ聞テ其良心ニ愧ルナケン哉乎噫

十七日 土曜日 曇 舊廿四日 正午寒暖計八十一度
外債募集 大坂ノ新聞ニ之ノ有リ曰ク東京ノ或ル銀行ニ

日 乘

第六十三号

從二位勳二等坊
城俊政薨

〔十七日〕特旨贈從五位故武田信廣信廣華族松前地廣祖先以有功北海道開闢也○府下日吉神社公園地改稱永田岡公園〔十八日〕和蘭國王大叔顯利ノリテリツキ親王薨○開拓使設立函館

大坂ノ或ル銀行へ送リシ書狀ノ端ニ豫テ世上ニ喋々スル外債一件ハ彌々内決ニナリ其金額ハ五千萬弗コテ我銀行ハ或ル貨額ノ關涉ナル、處ナレバ極密ニ云々ト有シテ瞥見セシト

日本民法 像テヨリ法制部ニ於テ編纂中ナル民法ハ各國へ對シテ其權チ有スル事ハ英佛米ニ亞ク者ナリト聞ク人心可驚 沖繩縣人ハ從來新聞雜誌等ハ嘗テ讀ザリシガ彼ノ輿論チ喚起シタル開拓使一件ノ起リシヨリ其不正ノ舉動タルチ看認タルニヤ急ニ諸新聞雜誌チ購求シ有事件ヲ論シタル項チ頻リニ講讀スルト云フ

外國出品 各官省ヨリ外國博覽會及ヒ共進會等へ出品スル節ハ物品ヲ送致スル前ニ目錄ヲ農商務省へ差出シ且ツ送致チ托スベキ事トシ其賞牌賞狀モ同省ニ於テ受渡サル、事ニナレリト

新聞改題 暗々地ニ施無黨チ庇護スル魯國ノゴロス新聞ハ魯國政府ノ政界チ烈シク攻撃シタルチ以テ過般發行停止チ命ゼラレシコ今回其題号チユノガゼソント、改メ發行セリ名コソ變レ其主義ニ至リテハ依然タルゴロスナリト云

十八日 日曜日 晴 舊廿五日 正午寒暖計八十五度 法官會議 司法省ハ本年九月チ始メトノ自今毎年九月ヨリ各地方裁判所ノ判事檢事一名ツ、出京セシメ會議チ開カ

博物場落成○曹

洞宗改中教院ヲ爲ス曹洞宗務支局ト○以昨十七日武藏相摸有志者開ニ懇信會於神奈川驛名古屋樓會者六十有餘名頗極盛宴ニ云○陸軍卿班ニ示陸軍警察假規則

〔十九日〕濠洲メルボン府博覽會贈

ル、ト聞ク

日本可伐 明治十年以來清國欽差大使何如璋ノ隨官トナリテ吾邦ニ駐劄セシ沈梅溪ナル者ハ其郷土ニ於テハ豪族ノ聞ヘアリ殊ニ有爲ノ士ナリト云フチ以テ夙トニ季鴻章ト交リ深ク隨官トナリテ來リシモ其實季氏ガ内意チ含ミテ竊カニ探偵スル所アリシ由ナルガ嚮ニ歸國シ昨今日本可伐ノ論文チ草シ之ヲ政府ニ建議シ頻リニ季氏ト謀リイルト云フ咄汝チ沈梅溪何ノ名チ以テ師チ起サントスル者ソ縱ヘ其有名無名ニ拘ワラズ我ト兵馬ノ間ニ見ント欲スル心コソけなげナレ我レ彈丸ノ小土ト雖トモ大倭男兒其人猶ホ百萬チ以テ算フベシ我レ砲鎖ヘ丸竭キ全國舉テ焦土トナラスンハ必ラ大倭勁馬チ泰山ニ立テ旭旗チ北京城中ニ翻カヘシ汝チガ首級チ藪街ニ串シテ以テ城下ノ盟ノ血祭ニ供スベキノミ共進會費 來十五年二月東京山下門内舊博物局ノ跡ニ於テ開設ナル勸物共進會ノ費額ハ一萬五千圓山林共進會ガ五千五百七十五圓ト豫定サレシト聞ク

航海進步 風帆船會社ノ謙信丸ハ去ル五月廿五日午前コ横濱チ出帆シ八月一日午後六時ニ恙ナク「オ、スタラリア」シトニ「港」着シタル旨報知アリタルカ同船ノ乘組ハ日本八ノミコテ航海ノ日數ハ六十八晝夜ト四時四十五分航行セシ里程ハ六千四百廿六一ニテ平均一時間ニ三三三二五ニチ

四

褒賞我邦出品人
人名等級如左
一等金牌銅器金澤
田中孫平一等金
牌相當賞狀教育
器具文部省黒色
印刷墨同色附印
刷墨各紙類印刷
局一等銀牌七寶
起立工商會社柴
火新煙社一等銅
牌漆器新井半十
郎起立工商會水

走リシナリト云フ

十九日 月曜日 晴 舊廿六日 正午寒暖計八十七度

政府被告 舊高島坑ノ主タル後藤象二郎氏ニ係リタル訴
ヲ起セシ葡葡人「ローヤ」ハ該訴件ヨリ生シタル事トカコテ
過日我日本政府ヲ被告トシ東京上等裁判所ニ出訴シ六萬千
四百八十一弗廿錢ト其利息ヲモ要求セシカ同裁判所於テ
受理セラレス直チ却下コナリタルハ是ヲ不當トシテ更ニ
大審院へ上告シタルヨシ我政府カ内國ノ事ニ連帯シ被告ト
ナリタルハ是ヲ祖ト云フヘシ

乘馬競會 本月廿四日三田育種場ニ於テ乘馬共進會ヲ催
サレ當日ハ御料ノ馬ヲ始メ華族及ヒ官吏モ各々飼立シ乘馬
ヲ差シ出ル、ト云フ共進會已ニ馬ニ及フ想フニ他日權若ノ
共進會モ有ナランヨシシノ大宮人ハいぞまわれや馬くら
ベして今日も遊ばん眞ニ太平ノ象トヤ思ハレテイト賢コキ
コソナル

廿日 火曜日 曇 舊廿七日 正午寒暖計七十二度
終身懲役 自今終身懲役ヲ申渡サレタル者ハ一時仙島監
獄署へ留置キ百名以上ニ及ヘハ樺戶集治監へ送致スル由ニ
聞ク斯ノ如キ成規ハ實施ナキコソ願ハシケレ
定額減殺 新刑法治罪法ヲ實施セラル、コ方リテハ東京
裁判所ノ事務モ減スルカ爲メカ從來四萬圓ノ定額ヲ來十五

五

口細工滋賀縣西
村藤七漆器鹽田
眞一等銀牌相當
賞狀生糸農務局
材木山林局、藪農
務局一等銅牌玄
白米常平局滋賀
縣城多善九郎野
花菜菓其他種實
農務局以上一等
十七人以下零之
二十日內務省置
鳥取縣假事務所

年度ヨリ二萬圓ニ減殺サレ大審院ヲ始メ各裁判所モ同様多
少ツ、減額ヲ新設ノ裁判所へ配付セラル、ト聞ク
餘毒未治 京都府ノ警部及ヒ探偵掛リ數名ハ前知事榎村
氏ノ在職ノ日警察豫備金八千餘圓ヲ私借セシカ新知事赴任
以來之ヲ返宥シテ月俸ノ内ヨリ幾分ツ、カ返濟セシメシコ
斯ノ如キ不正ノ輩ナレハ嚮キニ免職トナリ之ヲ返納スルコ
身代限リナシテモ及ハサルトテ竊カニ東京ニ走り潜伏ス
ル者モアレハ右金額ノ調理セサルニ掛官ハ頗フル因却テ極
ムルト云フ是レ誰人ノ餘毒歟
賞賜改正 從來各官吏ノ博覽會或ハ共進會等ノ兼務ニ勉
勵セラレシ者ハ應分ノ賞金ヲ下賜セラル、例ナリシカ近
々事務振方ノ等級ニ應シ銀銅杯ニ金圓ヲ添ヘ下賜スル事ニ
改正セラレ、ト云フ是レ本人ノ功績ヲ永遠ニ遺スノ趣旨ニ
由ラレシナルヘシ

廿一日 水曜日 雨 舊廿八日 正午寒暖計五十八度
民業干涉 赤羽工作分局ハ大ニ改革ヲ行ナヒタルヲ以テ
自今民間ノ職工ガ成シ得ベキ事業ニハ成ベキ干涉セズ只ダ
民間コテ爲シ難キ作業ノミニモセラル、ト云フ政府ノ職務中
人民ト利ヲ争フ部分ニアル者ハ舉ゲテ斯ノ如クアラマホ
シ此ニ付テモ印刷局ノ團扇卷紙半切筆墨印肉藝娼舌々寫眞
屋サンナゾハ餘リ御利口ノ事トモ感服仕マツラズ

六

○米國大統領「カ
ルフィルト」氏薨ス○
鳥取縣軍管編入
第四軍管

〔廿一日〕布告監
獄則

〔廿二日〕東伏見
嘉彰親王爲英國
王孫接待官

〔二十三日〕特旨賜
祭漆料金幣千圓
于故坊城俊政
〔廿四日〕昨廿三

廿二日 木曜日 曇 舊廿九日 正午寒暖計六十二度
魯國通信 魯國虛無黨ノ員數ハ實ニ驚愕ニ堪ザル速力ヲ
以テ増加シ貴族社會ノ中ニ於テモ現ニ帝王獨制ニ不滿ヲ抱
キ虛無黨ノ陰謀ニ與ミシテ皇帝并ビニ其大弟「ラヂミル」親
王ヲ謀弒セント企ツル者多シト云フ

廿三日 金曜日 雨 舊三十日 正午寒暖計六十度
意想百出 例ノ小西甚之助氏ハ同地ノ有志者ガ開拓使ノ
拂下ノ件ニ付過激ノ説ヲ主張シ正義ノ刀刃ヲシテ〇〇ノ首ニ
戴セント欲スルガ如キ勢ナルヨリ之ヲ慰撫セン爲メ左ノ一
書ヲ有志者ニ贈附シタリト曰僕曩キニ北地之怪聞ト題セル
一書及頒布候諸君ハ非常ノ感激ヲ起シ今ヤ殆ソト難制場
合ニ至リ是レ素ト愛國心ノ然ラシムル所深ク感佩之至ニ被
存候然レハ凡ソ一害アルモノハ一利亦之レニ伴ナフモノニ
テ該件ノ如キ實ニ切齒扼腕ニ耐ヘザル義ニハ候得共亦無上
ニ憂フベキ者ニモ無之彼ノ低價拂下（佗ノ不當ハ姑ク置ク
）ノ如キ我カ國民ハ少ナクモ三百萬圓ノ損毛ニハアレ今之
レナキ國ノ總民ニ制賦セバ一人僅カニ八九錢ノ片金ニ過サ
ルナリ而シテ是レ等ノ爲メ全國ノ總民ガ政治上ノ義氣ヲ發
生シタルノ功驗ハ眞ニ驚クベシテ維新以來未ダ曾テ斯ノ
如キモノハアラザルナリ然レバ則テ此八九錢ノ片金ハ是レ取
モ直サズ各自ガ彼ノ貴重ナル政治上ノ義氣ヲ購求シタル者

七

日府下有志者鑿建
板垣退助中島信
行等於上野公園
精養軒此日會者
福地源一郎林正
明以下數十名皆
以自由主義ヲ自任
者ト云

〔廿五日〕在京鹿兒
島縣士會兩國中
村櫻祭西鄉隆盛
以下城山戰死者
靈隆盛長子菊次

ニテ其低價ナル豈無利息三十ヶ年賦ノ比ナル可ヤ嗚呼全
國ノ總民今ヤ均ク政治ノ義氣ヲ購求セリ其立憲政體ノ
自カラ實施アル政シテ俟ツベキナリ夫レ歐米各國ノ立憲ハ
概テ民血漂杵ノ結果コアラザルハ莫シ爾ルニ我邦ハ幸ニ此
瑣少ナル無形ノ民血ニ由テ遂ニ之ヲ得ルニ至ラントハ是レ
豈喜フベキニ非ズヤ是レ豈ニ賀スベキニ非ズヤ諸君等能ク
茲ニ一考セバ亦決シテ無上ニ憂フ可ラザルヲ諒スベケレバ
摠テ輕躁過激悔テ後日ニ取ルコト勿レ然レハ諸君モ志士ナ
リ諸君モ義士ナリ豈天與ノ大權ヲ抛擲シテ之ヲ默假スベキ
モノナランヤ宜シク正理公道ニ準據シテ俱ニ進ンデ應分ノ
努力ヲ盡サズンバアル可ラザルナリ唯ダ之レヲ平穩ニスル
ニ有之候此段深ク御勘察相煩ハシ度候也

田象二評 婉曲說來リ不見悲憤所反テ有
慨無限之情未段堂々正理結了得重於
千鈞

廿四日 土曜日 曇 舊八月一日 正午寒暖計四十四度
復讎判決 復讎ヲ以テ聞ヘタル白井六郎ハ左ノ如ク宣告
ヲ受タリ

郎與^レ之^二

〔廿六日〕橫濱生糸
荷預商行與外國
商賈紛議將^テ核^ス復^ス
其商權^ニ蓋^シ宿志^ヲ發^ス
于此也^云

〔廿七日〕北京カゼ
ツト曰^ク清國軍機
大臣左宗棠上^リ辭^ス
表^ス

〔廿八日〕昨廿七日
始開農商工上等
會議順次會者^ス河

福岡縣下筑前國夜須郡野島村四百七十八番地土族

白井長男

白井六郎

其方儀明治元年五月二十三日夜父母ノ寢所へ忍入父亙理及
ビ母ヲモ殺害シ嬰孫ノ妹ニマテ傷ヲ負ハセ立去者アリ其場
ニ至リ視ルニ其慘狀ヲ見ルコ忍ビス此暗殺ヲ爲シタル者ハ
干城隊ノ士數名ニシテ父母ニハ罪ナシト聞キ幼年ナガラモ
痛忿ニ堪エズ必ス復讐セザル可ラズト思ヒ後チ父亙理ヲ殺
害シタル者ハ右隊士一瀬直久ニシテ又右暗殺ヲ爲シタル輩
ニハ罪ナク却テ父亙理ハ死後冤枉ニ陷イラレシト聞キ之
ヲ事實ト見認ルヨリ外ナシト決シ明治十三年十二月十七日
鶴沼不見人宅ニ於テ一瀬直久ニ出遇父ノ仇覺悟ヲセヨト聲
掛ケ豫テ携ル短刀ヲ以テ闘ヒ卒ニ殺害ニ及ビ直ニ警察署ニ
詣リ自首ス右科改定律例第二百三十二條ニ依リ謀殺ヲ以テ
論シ士族ナルニ付改正刑律ニ照シ自首スト雖ドモ首免ヲ
與フルノ限コアラザルコ依リ禁獄終身申付ル

明治十四年九月廿二日

東京裁判所

廿五日 日曜日 曇 舊二日

正午寒暖計六十八度

鎮臺里程

陸軍省ヨリ各鎮臺〔東京鎮臺ヲ除ク〕ヘノ里程

ヲ聞クコト曰ク第二鎮臺宮城縣陸前仙臺營所へ九十二里三十

一丁第三鎮臺愛知縣名古屋營所へ九十四里五丁第四鎮臺大
阪府大阪營所へ百四十四里五丁第五鎮臺廣島縣安藝國廣島

- 瀬眞孝 榎村正直
- 細川潤二郎 大鳥
- 圭介 土方久元 宍
- 戸昌岩 崎小太郎
- 吉原重俊 成川尙
- 義石橋 重朝 蜂須
- 賀茂 詔白根 專一
- 伊東巳代吉 在田
- 口元 學田中芳男
- 井上 毅今村和郎
- 黒川 誠一郎 松岡
- 康毅 赤松則良 柳
- 樽悅 中島盛有 安

營所へ二百卅四里二丁第六鎮臺熊本縣熊本營所へ三百卅五
里廿五丁

國會建議

夢歟夢ナレバ則チ消ザラノチ欲ス眞歟眞ナレ

ハ我日本ハ是ヨリ富嶽ノ安キヲ致サン之ヲ聞ク立憲政体尙
早矣國會開ク可ラズト主張セシ某參議ハ昨今ニ至リ俄然ト
前説ヲ變シ其同寮ニモ相談ナク一己ノ意見ヲ以テ國會ノ開
設一日モ遲延スベカラストノ建議ヲサレシト云フ又聞ク政
府ガ變キニ統計院ヲ置カレ維新以來ノ出納ヲ明細ニセラル
ハ早晩國會ヲ開ク時算ニテ其引繼ノ節餘リ不都合不仕懸
ナキ様ニ遣ヒ拂ヒテ調ベ置ル、爲ナリト云フ夢歟夢ナレバ
則チ消^ル勿^レ眞歟眞ナレバ則チ政府ハ是ヨリ枕ヲ高フスル
ヲ得^{ベシ} 甲象二評 此是開拓使官有物所分^ク影響乎

廿六日 月曜日 雨 舊三日

正午寒暖計六十五度

首級用心 太政官ノ受付へ此程黒田清隆殿西國某ト表書
シタル郵便端書ガ頻來スル由ナルガ何レモ開拓使處分ノ不
正不義ヲ論辨セシ者ニテ中ニハ酷々過激ナル文辭モアリテ
殆首の用心あるべしナド、認メアルヲ見受ケシ者アリト云
フ

幕吏不啻 之ヲ朝野新聞ニ見ル曰ク去ル二十一日函館發
ノ急報ニ如何ナル次第ナルヤ去ル十九日午後正理黨〔非理
黨アルカ故ニ斯ク云フ〕山本忠禮工藤彌兵衛ヲ始メ警察署
へ拘引セラレ翌二十日井口兵右衛門杉野源次郎林宇三郎石

田定則山崎直胤
河頤秀治上野景
範原隆義石井省
一郎以下云々

〔三十日〕有志者設
立大日本水産會

〔十月一日〕布告監
獄則目錄○布告

與英國郵便爲換
定約之條件

〔二日〕新橋鐵道局
廢修繕科併建築
科更改庶務係

田啓藏小野龜次石川小十郎牧田藤五郎ヲ拘引シ本日ハ各町
議員協議人等凡ソ八九十名ヲ拘引シ市中ノ騷動一方ナラス
各町諸所へ巡查等數名出張シ往來ノ人ヲモ檢査シ此上ハ只
人民殘テス應制ニ死セントスル有様アリ然ルニ此拘引ノ原
由ハ強テ拂下ヲ出願セシテ以テ不都合ナリト爲スニアリト
尙ホ巨細ハ取調ヘ通信スヘシ云々」嗚呼全國同胞兄弟ヲ吾
人ノ兄弟タル函館ノ兄弟ハ業己ニ斯ル慘狀聞クニ堪ヘサル
苦淵ニ落陷セテマツニ嗚呼全國同胞兄弟ヨ之ヲ見テ其身ニ刺
衝ヲ與ヘサル歟余ノ擬及ノ筆ハ正サニ摧ケテ日本刀ノ室中
ニ鋒鏘スルヲ覺フルナリ

田象二曰 易水之歌今日不レ謳ハ夫レ何日謳焉

廿七日 火曜日 曇 舊四日 正午寒暖計八十二度
酒造檢査 大藏省ニ於テ租稅局出張所ヲ全國諸所ヘ設置
セラレシニ付本年各府縣ノ酒造檢査費ハ成ベク減セラル、
ト云フ

商人聯合、嚮キニ設立セシ橫濱聯合生糸荷預所ノ儀ニ就
テ外商ハ頗ブル不平ヲ懷キ會合決議ノト荷預所ヨリ一切買
取ラザル旨ヲ廣告シタル所ノ内商ハ悉ク聯合シ彼等彌々其
意ナレハ我々モ全國有志ノ生糸商ト聯合シ彼等ニ一切賣却
セスト益々其意ヲ堅クシ我商權回復ノ大目的ヲ提起セタリ

〔三日〕兩皇后賜金
幣千圓ヲ南都興福
寺ニ以テ觀再興也、
○一品淑子内親
王薨去ス内親王仁
孝天皇ノ々女今上
天皇ノ皇叔母愛國
志厚ク今帝敬ニ事ス之
享年

至是薨天下哀之
〔四日〕内務卿班下
結約合衆國政府
難破船舶費用償

廿八日 水曜日 曇 舊五日 正午寒暖計七十八度
華族奮發 華族ハ一般ニ世論ノ痛痒ニ觸感セザル一種ノ
人類ナリシカ彼ノ開拓使一件ニ關シテ大ニ奮激スル所アリ
シニヤ二三ノ有志ガ聯合シ還幸ヲ待チ奉リ充分ニ意見ヲ奏
上セント約定書ヲ交換セシ者アリト云フ以テ彼ノ件ノ非舉
タルノ輿論ハ動カス可ラザルヲ知ル可シ

農談會同 去ル廿九日府下荏原郡役所ニテ第一會ヲ開キ
シ農談會ハ府廳勸業課ヨリ五名大日本農會ヨリ二名ノ出席
アリ會頭ハ同郡北澤村ノ鈴木久太夫ニテ同氏ハ年齒六十有
餘才日本在來ノ農事ニ於テハ頗アル實驗ニ富タル人ニテ他
郡ニモ多ク得難キ會頭ナリト云フ

裁判所印 各裁判所長ノ官印ハ從來區々ナリシ處自今一
定シテ司法省ヨリ下附ヒラルト聞ク

廿九日 水曜日 雨 舊六日 正午寒暖計六十九度
新聞檢閱 東京ヲ除キ各府縣ニ於テ發行スル新聞紙并ニ
雜誌類ハ其地警察署ニ於テ調査セシ所今度各裁判所へ檢事
ヲ置ル、ニ付テハ右等ノ調査ハ悉皆檢事ニ於テ引受ラル、
ト云フ

三十日 金曜日 曇 舊七日 正午寒暖計六十八度
非養育院 開拓使大書記官安田時任等ガ冠ヲ掛テ關西賀